

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 情報学部 情報学科

1. <体系的な教育課程が編成されているか不明確> 1
科目区分において、「専門科目群」の3つのトラックは、「実践系」、「基盤系」、「理論系」に分類されているが、例えば次のように体系的な教育課程が編成されているか疑義があるため、各科目をどのように分類しているのか、授業内容もふまえて、教育課程の体系的性が担保されていることを改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）
 - ・「分散システム」は「基盤系」として位置付けることがふさわしい科目であると考えられる。
 - ・「計算機アーキテクチャー」を学修する際には「論理設計」で学修する知識が必要であると考えられる。
 - ・「情報セキュリティ」を学修する際には「情報ネットワーク」で学修する知識が必要であると考えられる。

2. <履修区分が不明確> 15
「コンピュータプログラミングⅡ」の授業計画において、「コンピュータプログラミングⅠの復習」が計画されているが、「コンピュータプログラミングⅠ」が選択科目であるため、履修区分が適切に設定されているか疑義がある。このため履修区分を適切に改めるか、「コンピュータプログラミングⅠ」が選択科目として設定されている妥当性を説明すること。（是正事項）

3. <配当年次の不備> 20
完成年次の時間割表において「IT産業論」と「地域情報PBL」が同時に開講されており、「組込みシステム」、「分散システム」の配当年次がシラバスの履修年次と一致していないなど、各科目の配当年次が適切に設定されているか疑義があるため、確認を行い適切に改めること。（是正事項）

4. <PBLの内容が不明確> 26
科目区分における「PBL」に配置された授業科目の内容が不明確であるため、以下の点を明らかにすること。（是正事項）
 - (1) 本学の「PBL」に対する定義を明らかにし、学生が科目を履修する前にどのように内容を説明して指導するのか明らかにすること。
 - (2) 「情報リテラシー」が選択科目である中、「PBL」に配置された科目を学生が履修する上で、情報モラルをどのようにして身に付けさせるか明らかにするか、必要に応

じて「情報リテラシー」を必修科目に改めること。

(3) 地域情報を冠する科目は専任教員を4つのユニットに分けて実施し、完成年次の時間割表では各科目の一部を1年次から4年次まで合同で授業を行う計画であるが、各ユニットで想定されるプロジェクトのテーマを学生がどのように設定し、各担当教員は各科目の到達目標をどのように評価するのか不明確である。各ユニットで想定されるプロジェクトの例を示しつつ、どのように授業が実施される計画であるか明らかにすること。

(4) 「IT実習Ⅰ～Ⅳ」の到達目標が抽象的な内容に留まっているため、担当教員が掲示する実習テーマについて、想定される「テーマ」と「各種ツール」を示しつつ、具体的な授業計画を明らかにすること。

(5) インターンシップについて、受入先を学生が確保するように見受けられるため、大学としてふさわしい実習水準をどのように確保するのか明らかにすること。

5. <教員配置が不明確> 45

「コンピュータプログラミングⅠ・Ⅱ」は本学部の教育課程において重要な科目に位置付けられると見受けられるが、専任の教授又は准教授が配置されていないため各科目の教育課程における位置付けについて明らかにするか、教員の配置を改めること。

(是正事項)

6. <専任教員数が設置基準を満たしていない> 49

専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(是正事項)

7. <施設の整備計画が不明確> 56

施設の整備計画として新たに整備される「ゼミ室」が本学部の専用であるか不明であり、「PBL」において学生が自主的に課題に取り組む施設が確保されているか不明であるため、本学部の設置に伴い必要となる施設が十分に確保されていることを明らかにしつつ、図面を適切に修正すること。(是正事項)

8. <授業の実現可能性の疑義> 59

「地域情報PBL入門」、「地域情報PBL基礎」、「地域情報PBL」、「地域情報プロジェクト」は完成年次の時間割表では各科目の一部を1～4年次まで合同で授業を行う計画であるが、「セミナー室」に最低100人の学生に対して各ユニットの専任教員が授業を実施できるか不明であるため、セミナー室のレイアウトを示しつつ、授業が支障なく実施できる計画であることを明らかにすること。(是正事項)

9. <設備の整備計画が不明確> 63

本学部の設置に伴う設備の整備計画が不明であるため、教育課程を踏まえつつ必要となる設備が整備される計画であることを明らかにすること。その際、実験演習室に配置する設備については授業の実施体制も考慮しつつ具体的に説明すること。(是正事項)

10. <学生の利益保護> 66

学生がプログラミング科目を学修する上で必要となる備品を明らかにしつつ、当該備品を学生が準備する必要があるかいつまでに準備すべきであるか明らかにすること。(是正事項)

11. <入学者選抜の方法が不明確> 68

一般入試前期日程と推薦入試において以下の点を明らかにすること。(是正事項)

(1) 一般入試前期日程における2方式を受験生がどのように利用できるか明らかにしつつ、2方式を大学としてどのように評価するか明らかにすること。

(2) 推薦入試の出願条件である「大学入試センター試験の数学の受験」は、入試の時期によっては適切な条件であるか疑義があり、また、入学後の履修指導で活用するのであれば、当該試験の結果が履修指導に活用されることを明確にする必要があると考えられるため、推薦入試における出願から合格発表までの時期を明らかにしつつ、必要に応じて推薦入試の出願条件を改めること。

12. 審査意見への対応以外の変更事項 72

1) 誤記の修正

2) 申請書提出時点(3月)より補正申請書提出時点で更新(変更)する必要性のあったもの

3) 教員組織の補正に伴う職員就業規則の変更に係るもの

※ なお、この審査意見への対応を記載した書類の中では、ここに記載する資料については「添付資料」として表記し、設置の趣旨等を記載した書類で使用されている資料については、「資料」として表記し、資料番号も設置の趣旨等を記載した書類で使用されている番号を使用するものとする。

1、〈体系的な教育課程が編成されているか不明確〉

科目区分において、「専門科目群」の3つのトラックは、「実践系」、「基盤系」、「理論系」に分類されているが、例えば次のように体系的な教育課程が編成されているか疑義があるため、各科目をどのように分類しているのか、授業内容もふまえて、教育課程の体系的性が担保されていることを改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- ・「分散システム」は「基盤系」として位置付けることがふさわしい科目であると考えられる。
- ・「計算機アーキテクチャー」を学修する際には「論理設計」で学修する知識が必要であると考えられる。
- ・「情報セキュリティ」を学修する際には「情報ネットワーク」で学修する知識が必要であると考えられる。

(対応)

本学の「専門科目群」の3つのトラックの体系的性について明確に説明するため、以下のとおり修正する。

- 1 科目の「実践系」、「基盤系」、「理論系」への分類と課程の体系的性の考え方について
本学では専門科目群の科目を帰納的学習の考え方に基づき、以下のように分類している。

「実践系」科目は各トラックの概要について具体的事例から学ぶ入門的な位置づけの科目であり、1・2年生に担当している。

「基盤系」科目では各トラックの内容の学修を進めるために必要となる技術を中心に学ぶ科目であり、2・3年生に担当している。

「理論系」科目において各トラックで用いる技術の根拠となる理論を深く学ぶ科目であり、3・4年生に担当している。

これら「専門科目群」の科目間の前後関係（依存関係）と関連性を考慮し、教育課程の体系的性を表現するものカリキュラムツリー（添付資料1）を作成した。このカリキュラムツリーを学生への履修指導に用い、教育課程の体系的性の維持に努める。

本学では「専門科目群」の科目を選択科目としているため、学生が「実践系」や「基盤系」に偏った履修や、互いに関連のない科目ばかりを選択するといった体系的のない履修を行わないよう、科目選択については学生に自由に選択させるのではなく、ゼミ担当教員による個別の対面での履修指導を徹底することにより教育課程としての体系的性を確保する。教員による履修指導の際には、基本履修モデルを参考にし、カリキュラム

ツリーで示された依存関係などの関係性が深い科目を履修するように指導する。

帰納的な学習の場合、後段で学ぶ内容については前段では詳細については触れずブラックボックスとして扱うことになる。このため、帰納的な学習が難しいと考えられる領域（ICTトラックの一部の科目）では、「基盤系」の「計算機アーキテクチャ」を「実践系」よりも先に配置するといった工夫もしている。審査意見に基づき、科目間の関係を再度点検した結果、ICTトラックについては2以下に記載するように科目の位置づけを一部変更する。

2 「分散システム」を「基盤系」として位置付けることについて

「分散システム」は、当初は事例を中心とした実践的な教授内容も検討していたが、実際の授業内容が分散システムを実現するために必要となる技術が中心となるため、「実践系」から「基盤系」に変更する。

3 「計算機アーキテクチャ」と「論理設計」の内容について

帰納的な考え方に基づくと、「計算機アーキテクチャ」の学習段階では「論理設計」の内容はブラックボックスとして取扱い、その後、「論理設計」において、当初ブラックボックスとしておいた内容の詳細について学習することになる。しかしながら、シラバスに記載した授業内容が、一部においてあたかも「論理設計」の内容を前提として「計算機アーキテクチャ」の授業を行うように受け取れるようになっていたため、「計算機アーキテクチャ」の履修段階では「論理設計」の内容をブラックボックスとして取り扱うことをシラバスに明記するように変更する。

4 「情報セキュリティ」と「情報ネットワーク」の順序の入れ替えについて

当初の設計では「情報セキュリティ」について学ぶ段階では「情報ネットワーク」の内容はブラックボックスとして取り扱うことを想定していたことと、「情報セキュリティ」については比較的早い段階で学ぶべきであるという考えからこのような順序としていたが、授業内容からもここに依存関係があることは明らかであり、「情報ネットワーク」をブラックボックスとして「情報セキュリティ」を教授するのではなく、これらの科目の位置づけを入れ換え、「情報ネットワーク」を「実践系」科目、「情報セキュリティ」を「基盤系」科目とし、「情報ネットワーク」を先に履修することに変更する。

そして、「情報ネットワーク」を学んだ上で「情報セキュリティ」を学ぶよう履修指導していく。

資料1 福知山公立大学情報学部カリキュラムツリー

(新旧対照表) 教育課程等の概要

変更内容 「分散システム」2単位を ICT トラックの「実践系」から「基盤系」に変更する。

「情報セキュリティ」2単位を ICT トラックの「実践系」から「基盤系」に変更するとともに、配当年次を「1・2後」から「2・3前」に変更する。

「情報ネットワーク」2単位を ICT トラックの「基盤系」から「実践系」に変更するとともに、配当年次を「2・3前」から「1・2後」に変更する。

新	旧
資料 3 教育課程等の概要（補正後）	資料 2 教育課程等の概要（補正前）

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧
<p>「<u>計算機アーキテクチャ</u>」 講義等の内容</p> <p><u>本講義では、基本的な計算機の構成と動作原理について学ぶ。演算装置や記憶装置から成る計算機について、その構造と各部の働きを理解し、計算機命令がどのように実行されるかについて概要を理解する。演算装置については特徴や動作など概要の理解を主目的とし、その実現方法については 3・4 年次の論理設計の講義において学習する。</u></p> <p>「<u>論理設計</u>」 講義等の内容</p> <p>現在、パソコン、テレビ、スマートフォンなどの情報家電だけでなく、エアコン、冷蔵庫や炊飯器などの白物家電、自動車や電車などの輸送機器など身の回りにある様々な機器にデジタル回路が利用されている。本講義では、デジタル回路の理解や設計に必須となる記号論理学と論理代数、論理回路について学ぶ。記号論理学については命題論理を中心に学び、次いで</p>	<p>「<u>計算機アーキテクチャ</u>」 講義等の内容</p> <p>基本的な計算機の構成と動作原理について学ぶ。演算装置や記憶装置から成る計算機について、その構造と各部の働きを理解し、計算機命令がどのように実行されるかについて概要を理解する。<u>計算機の基本構成や動作原理、CPU の基本構成、記憶装置、入出力システムの概要について学ぶ。</u></p> <p>「<u>論理設計</u>」 講義等の内容</p> <p>現在、パソコン、テレビ、スマートフォンなどの情報家電だけでなく、エアコン、冷蔵庫や炊飯器などの白物家電、自動車や電車などの輸送機器など身の回りにある様々な機器にデジタル回路が利用されている。本講義では、デジタル回路の理解や設計に必須となる記号論理学と論理代数、論理回路について学ぶ。記号論理学については命題論理を中心に学び、次いで</p>

論理代数と論理式、論理関数について学ぶ。これらをもとに <u>1・2年次の計算機アーキテクチャで学んだ各演算用組み合わせ回路の設計や解析、順序回路の設計について理解する。</u>	論理代数と論理式、論理関数について学ぶ。これらをもとに <u>組み合わせ回路の設計と解析、順序回路の設計について理解する。</u>
---	---

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>(1 ページ)</p> <p>シラバス目次</p> <p>「情報セキュリティ」 学年 <u>2・3 開講期 前</u></p> <p>「情報ネットワーク」 学年 <u>1・2 開講期 後</u></p>	<p>(1 ページ)</p> <p>シラバス目次</p> <p>「情報セキュリティ」 学年 <u>1・2 開講学期 後</u></p> <p>「情報ネットワーク」 学年 <u>2・3 開講学期 前</u></p>
<p>(55 ページ)</p> <p>「情報セキュリティ」 履修年次 <u>2・3年次 開講期 前学期</u></p>	<p>(53 ページ)</p> <p>「情報セキュリティ」 履修年次 <u>1・2年次 開講期 後学期</u></p>
<p>(53 ページ)</p> <p>「情報ネットワーク」 履修年次 <u>1・2年次 開講期 後学期</u></p>	<p>(56 ページ)</p> <p>「情報ネットワーク」 履修年次 <u>2・3年次 開講期 前学期</u></p>
<p>(56 ページ)</p> <p>「計算機アーキテクチャ」 ナンバリング <u>BII1IT005B</u> 履修年次 <u>1・2年次</u> 授業の概要 本講義では、基本的な計算機の構成と動作原理について学ぶ。演算装置や記憶装置から成る計算機について、その構造と各部の働きを理解し、計算機命令がどのように実行されるかについて概要を理解する。<u>演</u></p>	<p>(57 ページ)</p> <p>「計算機アーキテクチャ」 ナンバリング <u>BII2IT006</u> 履修年次 <u>2・3年次</u> 授業の概要 本講義では、基本的な計算機の構成と動作原理について学ぶ。演算装置や記憶装置から成る計算機について、その構造と各部の働きを理解し、計算機命令がどのように実行されるかについて概要を理解する。</p>

<p><u>算装置については特徴や動作など概要の理解を主目的とし、その実現方法については3・4年次の論理設計の講義において学習する。</u></p> <p>(65 ページ)</p> <p>「論理設計」 ナンバリング <u>BII3IT014C</u></p> <p>授業の概要</p> <p>現在、パソコン、テレビ、スマートフォンなどの情報家電だけでなく、エアコン、冷蔵庫や炊飯器などの白物家電、自動車や電車などの輸送機器など身の回りにある様々な機器にデジタル回路が利用されている。本講義では、デジタル回路の理解や設計に必須となる記号論理学と論理代数、論理回路について学ぶ。記号論理学については命題論理を中心に学び、次いで論理代数と論理式、論理関数について学ぶ。これらをもとに<u>1・2年次の計算機アーキテクチャで学んだ各演算用組み合わせ回路の設計や解析、順序回路の設計について理解する。</u></p>	<p>(65 ページ)</p> <p>「論理設計」 ナンバリング <u>BII3IT014</u></p> <p>授業の概要</p> <p>現在、パソコン、テレビ、スマートフォンなどの情報家電だけでなく、エアコン、冷蔵庫や炊飯器などの白物家電、自動車や電車などの輸送機器など身の回りにある様々な機器にデジタル回路が利用されている。本講義では、デジタル回路の理解や設計に必須となる記号論理学と論理代数、論理回路について学ぶ。記号論理学については命題論理を中心に学び、次いで論理代数と論理式、論理関数について学ぶ。これらをもとに<u>組み合わせ回路の設計と解析、順序回路の設計について理解する。</u></p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(10 ページ)</p> <p>(4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>帰納的教育と科目群の配置</p> <p><u>本学部のカリキュラムでは専門科目を各トラックの概要について具体的事例から学ぶ入門的な位置づけの実践系科目、各トラックの内容の学修を進めるために必要となる</u></p>	<p>(4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>帰納的教育と科目群の配置</p> <p>専門科目を実践系科目、基盤系科目、理論系科目に分類するとともに具体的事例から理論へと進ませ、帰納的教育方法を実施する特徴あるカリキュラムを編成する。主要科目</p>

<p><u>技術を中心に学ぶ基盤系科目、各トラックで用いる技術の根拠となる理論を深く学ぶ理論系科目に分類するとともに具体的事例から理論へと進ませ、帰納的教育方法を実施する特徴あるカリキュラムを編成する。主要科目の中でも中核をなす演習系科目である「地域情報 PBL」等を重視し、個々の概念間の関係や当該事例の中での位置づけを強く意識させ、学習意欲や関心の維持を図る。これらの「専門科目群」の科目間の依存関係と関連性をカリキュラムツリーとして図示し、教育課程の体系性には十分に注意している。(資料7)</u></p> <p>1～3年次には「外国語科目群」を配置する。1・2・3・4年次には「一般教養科目群」の「自然系」科目や「地域理解科目」を含む「全学共通科目群」、同じく1・2・3・4年次には「専門科目群」というように、基盤科学や専門科目の知見・知識を学ぶ科目群を配置する。</p> <p><u>「専門科目群」に含まれる科目は選択科目としているため、学生が「実践系」や「基盤系」に偏った履修や互いに関連のない科目ばかりを選択するといった体系性のない履修を行わないよう、ゼミ担当教員による個別の対面での履修指導を徹底することにより教育課程としての体系性を確保する。その際には、カリキュラムツリーを用い、各科目間の関係性を確認して履修指導していくこととしている。</u></p> <p>(略)</p> <p>(22 ページ)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>(26 ページ)</p> <p>イ 履修指導方法 (略)</p>	<p>の中でも中核をなす演習系科目である「地域情報 PBL」等を重視し、個々の概念間の関係や当該事例の中での位置づけを強く意識させ、学習意欲や関心の維持を図る。</p> <p>1～3年次には「外国語科目群」を配置する。1・2・3・4年次には「一般教養科目群」の「自然系」科目や「地域理解科目」を含む「全学共通科目群」、同じく1・2・3・4年次には「専門科目群」というように、基盤科学や専門科目の知見・知識を学ぶ科目群を配置する。</p> <p>(略)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>イ 履修指導方法 (略)</p>
---	---

<p>〈科目配置の考え方〉 (略) (27 ページ)</p> <p>第1年次に配置されている「サービスエンジニアリング」、「データ可視化」、「オープンデータ技術」、「データマーケティング」、「地理情報システム」、「計算機アーキテクチャ」、「<u>情報ネットワーク</u>」、「人工知能」、「エンタテインメント情報学」、「IoT」、「メディア情報学」、「ゲーム情報学」については、高校卒業後すぐに履修する科目であるが、具体的な話題、発展の歴史、高度な概念は科目に特化した形で丁寧に導入することで、<u>学年が進んだ後での「理論系」科目などの基礎的で一般性の高い内容につなげられるよう配慮している。</u>また、<u>第1年次に配置されている科目の授業内容は帰納的学習に過度にこだわらず、基礎的な話題から始めることで、学生の負担を軽減している。</u></p> <p><u>本学部のカリキュラムでは「専門科目群」に含まれる科目は選択科目としているため、学生が「実践系」や「基盤系」に偏った履修や互いに関連のない科目ばかりを選択するといった体系性のない履修を行わないよう注意する。</u>そのために、<u>科目選択については学生に自由に選択させるのではなく、ゼミ担当教員による個別の対面での履修指導を徹底することにより教育課程としての体系性を確保する。</u>教員による履修指導の際には、<u>基本履修モデルを参考にし、先に挙げたカリキュラムツリーで示された依存関係などの関係性が深い科目を履修するように指導する。</u></p> <p>(略) (28 ページ)</p> <p>〈データサイエンストラックの基本履修モ</p>	<p>〈科目配置の考え方〉 (略)</p> <p>第1年次に配置されている「サービスエンジニアリング」、「データ可視化」、「オープンデータ技術」、「データマーケティング」、「地理情報システム」、「計算機アーキテクチャ」、「<u>情報セキュリティ</u>」、「人工知能」、「エンタテインメント情報学」、「IoT」、「メディア情報学」、「ゲーム情報学」については、高校卒業後すぐに履修する科目であるが、具体的な話題、発展の歴史、高度な概念は科目に特化した形で丁寧に導入することで、<u>あとでのより基礎的で一般性の高い内容につなげられるよう配慮している。</u>また、帰納的学習に過度にこだわらず、基礎的な話題から始めることで、学生の負担を軽減している。</p> <p>(略)</p> <p>〈データサイエンストラックの基本履修モ</p>
--	--

デル)

(略)

2年次には、1年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、更に自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し、3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは地域経営学部提供の科目を中心に履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「データサイエンス」トラックの基盤系科目と、「ICT」トラックの「情報ネットワーク」や「人間・社会情報学」トラックの「人工知能」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても視野を広げ理解を深める。一方で、PBLとしては「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

(29 ページ)

〈ICT トラックの基本履修モデル〉

(略)

1年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは情報学部提供の「データサイエンス入門」「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。さらに専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から「ICT」トラックの「地理情報システム」、「情報ネットワーク」、「計算機アーキテクチャ」を履修し、ICT 分野に関する情報通信技

デル)

(略)

2年次には、1年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、更に自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し、3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは地域経営学部提供の科目を中心に履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「データサイエンス」トラックの基盤系科目と、「ICT」トラックの「情報セキュリティ」や人間・社会情報学トラックの「人工知能」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても視野を広げ理解を深める。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

〈ICT トラックの基本履修モデル〉

(略)

1年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは情報学部提供の「データサイエンス入門」「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。さらに専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から「ICT」トラックの「地理情報システム」、「情報セキュリティ」、「計算機アーキテクチャ」を履修し、ICT 分野に関する情報通信技

術の構図を学び、基本概念の位置づけを知る。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 入門」を履修するとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

(30 ページ)

〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉

(略)

2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し 3 年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「人間・社会情報学」トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「ICT」トラックの「情報ネットワーク」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBL としては地域における問題を体験を通して具体的に知るとともに、人工知能などの情報技術の活用に向けた「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

(31 ページ)

2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」「微分積分」を履修し 3 年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履

術の構図を学び、基本概念の位置づけを知る。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 入門」を履修するとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉

(略)

2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し 3 年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「人間・社会情報学」トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「ICT」トラックの「情報セキュリティ」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBL としては地域における問題を体験を通して具体的に知るとともに、人工知能などの情報技術の活用に向けた「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。

(略)

2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」「微分積分」を履修し 3 年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履

<p>修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び人間・社会情報学トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「ICT」トラックの「<u>情報ネットワーク</u>」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても視野を広げるとともに理解を深める。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行い、地域に実装する力を身につける。</p> <p>(略)</p>	<p>修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び人間・社会情報学トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「ICT」トラックの「<u>情報セキュリティ</u>」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても視野を広げるとともに理解を深める。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行い、地域に実装する力を身につける。</p> <p>(略)</p>
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 6 カリキュラム概念図

新	旧
「分散システム」 ICT <u>基盤系</u>	「分散システム」 ICT <u>実践系</u>
「情報セキュリティ」 ICT <u>基盤系</u>	「情報セキュリティ」 ICT <u>実践系</u>
「情報ネットワーク」 ICT <u>実践系</u>	「情報ネットワーク」 ICT <u>基盤系</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 8 福知山公立大学情報学部情報学科科目配置表

新	旧
<p>専門教育科目 専門科目群 ICT トラック 「分散システム」 <u>基盤系</u></p> <p>「情報セキュリティ」 <u>2・3年次 前学期 基盤系</u></p>	<p>専門教育科目 専門科目群 ICT トラック 「分散システム」 <u>実践系</u></p> <p>「情報セキュリティ」 <u>1・2年次 後学期 実践系</u></p>

「情報ネットワーク」 <u>1・2年次 後学期 実践系</u>	「情報ネットワーク」 <u>2・3年次 前学期 基盤系</u>
------------------------------------	------------------------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料9 公立大学法人福知山公立大学履修規程 (案)

新	旧
別表第2 情報学部情報学科 専門教育科目 専門科目群 ICTトラック -実践系- 地理情報システム <u>情報ネットワーク</u> 組込みシステム -基盤系- <u>情報セキュリティ</u> 計算機アーキテクチャ データベースシステム オペレーティングシステム <u>分散システム</u> プログラミング言語処理系	別表第2 情報学部情報学科 専門教育科目 専門科目群 ICTトラック -実践系- 地理情報システム <u>情報セキュリティ</u> 組込みシステム <u>分散システム</u> -基盤系- <u>情報ネットワーク</u> 計算機アーキテクチャ データベースシステム オペレーティングシステム プログラミング言語処理系

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料14 福知山公立大学情報学部基本履修モデル (各トラック均等型)

新	旧
「 <u>情報セキュリティ</u> 」 <u>2年次 前期 基盤系</u>	「情報セキリュティ」 <u>1年次 後期 実践系</u>
「情報ネットワーク」 <u>1年次 後期 実践系</u>	「情報ネットワーク」 <u>2年次 前期 基盤系</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料15 福知山公立大学情報学部基本履修モデル (データサイエンス特)

化型)

新	旧
「分散システム」 <u>基盤系</u>	「分散システム」 <u>実践系</u>
「情報セキュリティ」 <u>3年次 前期 基盤系</u>	「情報セキュリティ」 <u>2年次 後期 実践系</u>
「情報ネットワーク」 <u>2年次 後期 実践系</u>	「情報ネットワーク」 <u>3年次 前期 基盤系</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 16 福知山公立大学情報学部基本履修モデル (ICT 特化型)

新	旧
「分散システム」 <u>基盤系</u>	「分散システム」 <u>実践系</u>
「情報セキュリティ」 <u>2年次 前期 基盤系</u>	「情報セキュリティ」 <u>1年次 後期 実践系</u>
「情報ネットワーク」 <u>1年次 後期 実践系</u>	「情報ネットワーク」 <u>2年次 前期 基盤系</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 17 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学①-人工知能特化型)

新	旧
「分散システム」 <u>基盤系</u>	「分散システム」 <u>実践系</u>
「情報セキュリティ」 <u>3年次 前期 基盤系</u>	「情報セキュリティ」 <u>2年次 後期 実践系</u>
「情報ネットワーク」 <u>2年次 後期 実践系</u>	「情報ネットワーク」 <u>3年次 前期 基盤系</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 18 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学②-エンタテインメント特化型)

新	旧
「情報セキュリティ」 3年次 前期 基盤系	「情報セキュリティ」 2年次 後期 実践系
「情報ネットワーク」 2年次 後期 実践系	「情報ネットワーク」 3年次 前期 基盤系

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 19 令和5年度 福知山公立大学 時間割表 (情報学部) (案)

新	旧
「分散システム (基盤)」 水・後期・③ 学年 2・3	「分散システム (実践)」 水・後期・③ 学年 2・3
「情報ネットワーク (実践)」 水・後期・④ 学年 1・2	「情報ネットワーク (基盤)」 水・前期・① 学年 2・3
「情報セキュリティ (基盤)」 水・前期・⑤ 学年 2・3	「情報セキュリティ (実践)」 水・後期・④ 学年 1・2

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 20 情報学部情報学科カリキュラムマップ

新	旧
専門教育科目 専門科目群 ICTトラック -実践系- 地理情報システム <u>情報ネットワーク 1・2 後</u> 組込みシステム -基盤系- <u>情報セキュリティ 2・3 前</u> 計算機アーキテクチャ データベースシステム	専門教育科目 専門科目群 ICTトラック -実践系- 地理情報システム <u>情報セキュリティ 2・3 前</u> 組込みシステム <u>分散システム</u> -基盤系- <u>情報ネットワーク 1・2 後</u> 計算機アーキテクチャ データベースシステム

オペレーティングシステム <u>分散システム</u> プログラミング言語処理系	オペレーティングシステム プログラミング言語処理系
---	------------------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 21 福知山公立大学科目ナンバリング基準 (案)

新	旧
学士 情報学部 情報学科 ICT 「組み込みシステム」 <u>BII2IT003A</u> 「情報セキュリティ」 <u>BII2IT004B</u> 「計算機アーキテクチャ」 <u>BII1IT005B</u> 「分散システム」 <u>BII2IT006B</u>	学士 情報学部 情報学科 ICT 「組み込みシステム」 <u>BII1IT003A</u> 「情報セキュリティ」 <u>BII1IT002A</u> 「計算機アーキテクチャ」 <u>BII2IT006B</u> 「分散システム」 <u>BII1IT004A</u>

2. <履修区分が不明確>

「コンピュータプログラミングⅡ」の授業計画において、「コンピュータプログラミングⅠの復習」が計画されているが、「コンピュータプログラミングⅠ」が選択科目であるため、履修区分が適切に設定されているか疑義がある。このため履修区分を適切に改めるか、「コンピュータプログラミングⅠ」が選択科目として設定されている妥当性を説明すること。

(対応)

「コンピュータプログラミングⅠ」及び「コンピュータプログラミングⅡ」の履修区分について検討した結果、以下のとおり修正する。

「コンピュータプログラミングⅠ」を選択科目、「コンピュータプログラミングⅡ」を必修科目とした理由は、既に「コンピュータプログラミングⅠ」で学習する程度のプログラミングの知識を持って入学した学生については「コンピュータプログラミングⅠ」を履修する必要はないことも考慮しており、それ以外の学生については指導により必ず履修することを想定していた。しかし、単に選択科目としてしまうと、履修してもしなくてもよいという誤ったメッセージが伝わる危険性があり、また既にある程度の知識をもって入学してきた学生についても基礎から改めて体系的に学び直すことは、より理解を深めるという重要な意義と必要性もあると判断した。

以上を検討した結果、「コンピュータプログラミングⅠ」の履修区分を改め必修科目に変更する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

変更内容 「コンピュータプログラミングⅠ」(2単位)を必修とする。

新	旧
資料3 教育課程等の概要 (補正後)	資料2 教育課程等の概要 (補正前)

(新旧対照表) シラバス

新	旧
シラバス目次 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>必修</u>	シラバス目次 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>選択</u>

(新旧対照表) 福知山公立大学学則及び学則変更の事由 新旧対照表

新	旧
別表第2 情報学部 卒業要件 (情報学科) 専門教育科目 情報専門基礎 <u>必修 6 単位</u> <u>選択必修 -</u>	別表第2 情報学部 卒業要件 (情報学科) 専門教育科目 情報専門基礎 <u>必修 4 単位</u> <u>選択必修 2 単位</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

(16 ページ)

卒業要件単位表

新

卒業要件単位数

科目区分		必修	選択			合計
			選択必修			
共通教育 科目	外国語科目群	4 単位	—	2 単位	4 単位	6 単位
	一般教養科目群	—	18 単位 *1	4 単位		22 単位
	全学共通科目群	<u>4 単位</u>	10 単位 *2	<u>8 単位</u>		22 単位
専門教育 科目	PBL	20 単位	—	—	4 単位	20 単位
	情報専門基礎	<u>6 単位</u>	—	—		6 単位
	専門科目群	—	12 単位 *3	36 単位		48 単位
卒業要件単位 合計		<u>34 単位</u>	<u>40 単位</u>	<u>50 単位</u>	4 単位	128 単位※

*1 人文系、社会系、自然系からそれぞれ 6 単位以上修得すること、そのうち自然系からは、「数学基礎

I」、「数学基礎 II」、「線形代数基礎」、「微分積分基礎」、「多変量解析」、「線形計画法」、「線形代数」、「微分積分」のうちから 4 単位以上を修得すること

*2 このうち「地域理解科目」から 10 単位以上修得すること

*3 いずれかのトラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ 4 単位以上を修得すること

※ 共通教育科目または専門教育科目全体からの選択 4 単位は、科目区分ごとの合計欄には、含まれない

旧

卒業要件単位数

科目区分		必修	選択		合計
			選択必修		

共通教育 科目	外国語科目群	4 単位	—	2 単位	4 単位	6 単位
	一般教養科目群	—	18 単位*1	4 単位		22 単位
	全学共通科目群	<u>2 単位</u>	10 単位*2	<u>10 単位</u>		22 単位
専門教育 科目	PBL	20 単位	—	—		20 単位
	情報専門基礎	<u>4 単位</u>	<u>2 単位</u>	—		6 単位
	専門科目群	—	12 単位*3	36 単位		48 単位
卒業要件単位 合計		<u>30 単位</u>	<u>42 単位</u>	<u>52 単位</u>	4 単位	128 単位※

- *1 人文系、社会系、自然系からそれぞれ6単位以上修得すること、そのうち自然系からは、「数学基礎Ⅰ」、「数学基礎Ⅱ」、「線形代数基礎」、「微分積分基礎」、「多変量解析」、「線形計画法」、「線形代数」、「微分積分」のうちから4単位以上を修得すること
- *2 このうち「地域理解科目」から10単位以上修得すること
- *3 いずれかのトラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位以上を修得すること
- ※ 共通教育科目または専門教育科目全体からの選択4単位を含む。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料8 福知山公立大学情報学部情報学科 科目配置表

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>必修</u> 2 単位	専門教育科目 情報専門基礎 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>選択</u> 2 単位

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料9 公立大学法人福知山公立大学履修規程(案)

新	旧
別表第2 情報専門基礎 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>必修</u> 2 単位	別表第2 情報専門基礎 「コンピュータプログラミングⅠ」 <u>選択</u> 2 単位

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料14 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル(各トラック均等型)

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎	専門教育科目 情報専門基礎

「 <u>●コンピュータプログラミングⅠ</u> 」	「 <u>コンピュータプログラミングⅠ</u> 」
----------------------------	---------------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 15 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (データサイエンス特化型)

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>●コンピュータプログラミングⅠ</u> 」	専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>コンピュータプログラミングⅠ</u> 」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 16 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (ICT 特化型)

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>●コンピュータプログラミングⅠ</u> 」	専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>コンピュータプログラミングⅠ</u> 」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 17 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学①-人工知能特化型)

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>●コンピュータプログラミングⅠ</u> 」	専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>コンピュータプログラミングⅠ</u> 」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 17 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学②-エンタテインメント特化型)

新	旧
専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>●コンピュータプログラミングⅠ</u> 」	専門教育科目 情報専門基礎 「 <u>コンピュータプログラミングⅠ</u> 」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 19 令和 5 年度 福知山公立大学 時間割表 (情報学部) (案)

新	旧
前期 木曜日 2限 「コンピュータプログラミングⅠ●」	前期 月曜日 5限 「コンピュータプログラミングⅠ」

(是正事項) 情報学部 情報学科

3. <配当年次の不備>

完成年次の時間割表において「IT産業論」と「地域情報PBL」が同時に開講されており、「組込みシステム」、「分散システム」の配当年次がシラバスの履修年次と一致していないなど、各科目の配当年次が適切に設定されているか疑義があるため、確認を行い適切に改めること。

(対応)

審査意見で指摘を受けて確認した結果、事務的な誤記載があり、下記の新旧対照表の通り修正する。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
(1 ページ) 目次 「インターネット」 学年 <u>1</u>	(1 ページ) 目次 「インターネット」 学年 <u>2</u>
「情報学アカデミックスキル」 学年 <u>2</u>	「情報学アカデミックスキル」 学年 <u>1</u>
「データ解析ツール」 開講期 <u>後</u>	「データ解析ツール」 開講期 <u>前</u>
「統計的モデルを用いたシミュレーション」 開講期 <u>前</u>	「統計的モデルを用いたシミュレーション」 開講期 <u>後</u>
「オペレーティングシステム」 開講期 <u>前</u>	「オペレーティングシステム」 開講期 <u>後</u>
「アルゴリズム論」 開講期 <u>後</u>	「アルゴリズム論」 開講期 <u>前</u>
「グラフ理論」	「グラフ理論」

<p>開講期 <u>前</u> (2 ページ) 「情報システム」 開講期 <u>後</u></p> <p>「画像情報処理」 開講期 <u>前</u></p> <p>「自然言語処理」 開講期 <u>後</u></p> <p>(16 ページ) 「統計学」 履修年次 <u>1年次</u></p> <p>(36 ページ) 「インターネット」 履修年次 <u>1年次</u></p> <p>(33 ページ) 「インターンシップ実習Ⅱ」 ナンバリング <u>BII3SE2020</u></p> <p>(37 ページ) 「情報学アカデミックスキル」 履修年次 <u>2年次</u> ナンバリング <u>BII2IF0040</u></p> <p>(40 ページ) 「オープンデータ技術」 授業形態 <u>講義</u></p> <p>(42・43 ページ) 「データ解析ツール」 開講学期 <u>後学期</u> ナンバリング <u>BII2DS005B</u></p>	<p>開講期 <u>後</u> (2 ページ) 「情報システム」 開講期 <u>前</u></p> <p>「画像情報処理」 開講期 <u>後</u></p> <p>「自然言語処理」 開講期 <u>前</u></p> <p>(16 ページ) 「統計学」 履修年次 <u>2年次</u></p> <p>(36 ページ) 「インターネット」 履修年次 <u>2年次</u></p> <p>(33 ページ) 「インターンシップ実習Ⅱ」 ナンバリング <u>BII3SE2120</u></p> <p>(37 ページ) 「情報学アカデミックスキル」 履修年次 <u>1年次</u> ナンバリング <u>BII1IF0040</u></p> <p>(40 ページ) 「オープンデータ技術」 授業形態 <u>実習</u></p> <p>(42・43 ページ) 「データ解析ツール」 開講学期 <u>前学期</u> ナンバリング <u>BII2DS005</u></p>
--	---

<p>(46 ページ) 「統計的モデルを用いたシミュレーション」 開講学期 <u>前学期</u> ナンバリング <u>BII2DS007B</u></p>	<p>(46 ページ) 「統計的モデルを用いたシミュレーション」 開講学期 <u>後学期</u> ナンバリング <u>BII2DS007</u></p>
<p>(54 ページ) 「組込みシステム」 履修年次 <u>2・3年次</u></p>	<p>(54 ページ) 「組込みシステム」 履修年次 <u>1・2年次</u></p>
<p>(59 ページ) 「分散システム」 履修年次 <u>2・3年次</u></p>	<p>(55 ページ) 「分散システム」 履修年次 <u>1・2年次</u></p>
<p>(56 ページ) 「計算機アーキテクチャ」 履修年次 <u>1・2年次</u></p>	<p>(57 ページ) 「計算機アーキテクチャ」 履修年次 <u>2・3年次</u></p>
<p>(57 ページ) 「データベースシステム」 ナンバリング <u>BII2IT007B</u></p>	<p>(58 ページ) 「データベースシステム」 ナンバリング <u>BII2IT007</u></p>
<p>(58 ページ) 「オペレーティングシステム」 開講学期 <u>前学期</u> ナンバリング <u>BII2IT008B</u></p>	<p>(59 ページ) 「オペレーティングシステム」 開講学期 <u>後学期</u> ナンバリング <u>BII2IT008</u></p>
<p>(60・61 ページ) 「信号情報処理」 ナンバリング <u>BII3IT010C</u></p>	<p>(60・61 ページ) 「信号情報処理」 ナンバリング <u>BII3IT010</u></p>
<p>(62 ページ) 「数値解析」 ナンバリング <u>BII3IT011C</u></p>	<p>(62 ページ) 「数値解析」 ナンバリング <u>BII3IT011</u></p>

<p>(63 ページ)</p> <p>「アルゴリズム論」</p> <p>開講学期 <u>後学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII3IT012C</u></p>	<p>(63 ページ)</p> <p>「アルゴリズム論」</p> <p>開講学期 <u>前学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII3IT012</u></p>
<p>(64 ページ)</p> <p>「グラフ理論」</p> <p>開講学期 <u>前学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII3IT013C</u></p>	<p>(64 ページ)</p> <p>「グラフ理論」</p> <p>開講学期 <u>後学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII3IT013</u></p>
<p>(65 ページ)</p> <p>「論理設計」</p> <p>ナンバリング <u>BII3IT014C</u></p>	<p>(65 ページ)</p> <p>「論理設計」</p> <p>ナンバリング <u>BII3IT014</u></p>
<p>(66 ページ)</p> <p>「計算理論」</p> <p>ナンバリング <u>BII3IT015C</u></p>	<p>(66 ページ)</p> <p>「計算理論」</p> <p>ナンバリング <u>BII3IT015</u></p>
<p>(67 ページ)</p> <p>「情報符号理論」</p> <p>ナンバリング <u>BII3IT016C</u></p>	<p>(67 ページ)</p> <p>「情報符号理論」</p> <p>ナンバリング <u>BII1HS001A</u></p>
<p>(73 ページ)</p> <p>「情報システム」</p> <p>開講学期 <u>後学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII2HS006B</u></p>	<p>(73 ページ)</p> <p>「情報システム」</p> <p>開講学期 <u>前学期</u></p> <p>ナンバリング <u>BII2HS006</u></p>
<p>(74 ページ)</p> <p>「ヒューマンインタフェース」</p> <p>ナンバリング <u>BII2HS007B</u></p>	<p>(74 ページ)</p> <p>「ヒューマンインタフェース」</p> <p>ナンバリング <u>BII2HS007</u></p>
<p>(75 ページ)</p> <p>「機械学習システム」</p> <p>ナンバリング <u>BII2HS008B</u></p>	<p>(75 ページ)</p> <p>「機械学習システム」</p> <p>ナンバリング <u>BII2HS008</u></p>
<p>(76 ページ)</p>	<p>(76 ページ)</p>

<p>「パターン認識と機械学習」 ナンバリング <u>BII3HS009C</u></p> <p>(77 ページ)</p> <p>「画像情報処理」 開講学期 <u>前学期</u> ナンバリング <u>BII3HS010C</u></p> <p>(78 ページ)</p> <p>「音情報処理」 ナンバリング <u>BII3HS011C</u></p> <p>(79 ページ)</p> <p>「自然言語処理」 開講学期 <u>後学期</u> ナンバリング <u>BII3HS012C</u></p>	<p>「パターン認識と機械学習」 ナンバリング <u>BII3HS009</u></p> <p>(77 ページ)</p> <p>「画像情報処理」 開講学期 <u>後学期</u> ナンバリング <u>BII3HS010</u></p> <p>(78 ページ)</p> <p>「音情報処理」 ナンバリング <u>BII3HS011</u></p> <p>(79 ページ)</p> <p>「自然言語処理」 開講学期 <u>前学期</u> ナンバリング <u>BII3HS012</u></p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 19 令和 5 年度 福知山公立大学 時間割表 (情報学部) (案)

新	旧
「IT 産業論」 火曜 前期 <u>1 限</u>	「IT 産業論」 火曜 前期 <u>4 限</u>
「環境学」 <u>水曜 後期 1 限</u>	「環境学」 <u>新規</u>
「地理学」 <u>金曜 後期 2 限</u>	「地理学」 <u>新規</u>
「インターンシップ実習Ⅱ」 <u>水曜 後期 3 限</u>	「インターンシップ実習Ⅱ」 <u>新規</u>
「信号情報処理 (理論)」 木曜 前期 1 限 池野 3201	「信号情報処理 (理論)」 木曜 前期 1 限 池野/橋田 3201

<p>橋田 <u>3202</u></p> <p>「基礎データ解析（基盤）」 水曜 <u>後期 4限</u> 池野 3201 崔 <u>3202</u></p> <p>「データ解析ツール（基盤）」 水曜 <u>後期 5限</u> 池野 3105 崔 <u>3202</u></p> <p>「グラフ理論（理論）」 木曜 <u>前期 2限</u> 藤井 3201 山田 <u>3202</u></p> <p>「オペレーティングシステム（基盤）」 金曜 <u>前期 1限</u> 藤井 3201 山田 <u>3202</u></p>	<p>「基礎データ解析（基盤）」 水曜 <u>前期 5限</u> 池野/崔 3201</p> <p>「データ解析ツール（基盤）」 水曜 <u>後期 5限</u> 池野/崔 3206</p> <p>「グラフ理論（理論）」 木曜 <u>前期 2限</u> 藤井/山田 3201</p> <p>「オペレーティングシステム（基盤）」 金曜 <u>前期 1限</u> 藤井/山田 3201</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 21 福知山公立大学科目ナンバリング基準 (案)

新	旧
学士 全学共通 共通教育 人文科学 <u>「地理学」 BCC1CS1020</u>	新規
学士 全学共通 共通教育 自然科学 <u>「栄養学」 BCC1NS2030</u>	新規
学士 全学共通 共通教育 地域系 <u>「地域福祉論」</u>	学士 全学共通 共通教育 地域系 <u>「地域医療福祉論」</u>

4. <PBL の内容が不明確>

科目区分における「PBL」に配置された授業科目の内容が不明確であるため、以下の点を明らかにすること。

(1) 本学の「PBL」に対する定義を明らかにし、学生が科目を履修する前にどのように内容を説明して指導するのか明らかにすること。

(2) 「情報リテラシー」が選択科目である中、「PBL」に配置された科目を学生が履修する上で、情報モラルをどのようにして身に付けさせるか明らかにするか、必要に応じて「情報リテラシー」を必修科目に改めること。

(3) 地域情報を冠する科目は専任教員を4つのユニットに分けて実施し、完成年次の時間割表では各科目の一部を1年次から4年次まで合同で授業を行う計画であるが、各ユニットで想定されるプロジェクトのテーマを学生がどのように設定し、各担当教員は各科目の到達目標をどのように評価するのか不明確である。各ユニットで想定されるプロジェクトの例を示しつつ、どのように授業が実施される計画であるか明らかにすること。

(4) 「IT実習Ⅰ～Ⅳ」の到達目標が抽象的な内容に留まっているため、担当教員が掲示する実習テーマについて、想定される「テーマ」と「各種ツール」を示しつつ、具体的な授業計画を明らかにすること。

(5) インターンシップについて、受入先を学生が確保するように見受けられるため、大学としてふさわしい実習水準をどのように確保するのか明らかにすること。

(対応)

審査意見で指摘を受けた項目について、以下のとおり説明し、修正する。

(1) について

本学はPBLを「課題を学生自身が見つけ、様々なICT技術を駆使して課題を解決する授業」と定義している。学生に対しては、毎年度第1週に実施するユニット単位のオリエンテーションにおいて、このPBLの定義を説明し、「課題が教員によって事前に準備されており、ICT技術を利用するための手法を学習する」IT実習との差異を明確に認識させる。

(2) について

リテラシーの重要性は論を俟たない。このことから、指摘の通り科目「情報リテラシー」を必修とする。これに加え、「地域情報PBL入門」の前半15週をPBL体験期間と位置づけ、ゼミ単位で担当教員のきめ細かな指導のもと、PBLで必要となるフィールドワ

ークや地域での活動に必要な情報モラル・リテラシーを学ぶ。これにより、1年次後期配当の「情報リテラシー」に円滑に接続し、地域情報 PBL として必要な情報モラル・リテラシーを PBL・情報学の双方の観点から多角的に学習することができる。

(3) について

プロジェクトのテーマは教員が1ないし複数のテーマを選定し、それを学生が選択する形で決定される。それぞれの教員に、各学年5ないし6名程度がゼミ生として割り当てられ、その単位でフィールドワークなどの諸活動を行う。

教員はこのゼミ単位で学生のプロジェクトに対する活動を評価する。評価は大きく分けて1)中間報告・成果報告におけるプロジェクトの目標に対する進捗度合、2)各学生の提出する報告書に基づく学生個々のプロジェクトへの関与度合と達成度合、3)教員の観察による各学生の授業時の状況からなる。中間報告・成果報告において学生が達成すべき目標は各年度冒頭のオリエンテーションで明示する(具体例として、2年次であれば、WP(ワーキングプロトタイプ)の立案・設計と簡単な動作確認までが中間報告、実装したWPの評価および改善案の検討までが期末報告までの目標となる)。なお、個々の評価はプロジェクトの難易度や学生の資質によるゆがみを避けるため、中間報告・成果報告はユニット単位(複数のゼミにまたがって発表する)で実施して成績評価するとともに、年度末にすべてのPBL関係教員が集まって到達度評価の総合的な調整を行うこととしている。

プロジェクト実施の流れは担当教員やテーマによっても変わってくるが、授業計画の概要の例を**添付資料 5**に表で示した。「教育方法」の「アクティブラーニングによる地域貢献」に挙げたテーマをより具体化するために、福知山市役所(市長、防災責任者、情報担当者、教育委員会)と協議を重ねるとともに、地域の企業である、株式会社SHF、株式会社浅田可鍛鉄所、ニンバリ株式会社、ウィラートレイン株式会社、京都北都信用金庫と面談して協働についての意思確認を行った。その結果、福知山市役所や福知山公立大学の内部の情報化への取り組み、小中学校で2020年度から始まるプログラミング教育への取り組み、観光客のデータの分析とマーケティングへの活用、丹波栗の不良品の自動選別、他にも多くの課題が報告されている。初期はこうしたテーマを足掛かりとして体験・学びをはじめ、より具体的な課題を学生自身で発見し、プロジェクトを提案する、IT実習などの授業で学んだICT技術を用いて設計・実装を行う、成果物の試験運用・評価・報告を行う、というのがPBLで想定している基本的な授業計画である。

(4) について

現在予定している各実習科目の具体的な実習テーマ、目標、授業計画の骨子を**添付資料 5**にまとめた。「設置の趣旨等を記載した書類」の記述も指摘事項が明らかとなるように改めた。概略を以下に記載する。

・IT 実習Ⅰ（1年前期）「実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-」

「時系列データ解析入門」「オープンデータを用いたコンテンツの作成」などの実習テーマへの取り組みを通して、Python や JavaScript といったプログラミング言語の初歩的な扱い、Excel や R を用いた統計解析の初歩を体験・習得する。

・IT 実習Ⅱ（1年後期）「IT の世界」

「Raspberry PI と環境センサを用いた環境計測と分析」「Lego Mindstorms EV3 によるロボットの走行制御」などの実習テーマへの取り組みを通して、実世界の問題をモデル化しコンピュータを用いて解決する方法、プログラミング技術と各種デバイスを組み合わせた簡単なシステムを構築する方法を体験・習得する。

・IT 実習Ⅲ（2年前期）「メディア情報学-AI の世界-」

「自然言語処理入門」「画像処理と認識・分類」などの実習テーマへの取り組みを通して、TensorFlow などの既存のライブラリを用いて高度なソフトウェアを開発する方法、コンピュータによる各種メディアの扱い方、機械学習の初歩を体験・習得する。

・IT 実習Ⅳ（2年後期）「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」

半期の複合現実コンテンツ開発プロジェクトへの取り組みを通して、最先端の複合現実の技術を体験し、その扱い方を習得するとともに、1つの成果物を仕上げる経験を積む。

いずれの科目も、授業計画はオリエンテーション、課題に取り組むための環境の準備、実習を交えた各種技術やツールの解説、課題への取り組み、プレゼンテーションや報告書の作成の順になる。

（5）について

インターンシップの実習先は、あらかじめ大学が受け入れ先として承認した北近畿地域の企業リストから選択するか、あるいは、都市部の企業など北近畿以外の地域の場合、大学側でその実習内容について確認し、認めたものに限ることとする。学生の評価は、40 時間（5 日間×8 時間）の実習と終了後の報告書により行うこととし、「受け入れ先事業所概要」「実習内容の概要」「実習を通じて新たに理解したこと及び発見したこと」「実習中に考察した自身の課題と今後の取組」「卒業後の進路のために、これから準備すべきことと感じたこと」等についての的確にわかりやすく記載しているかという点を重視して成績評価を行う。実習の質を確保するために企業等と事前に協議することとする。

資料

添付資料 4 PBL・IT 実習の実施に係る資料（補正前）

添付資料 5 PBL・IT 実習の実施に係る資料（補正後）

（新旧対照表）教育課程等の概要

変更内容 情報リテラシー（2単位）を必修とする。

新	旧
資料3 教育課程等の概要（補正後）	資料2 教育課程等の概要（補正前）

（新旧対照表）シラバス

新	旧
<p>(32 ページ)</p> <p>「インターンシップ実習 I」</p> <p>成績評価の方法と基準</p> <p>評価方法</p> <p>報告書 (50%)</p> <p><u>発表 (50%)</u></p> <p>評価基準</p> <p><u>単位の認定にあたっては、5日（40時間）以上の実習を実施し、実習中に作成した実習日誌と報告書の内容を担当教員が総合的に評価したうえで単位認定を行う。（実習先はあらかじめ大学が用意したリスト、あるいは実習内容を確認し、大学が認めた企業に限る。）</u></p> <p><u>報告書の作成にあたっては、「受け入れ先事業所概要」「実習内容の概要」「実習を通じて新たにわかったこと」「実習中に感じた自身の課題と、その課題への対応状況」「卒業後の進路のために、これからやるべきことと感じたこと」等について的確にわかりやすく記載しているかという点について重視し、評価を行う。</u></p> <p>(33 ページ)</p>	<p>(32 ページ)</p> <p>「インターンシップ実習 I」</p> <p>成績評価の方法と基準</p> <p>評価方法</p> <p>報告書 (50%)</p> <p><u>発表 (30%)</u></p> <p><u>受け入れ先からの評価 (20%)</u></p> <p>評価基準</p> <p><u>インターンシップ認証という形で外部から承認されるレベルに達すること</u></p> <p>(33 ページ)</p>

<p>「インターンシップ実習Ⅱ」 成績評価の方法と基準</p> <p>評価方法</p> <p>報告書 (50%) 発表 (50%)</p> <p>評価基準</p> <p><u>単位の認定にあたっては、5日(40時間)以上の実習を実施し、実習中に作成した実習日誌と報告書の内容を担当教員が総合的に評価したうえで単位認定を行う。(実習先はあらかじめ大学が用意したリスト、あるいは実習内容を確認し、大学が認めた企業に限る。)</u></p> <p><u>報告書の作成にあたっては、「受け入れ先事業所概要」「実習内容の概要」「実習を通じて新たにわかったこと」「実習中に感じた自身の課題と、その課題への対応状況」「卒業後の進路のために、これからやるべきことと感じたこと」等についての確にわかりやすく記載しているかという点について重視し、評価を行う。</u></p>	<p>「インターンシップ実習Ⅱ」 成績評価の方法と基準</p> <p>評価方法</p> <p>報告書 (50%) 発表 (30%) <u>受け入れ先からの評価 (20%)</u></p> <p>評価基準</p> <p><u>インターンシップ認証という形で外部から承認されるレベルに達すること</u></p>
---	---

(新旧対照表) 福知山公立大学学則 (案)

新	旧
<p>情報学部</p> <p>卒業要件 (情報学科)</p> <p>共通教育科目 全学共通科目群</p> <p><u>必修 4 単位</u></p> <p><u>選択 8 単位</u></p>	<p>情報学部</p> <p>卒業要件 (情報学科)</p> <p>共通教育科目 全学共通科目群</p> <p><u>必修 2 単位</u></p> <p><u>選択 10 単位</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

(16 ページ)

卒業要件単位表（再掲）

新

卒業要件単位数

科目区分		必修	選択			合計
			選択必修			
共通教育 科目	外国語科目群	4 単位	—	2 単位	4 単位	6 単位
	一般教養科目群	—	18 単位*1	4 単位		22 単位
	全学共通科目群	4 単位	10 単位*2	8 単位		22 単位
専門教育 科目	PBL	20 単位	—	—	4 単位	20 単位
	情報専門基礎	6 単位	—	—		6 単位
	専門科目群	—	12 単位*3	36 単位		48 単位
卒業要件単位 合計		34 単位	40 単位	50 単位	4 単位	128 単位※

*1 人文系、社会系、自然系からそれぞれ 6 単位以上修得すること、そのうち自然系からは、「数学基礎Ⅰ」、「数学基礎Ⅱ」、「線形代数基礎」、「微分積分基礎」、「多変量解析」、「線形計画法」、「線形代数」、「微分積分」のうちから 4 単位以上を修得すること

*2 このうち「地域理解科目」から 10 単位以上修得すること

*3 いずれかのトラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ 4 単位以上を修得すること

※ 共通教育科目または専門教育科目全体からの選択 4 単位は、科目区分ごとの合計欄には、含まれない

旧

卒業要件単位数

科目区分		必修	選択			合計
			選択必修			
共通教育 科目	外国語科目群	4 単位	—	2 単位	4 単位	6 単位
	一般教養科目群	—	18 単位*1	4 単位		22 単位
	全学共通科目群	2 単位	10 単位*2	10 単位		22 単位
専門教育 科目	PBL	20 単位	—	—	4 単位	20 単位
	情報専門基礎	4 単位	2 単位	—		6 単位
	専門科目群	—	12 単位*3	36 単位		48 単位
卒業要件単位 合計		30 単位	42 単位	52 単位	4 単位	128 単位※

*1 人文系、社会系、自然系からそれぞれ 6 単位以上修得すること、そのうち自然系からは、「数学基礎Ⅰ」、「数学基礎Ⅱ」、「線形代数基礎」、「微分積分基礎」、「多変量解析」、「線形計画法」、「線形代数」、「微分積分」のうちから 4 単位以上を修得すること

*2 このうち「地域理解科目」から 10 単位以上修得すること

*3 いずれかのトラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ 4 単位以上を修得すること

※ 共通教育科目または専門教育科目全体からの選択 4 単位を含む。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(10 ページ)</p> <p>(3) 学部・学科等の名称及び学位の名称</p> <p>(12 ページ)</p> <p>イ 開講科目について</p> <p>(略)</p> <p>PBL</p> <p>(略)</p> <p>PBL はユニット単位で実施する。17 名の教員で教授・<u>准教授</u>を中心とした 4 つのユニットを構成し、各教員がユニット内でそれぞれゼミを受け持つため、1 学年 100 名を 4 等分すると 1 ユニット当たり 25 名、これを 4 ないし 5 名の教員が担当する。1 教員あたり 5 から 6 名の学生を担当することとなる。このため、各教員は受け入れ可能人数 (6 名以上) を宣言する。上限は設けない。</p> <p>(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>IT 実習</p> <p>(略)</p> <p><u>(削除)</u></p> <p><u>PBL 及び IT 実習における教員の指導の単位</u></p> <p><u>ここで、これ以後も使用するユニット等</u></p>	<p>(3) 学部・学科等の名称及び学位の名称</p> <p>イ 開講科目について</p> <p>(略)</p> <p>PBL</p> <p>(略)</p> <p>PBL はユニット単位で実施する。17 名の教員で教授を中心とした 4 つのユニットを構成し、各教員がユニット内でそれぞれゼミを受け持つため、1 学年 100 名を 4 等分すると 1 ユニット当たり 25 名、これを 4 ないし 5 名の教員が担当する。1 教員あたり 5 から 6 名の学生を担当することとなる。このため、各教員は受け入れ可能人数 (6 名以上) を宣言する。上限は設けない。</p> <p>(略)</p> <p>IT 実習</p> <p>(略)</p> <p>・<u>IT 実習Ⅰ「実世界から情報学へーデータサイエンスの世界ー」</u></p> <p>・<u>IT 実習Ⅱ「IT の世界」</u></p> <p>・<u>IT 実習Ⅲ「メディア情報学-AI の世界」</u></p> <p>・<u>IT 実習Ⅳ「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-</u></p> <p>(項全体を追加)</p>

<p><u>のPBL及びIT実習における教員の指導の単位を以下にまとめておく。</u></p> <p><u>ユニット</u> 教員 4～5 名で構成される学生指導の単位である。4ユニットで構成され、完成年次では一つのユニットで学生が各学年 25 名程度の 4 学年合計で 100 名前後の人数となり、これを単位として PBL の中間発表会、成果発表会を行う。</p> <p><u>ゼミ</u> 各教員一人あたりの PBL の授業単位。PBL は 17 名の教員が担当するため、17 ゼミとなり、一つのゼミは 1 学年あたり 6 名程度で構成され、4 学年合計で 24 名程度となる。</p> <p><u>クラス</u> IT 実習時に、教員ごとに指導を受ける単位で 1 クラス 25 名程度となる。</p> <p>(略)</p> <p>(22 ページ)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>ア 教育方法</p> <p>(略)</p> <p>(23 ページ)</p> <p>①学習環境のデザイン</p> <p>(略)</p> <p>(24 ページ)</p> <p>〈教えあいのなかの学修〉</p> <p>(略)</p> <p>第一段階では、<u>地域情報 PBL によるゼミに所属させる。教えあいのなかの学修を実現するために、PBL のなかには、ツールを多くの人が使えるようにするための教材やトレーニングキットの開発、あるいはトレーニングコースの開発、ツールの開発や評価</u></p>	<p>(略)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>ア 教育方法</p> <p>(略)</p> <p>①学習環境のデザイン</p> <p>(略)</p> <p>〈教えあいのなかの学修〉</p> <p>(略)</p> <p>第一段階では、<u>IT 実習と地域情報 PBL で培う 1 年次のうちから地域情報 PBL によるゼミに所属させる。教えあいのなかの学修を実現するために、PBL のなかには、ツールを多くの人が使えるようにするための教材やトレーニングキットの開発、あるいはト</u></p>
--	---

<p>等、直接的な地域問題解決以外のものも含める。先輩が後輩をトレーニングするという形で、後輩の育成にも PBL の手法を活用する。</p> <p>(略)</p> <p>(25 ページ)</p> <p>②アクティブラーニングによる地域貢献</p> <p>(略)</p> <p>(25 ページ)</p> <p>〈アクティブラーニングの充実〉</p> <p>地域協働型教育研究 以下 (略)</p> <p>(略)</p> <p>(26 ページ)</p> <p>〈地域協働の準備状況〉</p> <p><u>地域と協働して行う PBL のテーマをより具体化するために、福知山市役所 (市長、防災責任者、情報担当者、教育委員会) と協議を重ねるとともに、地域の企業である、株式会社 SHF、株式会社浅田可鍛鉄所、ニンバリ株式会社、ウィラートレイン株式会社、京都北都信用金庫と面談して協働についての意思確認を行った。その結果、福知山市役所や福知山公立大学の内部の情報化への取り組み、小中学校で 2020 年度から始まるプログラミング教育への取り組み、観光客のデータの分析とマーケティングへの活用、丹波栗の不良品の自動選別など他の他にも多くの課題をいただいている。</u></p> <p><u>初期はこうしたテーマを足掛かりとして、①体験することとそこから得た学びから始め、②より具体的な課題を学生自身で発見してその課題解決に向けたプロジェクトを提案する、③IT 実習などの授業で学んだ ICT 技術を用いて設計・実装を行う、④成果物の試験運用・評価・報告を行う、などが PBL 科目で想定している基本的な流れで</u></p>	<p>レーニングコースの開発、ツールの開発や評価等、直接的な地域問題解決以外のものも含める。先輩が後輩をトレーニングするという形で、後輩の育成にも PBL の手法を活用する。</p> <p>(略)</p> <p>②アクティブラーニングによる地域貢献</p> <p>(略)</p> <p>〈アクティブラーニングの充実〉</p> <p>地域協働型教育 以下 (略)</p> <p>(略)</p> <p>(項全体を追加)</p>
---	---

<p><u>ある。</u></p> <p>(略)</p> <p>(26 ページ)</p> <p>イ 履修指導方法</p> <p>(略)</p> <p>(31 ページ)</p> <p>〈PBL の実施方法及び履修指導について〉</p> <p>(略)</p> <p>PBL では、1 年次では「地域情報 PBL 入門」(2 単位)、2 年次では「地域情報 PBL 基礎」(2 単位)、3 年次では「地域情報 PBL」(4 単位)、4 年次では「地域情報プロジェクト」(8 単位) を段階的に履修することとしている。これらの PBL の 4 つの科目については、18 名の専任教員のうち 17 名が 4 つのユニットに分けられ、それは後述の IT 実習の I、II、III、IV の担当教員と対応している。<u>各ユニットは教授・准教授を中心に 4 ないし 5 名の教員で構成する。なお、ユニットは PBL を実際に運用していく際の教員のグループであり、既述のトラックと関係しているものではない。</u></p> <p><u>具体的な授業に対する学生の編成について述べる。まず、学科全体の教員による会議で 1～4 年次の PBL の 4 つの年次別の科目の授業計画の基本方針を定め、教授・准教授が中心となって、担当者全員で協議し、1 科目につき (学年ごとに)、1 つのシラバスを作成する。PBL の実施に当たり、ゼミ (教員一人が担当する授業) 単位でテーマ設定が行われる。ゼミ所属については、学年当初に各担当教員のテーマ群と受け入れ最大可能数</u></p>	<p>(略)</p> <p>(略)</p> <p>(略)</p> <p>(略)</p> <p>PBL では、1 年次では「地域情報 PBL 入門」(2 単位)、2 年次では「地域情報 PBL 基礎」(2 単位)、3 年次では「地域情報 PBL」(4 単位)、4 年次では「地域情報プロジェクト」(8 単位) を段階的に履修することとしている。これらの PBL の 4 つの科目については、18 名の専任教員のうち 17 名が 4 つのユニットに分けられ、それは後述の IT 実習の I、II、III、IV の担当教員と対応させる。<u>各ユニットは教授・准教授を中心に 4 ないし 5 名の教員で構成し、授業は教員ごとに別々に行う場合とユニット単位で行う場合を合理的に組み合わせ、授業の目的・設計・成績評価にばらつきのないように努める。ユニットについては、PBL を実際に運用していく際の教員のグループであり、既述のトラックと直接に関係しているものではない。</u></p> <p><u>具体的には、学科全体の教員による会議で 1～4 年次の PBL の 4 つの年次別の科目の授業計画の基本方針を定め、教授・准教授が中心となって、担当者全員で協議し、1 科目につき (学年ごとに)、1 つのシラバスを作成する。</u></p>
---	--

<p>を学科全体の教員による会議で調整の上、学生に明示する。実際に授業が開始される前のオリエンテーションでの説明、シラバス等の資料も参考にしつつ、原則学生同士の話し合いでゼミの配属を決定する。テーマは複数の課題を含む大きな枠組みで1ないし複数提示され、フィールドワークなどの活動を通じながら、学生によるプロジェクト(課題ごとのゼミ内グループ)初期段階で教員・上級生とともに具体的な課題に落とし込む。なお、後述する学生間での学びあいを円滑・活性化するために、プロジェクトは異なる学年の学生で構成することを推奨し、上級生の課題に対する拡張や発展、部分問題の解決などもテーマとして取り入れ、学年を越えた形での学びの深まりを期待する。</p> <p>評価方法としては、PBL科目は全て通年科目であるので、日常のゼミでの学習に関する評価、各学期末にユニットを単位として、そのユニットに所属する教員が担当するゼミ学生全員に参加と発表が義務付けられている中間報告発表会と年次最終報告発表会を行う。さらに、学生個々には報告書という形で各々の学年ごとの科目での活動報告をまとめさせる。発表会において、プロジェクトの実施状況とその成果の優劣に対し、各ユニットの教員全て(4ないし5名)がそのユニットを単位とする発表会における全ての学生の発表を評価する。また、プロジェクトの成否にかかわらず、詳細や個人活動による特別な努力や独自の学修成果を個人報告書の内容から評価する。これらに加えて、教員が単独で行う授業場面での学修成果やレポートなども加味する。PBL科目の単位認定時には、各年度末に実施する学科全体の</p>	<p>また、PBL科目は全て通年科目であるので、途中でのユニット単位の学生全員が参加を義務付けられた中間発表と終了時の発表の2回をユニット単位で行う。また、終了時には報告書という形で学生個々が各自の報告をまとめる。評価方法としては、各ユニットの教員全て(4ないし5名)がユニットに所属する学生全員が参加する発表会における学生の発表を評価し、発表に対するアドバイスをを行うとともに、教員が単独で行う授業場面での学修成果やレポートなども加味しつつ、評価していく。PBL科目の単位認定時には、学科全体の会議で教員相互により点検することで内容や到達レベルを揃える。</p>
---	--

<p>会議で教員の相互点検により内容や到達レベルを揃える。</p> <p><u>PBLの具体的な課題解決活動に関し、この活動では教えあいの中で学び成長する力を重視し、学生個人の中に各自が持つ学ぶ力を内発させ、学生が後輩を教える際に力が育成されるという観点から、学年合同での授業形態における活動も積極的に評価に含めることをも想定している。</u>各 PBL 科目は通年科目であり、1 年次の「地域情報 PBL 入門」と 2 年次の「地域情報 PBL 基礎」は週 1 コマの履修を、3 年次の「地域情報 PBL」は週 2 コマの履修を、4 年次の「地域情報プロジェクト」は週 4 コマの履修を必要とする（1 コマは 90 分）。このうち 1 コマを 1 年次、2 年次、3 年次、4 年次対象に同じ曜日・時間帯で開講する。同様に 3 年次と 4 年次が合同で同じ曜日・時間帯に行うコマをさらに 1 コマ開講する。この複数の学年が受講する合同のコマでは、上級生が、類似したテーマを持つ同ゼミ（あるいは同ユニット）の下級生に対して直接相談やアイデアの創出に加わる。このことにより、下級生は上級生の実践経験に基づき、座学や教員主導の活動だけでは得られない、価値創造の技法や観点を学ぶことができる。さらに、上級生は下級生への指導や相談での対応を通じて、より深い理解と新しい視点での自らの課題に対する見識を深めることができる。1 年次においては、特に 4 年次の PBL 活動を実際に見学・体験して PBL 活動がどのようなものであるかを実践的に学ぶことができる期間を設定しており、スムーズな上下級生間のコミュニケーションができるように配慮も試みている。なお、個人報告書ではプロジェクトの内容に加えてこれらのコミュ</p>	<p><u>PBL の各クラス（教員一人の担当する授業）分けについては、学年当初に各担当教員の受け入れ最大可能数を学科全体の教員による会議で調整の上、学生に明示する。</u>その後、オリエンテーションでの説明、ゼミ訪問、シラバス等の資料も参考にして教員の立ち合いによる学生同士の話し合いで教員の助言も受けながら、学生が話し合い、そして知恵を出し合いながら時間をかけてクラス分けを決定し、履修登録を行う。</p> <p>教えあいの中で学び成長する力を重視し、学生個人の中に各自が持つ学ぶ力を内発させ、学生が後輩を教える際に力が育成されるという観点から学年合同での授業形態を想定している。各 PBL 科目は通年である。1 年次の「地域情報 PBL 入門」は 1 コマの履修を、2 年次の「地域情報 PBL 基礎」は 1 コマの履修を、3 年次の「地域情報 PBL」は 2 コマの履修を、4 年次の「地域情報プロジェクト」は 4 コマの履修を必要とする（1 コマは 90 分）。これを 1 コマは 1 年次、2 年次、3 年次、4 年次合同で行い、1 コマは 3 年次と 4 年次が合同で行い、2 コマは 4 年次のみの授業として行うこととする。この学年の枠を超えた合同での授業は、学び合い、教え合う中で教育的効果を高めるために行うものである。この PBL 科目の運営は先に述べた教員 4 または 5 名から構成されるユニット単位を基礎として、最終的には担当者全員で運営し、各年次での学習成果の確認と教育の質の保証に細心の注意を払う。（資料 16）</p>
--	---

<p><u>ニケーション・グループ活動における報告を求め、評価に反映する。</u></p> <p>(略)</p> <p>(33 ページ)</p> <p>〈IT 実習の実施方法及び履修指導について〉</p> <p>情報学部情報学科で1、2年次の必修科目のIT実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの実施方法及び履修指導について、以下にまとめる。<u>(詳しくは前掲の資料18にも解説をしている。)</u></p> <p>IT実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは実習テーマごとに4つのグループに分けて実施され、個々の科目を4ないし5名の専任教員が担当する。それぞれの科目の共通テーマと目標は次の通りである。</p> <p>・IT実習Ⅰ「<u>実世界から情報学へーデータサイエンスの世界ー</u>」</p> <p><u>1年次前期配当であり、同学期に開講される必修の講義科目「コンピュータプログラミングⅠ」を補完するとともに、データサイエンスの初歩的な課題に取り組む。実施にあたって必要な機材は各自所有のノートPCのみの予定である。課題への取組を通して、Python や JavaScript といったプログラミング言語の初歩的な扱い、Excel や R を用いた統計解析の初歩を体験・習得する。この科目は入学直後に配置されているため、PCの操作に慣れることも目標に含まれており、到達目標は受講生の技能の実態も考慮して設定する。</u></p> <p>・IT実習Ⅱ「ITの世界」</p> <p><u>1年次後期配当であり、同時に開講される必修の講義科目「コンピュータプログラミングⅡ」を補完するとともに、情報通信技術の課題に取り組む。実施にあたり、各自所</u></p>	<p>(略)</p> <p>(略)</p> <p>〈IT 実習の実施方法及び履修指導について〉</p> <p>情報学部情報学科で1、2年次の必修科目のIT実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの実施方法及び履修指導について、以下にまとめる。</p> <p>IT実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは<u>上述のPBLの4つのユニットに対応する形で実施され、</u>個々の科目を4ないし5名の専任教員が担当する。それぞれの<u>授業に以下のテーマを設けて実施する。</u></p> <p>・IT実習Ⅰ「<u>実世界から情報学へーデータサイエンスの世界ー</u>」</p> <p>・IT実習Ⅱ「ITの世界」</p>
--	--

<p>有のノート PC 以外にそれぞれの実習テーマで必要となる機材を大学が整備する。課題への取り組みを通して、実世界の問題をモデル化しコンピュータを用いて解決する方法、プログラミング技術と各種デバイスを組み合わせた簡単なシステムを構築する方法を体験・習得する。</p> <p>・IT 実習Ⅲ「メディア情報学-AI の世界-」 2 年次前期配当であり、メディア情報処理や人工知能・機械学習技術の課題に取り組む。実施にあたり、各自のノート PC において時間のかかる処理にも取り組めるようにするため、大学が高性能 PC を整備する。課題への取り組みを通して、TensorFlow などの既存のライブラリを用いて高度なソフトウェアを開発する方法、コンピュータによる各種メディアの扱い方、機械学習の初歩を体験・習得する。</p> <p>・IT 実習Ⅳ「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」 2 年次後期配当であり、学生が複合現実に関するテーマを決めてプロジェクト実習を行う。4 つのクラスに分けて実施するが、各クラスの担当教員は最初に自らの専門分野に基づいたいくつかのテーマを示し、受講者はこれを参考にクラスを選択する。どのクラスにおいてもまずは複合現実の環境を構築し、体験する演習を行う。その後、クラス内でさらにいくつかのチームに分かれて個別にテーマを決め、複合現実コンテンツの開発プロジェクトを実施する。実施にあたり、各自のノート PC 以外に必要となる機材を大学が整備する。課題への取り組みを通して、最先端の複合現実の技術を体験し、</p>	<p>・IT 実習Ⅲ「メディア情報学-AI の世界-」</p> <p>・IT 実習Ⅳ「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」</p>
---	---

<p><u>その扱い方を習得するとともに、成果物を仕上げる経験を積む。</u></p> <p>IT 実習 I、II、III、IVの教員は PBL を担当する 17 名の教員が PBL と同じ 4 ユニットに分かれ、IT 実習 I、II、III、IVのそれぞれが 1 つのユニットに対応して 4 ないし 5 クラスに分けて行われる。これらの科目は必修科目であり、1 学年 100 名程度が履修するため、1 クラスは 20 から 25 名程度となる。<u>必修科目とすることで、PBL における各自のテーマに関わらず、全員がデータサイエンス、ICT、AI、複合現実の 4 テーマの実習に一通り取り組むようにしている。</u></p> <p><u>授業計画としては、いずれの科目も初回はオリエンテーションとし、その後は課題に取り組むための環境の準備、実習を交えた各種技術やツールの解説を必要に応じて行い、順次課題に取り組んでいく。評価は課題の成果物についてのプレゼンテーションや報告書により、各科目で扱う技術・ツールの活用法の習得度を中心に見る。なお、PBL 科目とは異なり、課題は担当教員が設定するものとし、プロジェクト形式の課題として学生に提案させる場合も、課題設定に評価の重点を置くわけではない。必要な PC は BYOD とし、実習テーマによって必要となる機材や設備は大学が整備する。</u></p> <p>(略)</p> <p>(47 ページ)</p> <p>(10) 企業実習 (インターンシップを含む) や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア インターンシップの概要</p> <p>(略)</p> <p>※既設の地域経営学部で実施しているインターンシップ先の中で情報学部の学生の</p>	<p>IT 実習 I、II、III、IVの教員は PBL のユニットと同じ構成であり、個々の授業は 4 ないし 5 クラスで行われる。</p> <p>これらの科目は必修科目であり、1 学年 100 名程度が履修するため、1 クラスは 20 から 25 名程度となる。</p> <p>(略)</p> <p>(10) 企業実習 (インターンシップを含む) や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア インターンシップの概要</p> <p>(略)</p> <p>※既設の地域経営学部で実施しているインターンシップ先の中で情報学部の学生の</p>
---	---

<p>インターンシップと目的が適合するものをピックアップするとともに、新たに IT 系事業所や事業所の IT 部門を中心として開拓を行い、<u>大都市圏での新規開拓先</u>も含め、該当科目の履修者全員のインターンシップを実施できるよう調整する。また、選択科目であり、<u>全員が必修という形で</u>の科目設定とはしていない。そのため現時点では、<u>本学部のインターンシップの履修者は 10 名程度を見込んでいる。</u></p> <p>(資料 24)</p> <p>(略)</p> <p>(48 ページ)</p> <p>イ インターンシップ先の確保及び実習の流れ</p> <p><u>インターンシップの受け入れ先は、北近畿地域の企業リストを大学で準備して学生に提示する。リストに記載する企業は事前に定められたフォーマットに基づいて企業概要、期間、実習テーマ、実習内容等について大学に提出し、大学が認めた企業について単位認定の対象とする。また、都市部の企業など北近畿以外の地域でインターンシップを実施する場合は、実習開始前に、学生あるいは実習予定先企業に実習内容に関する情報を提供してもらい、それを大学側で確認し、学生が企業での就業体験を通してキャリア意識を形成し、独自の視点で課題を発見できるような実習内容であると認められたものは単位認定の対象とする。</u></p> <p>実習開始前に、参加する学生の情報（履歴書、志望理由書等）について、大学から受け入れ先企業に提供するとともに、学生と実習先が事前に打ち合わせができるように調整を行う。終了後に、学生は報告書を作成し、受け入れ先企業及び大学に提出する。</p>	<p>インターンシップと目的が適合するものをピックアップするとともに、新たに IT 系事業所や事業所の IT 部門を中心として開拓を行い、新規開拓先も含め、該当科目の履修者全員のインターンシップを実施できるよう調整する。また、選択科目であり、<u>情報学系統ではインターンシップは大学院での受け入れも多いために、本学部のインターンシップの履修者は 10 名程度を見込んでいる。</u>(資料 20)</p> <p>(略)</p> <p>イ インターンシップ先の確保及び実習の流れ</p> <p><u>インターンシップの受け入れ先は、主として学生の自主的な開拓に委ねるが、必要に応じて情報学部との間で覚書を取り交わす。</u></p> <p>実習開始前に、参加する学生の情報（履歴書、志望理由書等）について、大学から受け入れ先企業に提供するとともに、学生と実習先が事前に打ち合わせができるように調整を行う。終了後に、学生は報告書を作成し、受け入れ先企業及び大学に提出する。</p>
---	--

<p>(略)</p> <p>(48 ページ)</p> <p>オ 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p><u>単位の認定にあたっては、5日(40時間)以上の実習を実施し、実習中に作成した実習日誌と報告書の内容を担当教員が総合的に評価したうえで単位認定を行う。報告書では、「受け入れ先事業所概要」「実習内容の概要」「実習を通じて新たに理解したこと及び発見したこと」「実習中に考察した自身の課題と今後の取組」「卒業後の進路のために、これから準備すべきことと感じたこと」等についての的確にわかりやすく記載しているかという点を重視して成績評価を行う。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>オ 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p><u>担当教員が実習日誌と報告書を総合的に評価したうえで単位認定を行う。</u></p> <p>(略)</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料8 福知山公立大学情報学部情報学科 科目配置表

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」 <u>必修</u> 2単位	共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」 <u>選択</u> 2単位

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料9 公立大学法人福知山公立大学履修規程 (案)

新	旧
別表第2 共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」 <u>必修</u> 2単位	別表第2 共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」 <u>選択</u> 2単位

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 14 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (各トラック均等型)

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群 「●情報リテラシー」	共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 15 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (データサイエンス特化型)

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群 「●情報リテラシー」	共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 16 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (ICT 特化型)

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群 「●情報リテラシー」	共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 17 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学①-人工知能特化型)

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群 「●情報リテラシー」	共通教育科目 全学共通科目群 「情報リテラシー」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 17 福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学②-エンタテインメント特化型)

新	旧
共通教育科目 全学共通科目群	共通教育科目 全学共通科目群

<u>「●情報リテラシー」</u>	<u>「情報リテラシー」</u>
-------------------	------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 18 「PBL・IT 実習の実施に係る資料」

新	旧
資料 5 PBL・IT 実習の実施に係る資料 (補正後)	資料 4 PBL・IT 実習の実施に係る資料 (補正前)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

資料 19 令和 5 年度 福知山公立大学 時間割表 (情報学部) (案)

新	旧
後期 火曜日 2 限 <u>「情報リテラシー●」</u>	後期 火曜日 2 限 <u>「情報リテラシー」</u>

(是正事項) 情報学部 情報学科

5. <教員配置が不明確>

「コンピュータプログラミングⅠ・Ⅱ」は本学部の教育課程において重要な科目に位置付けられると見受けられるが、専任の教授又は准教授が配置されていないため各科目の教育課程における位置付けについて明らかにするか、教員の配置を改めること。

(対応)

「コンピュータプログラミングⅠ・Ⅱ」の教員の配置について、以下のとおり修正する。

近年、各種ツール類の発達により、実際にプログラムコードを作成するプログラミングは必ずしも必要とされない場合も増えてきているが、プログラミングの基本的な考え方自体は情報分野に於いては必須である。そのため、「コンピュータプログラミングⅠ・Ⅱ」については学生全員に履修させることを意図しているが、主要科目には設定していなかったため、これらを主要科目とし、それぞれ教授と講師の共同担当科目に変更する。その結果を受けて、設置の趣旨等を記載した書類の中にある主要科目の表は修正する。

(新旧対照表) 教育課程の概要

変更内容 「コンピュータプログラミングⅠ・Ⅱ」の教員配置の変更

新	旧
資料3 教育課程等の概要 (補正後)	資料2 教育課程等の概要 (補正前)

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
情報専門基礎 (P9) 「コンピュータプログラミングⅠ」 備考欄 共同 「コンピュータプログラミングⅡ」 備考欄 共同	情報専門基礎 (P9) 「コンピュータプログラミングⅠ」 備考欄 (空白) 「コンピュータプログラミングⅡ」 備考欄 (空白)

(新旧対照表) シラバス(授業計画)

新	旧
---	---

「コンピュータプログラミングⅠ」 担当教員 <u>黄 宏軒</u> ・ <u>眞鍋雄貴</u>	「コンピュータプログラミングⅠ」 担当教員 <u>眞鍋雄貴</u>
「コンピュータプログラミングⅡ」 担当教員 <u>倉本 到</u> ・ <u>眞鍋雄貴</u>	「コンピュータプログラミングⅡ」 担当教員 <u>眞鍋雄貴</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(10 ページ) (4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)	(4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)
(16 ページ) ウ 教育課程編成の基本方針とその体系性 について (略)	ウ 教育課程編成の基本方針とその体系性 について (略)
(17 ページ) 主要科目 ※ (表) の変更 <u>添付資料 6</u>	主要科目 ※ (表) の変更 <u>添付資料 6</u>
(22 ページ) (6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)	(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)
(26 ページ) イ 履修指導方法 (略)	イ 履修指導方法 (略)
(27 ページ) なお、本学情報学部情報学科においては、 情報学の知識や体系を学ぶにあたって、学生 の多様性を考慮するとともに尊重し、必修科 目はあまり多くは設定していない。しかし、 「(1) 教育課程の編成の考え方及び特色」に おいて示した主要科目 (18 科目) では、必修 科目となっている PBL 科目を除く <u>14</u> 科目に	なお、本学情報学部情報学科においては、 情報学の知識や体系を学ぶにあたって、学生 の多様性を考慮するとともに尊重し、必修科 目はあまり多くは設定していない。しかし、 「(1) 教育課程の編成の考え方及び特色」に おいて示した主要科目 (16 科目) では、必修 科目となっている PBL 科目を除く <u>12</u> 科目に

<p>ついても、どのトラックを中心として学ぶにしても、何れも重要な科目であり、履修指導において履修するよう強く指導するものとする。</p> <p>(略)</p>	<p>ついても、どのトラックを中心として学ぶにしても、何れも重要な科目であり、履修指導において履修するよう強く指導するものとする。</p> <p>(略)</p>
--	--

(新旧対照表) 教員名簿[教員の氏名等]

新	旧
<p>(2 ページ) ※担当科目の追加</p> <p>調書番号 ③</p> <p>専任等区分 専</p> <p>職位 教授</p> <p>氏名 フリガナ <就任(予定)年月></p> <p>コウ コウケン</p> <p>黄(黄) 宏軒</p> <p><令和2年4月></p> <p>担当科目の名称</p> <p><u>コンピュータプログラミングⅠ</u></p> <p>配当年次</p> <p><u>1前</u></p> <p>担当単位数</p> <p>2</p> <p>年間開講数</p> <p>1</p> <p>調書番号 ②</p> <p>専任等区分 専</p> <p>職位 教授</p> <p>氏名 フリガナ <就任(予定)年月></p> <p>クラモト イタル</p> <p>倉本 到</p> <p><令和2年4月></p> <p>担当科目の名称</p> <p><u>コンピュータプログラミングⅡ</u></p> <p>配当年次</p> <p><u>1後</u></p> <p>担当単位数</p>	<p>(2 ページ) ※担当科目の追加</p> <p>調書番号 9</p> <p>専任等区分 専</p> <p>職位 教授</p> <p>氏名 フリガナ <就任(予定)年月></p> <p>コウ コウケン</p> <p>黄(黄) 宏軒</p> <p><平成32年4月></p> <p>調書番号 8</p> <p>専任等区分 専</p> <p>職位 教授</p> <p>氏名 フリガナ <就任(予定)年月></p> <p>クラモト イタル</p> <p>倉本 到</p> <p><平成32年4月></p>

<u>2</u> 年間開講数 <u>1</u>	
-------------------------------	--

(是正事項) 情報学部 情報学科

6. <専任教員数が設置基準を満たしていない>
 専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

本学の専任教員数について、大学設置基準の規程を満たすため、以下のとおり完成年次までに専任教員を充足させる。

補正申請において、情報学部情報学科で教授 1 名、准教授 2 名、専任講師 1 名が就任し、情報学部情報学科は教授 8 名、准教授 6 名、講師 4 名の 18 名での教員体制とする。また、既設の地域経営学部において、令和 2 年度に教授を 1 名増員し、令和 3 年度に教授 2 名を採用予定であり、完成年次である令和 5 年度においては、大学全体で専任教員 43 名（うち教授 22 名）となり、大学設置基準の規定を満たす。

補正申請によって、教員の一部に変更が生じたために、「専任教員の年齢構成・学位保有状況」の表（完成年度終了時の年齢を記載）は一部変更となる。（添付資料 7, 8）

なお、大学全体を通しての教員組織年次計画は設置の趣旨等を記載した書類においては、教員組織整備年次計画を資料 11 として新規に追加し、専任教員の整備計画の確実性を担保している。

(新旧対照表) 基本計画書

新

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	情報学部情報学科	8人 (7)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	18人 (17)	0人 (0)	32人 (22)
	計	8 (7)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	18 (17)	0 (0)	—
既設	地域経営学部 地域経営学科	10 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	17 (15)	0 (0)	37 (24)
	医療福祉経営学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	39 (26)
	計	14 (12)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	25 (23)	0 (0)	—
合計		22 (19)	14 (14)	4 (4)	3 (3)	43 (40)	0 (0)	—

旧

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設	情報学部情報学科	10人 (9)	5人 (5)	3人 (3)	0人 (0)	18人 (17)	0人 (0)	32人 (22)
	計	10 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	18 (17)	0 (0)	—
既設	地域経営学部 地域経営学科	8 (7)	6 (5)	0 (0)	3 (3)	17 (15)	0 (0)	37 (24)
	医療福祉経営学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	39 (26)
	計	12 (11)	8 (7)	0 (0)	5 (5)	25 (23)	0 (0)	—
合計		22 (20)	13 (12)	3 (3)	5 (5)	43 (40)	0 (0)	—

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(8 ページ)</p> <p>(2) 学部・学科等の特色</p> <p>(略)</p> <p>(9 ページ)</p> <p>教育課程と教員配置の特色</p> <p>(略)</p> <p>後述するように、学部学科の教育並びに運営に万全を期するために、設置基準上で工学分野の学生入学定員 100 名に必要な専任教員 14 名を上回る 18 名体制 (うち教授 8 名) をとるとともに、学内再編ではなく多方面・他分野の様々な教員による全くの新学部設置ということを考慮して、学部学科の通常教育並びに人材養成には欠かせない教養教育の充実をより円滑にするために、経験豊富な教養担当教員を情報学部内に 1 名配置した。一方、既設学部には、情報学部との連携・協働を円滑に推進できるように文理連携・協働教育研究推進担当教員を 1 名配置することとした。</p> <p>(略)</p> <p>(18 ページ)</p> <p>(5) 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>(略)</p>	<p>(2) 学部・学科等の特色</p> <p>(略)</p> <p>教育課程と教員配置の特色</p> <p>(略)</p> <p>後述するように、学部学科の教育並びに運営に万全を期するために、設置基準上で工学分野の学生入学定員 100 名に必要な専任教員 14 名を上回る 18 名体制 (うち教授 10 名) をとるとともに、学内再編ではなく多方面・他分野の様々な教員による全くの新学部設置ということを考慮して、学部学科の通常教育並びに人材養成には欠かせない教養教育の充実をより円滑にするために、経験豊富な教養担当教員を情報学部内に 1 名配置した。一方、既設学部には、情報学部との連携・協働を円滑に推進できるように文理連携・協働教育研究推進担当教員を 1 名配置することとした。</p> <p>(略)</p> <p>(5) 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>(略)</p>

(19 ページ)

教員構成と教育内容

教員組織の全体の職位構成としては、教授が 8名 (うち1名は教養系)、准教授が 6名、講師が 4名 で合計18名となっている。教授のうち1名の教養系科目を担当する教授については、人材養成には欠かせない教養教育の充実をより円滑にするために、経験豊富な教養担当の教授を情報学部内に1名配置した。

18名の専任教員のうち、8名が教授である。これは大学設置基準上で必要とされる工学分野で入学定員100名の学科で必要最少人数の教員14名、その半数の7名の教授が必要とされているが、教員数全体でそれを上回っており、教授数でも上回っている。このことは、専任教員一人当たりの学生数がより少なくなり、学生が教員からの指導をより密にかつ適切に受けられることができる環境を整えられたことを示している。教授と准教授の数を十分に配置することで、主要科目を教授もしくは准教授が担当することを実現しており、大学設置基準に記載された水準を保持している。

また、専任教員の年齢構成は、開設時の年齢で30歳台が5名、40歳台が6名、50歳台が4名、60歳台が3名という形であり、バランスの取れた年齢構成となっている。これは、4年間という学年進行期間も考慮しつつ、専任教員の年齢構成の面からも学生への教育研究面での指導において、多面的で有益な指導が期待できる。

専任教員の定年は、68歳 (特別任用教員は70歳) となっており、60歳台の教員もその培ってきた経験や識見を生かして教育に従事し、後進の育成に当たる期間が十分与

教員構成と教育内容

教員組織の全体の職位構成としては、教授が 10名 (うち1名は教養系)、准教授が 5名、講師が 3名 で合計18名となっている。教授のうち1名の教養系科目を担当する教授については、人材養成には欠かせない教養教育の充実をより円滑にするために、経験豊富な教養担当の教授を情報学部内に1名配置した。

18名の専任教員のうち、半数以上の10名が教授である。これは大学設置基準上で必要とされる工学分野で入学定員100名の学科で必要最少人数の教員14名、その半数の7名の教授が必要とされているが、教員数全体でそれを上回っており、教授数でも上回っている。このことは、専任教員一人当たりの学生数がより少なくなり、学生が教員からの指導をより密にかつ適切に受けられることができる環境を整えられたことを示している。教授と准教授の数を十分に配置することで、主要科目を教授もしくは准教授が担当することを実現しており、大学設置基準に記載された水準を保持している。

また、専任教員の年齢構成は、開設時の年齢で30歳代が5名、40歳代が6名、50歳代が5名、60歳代が2名という形であり、バランスの取れた年齢構成となっている。これは、4年間という学年進行期間も考慮しつつ、専任教員の年齢構成の面からも学生への教育研究面での指導において、多面的で有益な指導が期待できる。

専任教員の定年は、68歳となっており、60歳代の教員もその培ってきた経験や識見を生かして教育に従事し、後進の育成に当たる期間が十分与えられている。情報学部

<p>えられている。情報学部の専任教員として着任する教員のうち、<u>2名の60歳台の教員</u>について、<u>本学就業規則の附則により定年として定める68歳(特別任用教員は70歳)</u>には拘束されず、<u>令和5年度末までの雇用</u>とし、情報学部の開設時の入学生が卒業するまでの教育とその継続性を保証している。その教員の退職後の後任補充については、ベテラン、中堅、若手の教員の構成に配慮した採用を行う予定である。なお、教員の定年に係る規程として、<u>令和2年4月1日より改正したものを施行する予定であり、その案を添付する。(資料10)</u></p> <p>本学情報学部情報学科の専任教員として予定している教員のうち、教授1名を除き合計17名が開設時の<u>令和2年4月</u>には着任しており、非常に充実した教員数、そして教員組織ということが出来る。開設時の<u>令和2年4月</u>に専任としては未着任である教授1名も、<u>当該年度は兼任教員</u>という立場で授業科目を2科目担当し、実質上全ての専任教員予定者が開設時には、着任もしくは授業を担当しているという非常に準備の整った教員組織体制を敷いている。</p> <p><u>令和2年度に兼任教員として授業を担当し、令和3年度から専任教員として着任する教員1名</u>については、その中心的な研究分野に<u>関係するテーマを扱う講義科目は令和3年度専任教員として着任後の2年次より開講される</u>。それに先駆けて、情報学を学ぶ上で基礎となるIT実習と主要科目であり欠くことのできないPBL科目については、<u>1年次から担当することにより、教育上の継続性を教育課程上で重視し担保することとしている</u>。該当教員1名については、本人の着任の承諾を受けており、<u>1年目の令</u></p>	<p>の専任教員として着任する教員のうち、<u>1名の60歳代の教員</u>について、<u>就業規則の附則に定年として定める68歳</u>には拘束されず、<u>平成35年度末までの雇用</u>とし、情報学部の開設時の入学生が卒業するまでの教育とその継続性を保証している。その教員の退職後の後任補充については、ベテラン、中堅、若手の教員の構成に配慮した採用を行う予定である。なお、教員の定年に係る規程として、<u>平成32年4月1日より改正したものを施行する予定であり、その案を添付する。(資料9)</u></p> <p>本学情報学部情報学科の専任教員として予定している教員のうち、教授1名を除き合計17名が開設時の<u>平成32年4月</u>には着任しており、非常に充実した教員数、そして教員組織ということが出来る。開設時の<u>平成32年4月</u>に専任としては未着任である教授1名も、<u>平成32年度は兼任教員</u>という立場で授業科目を2科目担当し、実質上全ての専任教員予定者が開設時には、着任もしくは授業を担当しているという非常に準備の整った教員組織体制を敷いている。</p> <p><u>平成32年度に兼任教員として授業を担当し、平成33年度から専任教員として着任する教員1名</u>については、その中心的な研究分野を<u>基礎に専門的なテーマを扱い、講義科目は2年次より開講される</u>。<u>専任教員としての着任は平成33年度の着任となるが、それに先駆けて、情報学を学ぶ上で基礎となるIT実習と主要科目であり欠くことのできないPBL科目を担当する予定であり、PBL科目については、1年次からの継続性を教育課程上で重視し、例外的に兼任での着任を予定している</u>。該当1名について</p>
---	---

<p>和 2 年度の兼任教員としての授業担当及び令和 3 年度からの本学情報学部専任教員（教授）への令和 3 年度の着任については何ら支障はない。</p> <p>また、上記のとおり、専任教員 18 名のうちで教授が 8 名、准教授が 6 名、講師が 4 名という構成をとった。これは、教授に偏ることもなく、バランスのとれた非常に充実した専任教員の構成であり、教授とそれ以外の職位との教員のバランスを取った結果である。これにより、学生は経験豊かな教授からも指導を受けることができるとともに、一方では若くて教育研究への情熱をもった准教授や講師からも指導を受けることができ、その両面があることで多面的で有益な指導を受けることができる。</p> <p>(20 ページ)</p> <p>教育指導と質</p> <p>なお、専任教員の取得学位については、18 名の専任教員のうちで 18 名全てが博士の学位を取得しており、現在の工学分野・情報学部教育の水準としては、十分なものであり、充実している。学生の教育研究上の指導や教育の質が十分に保証されているといえることができる。</p> <p>(略)</p> <p>(21 ページ)</p> <p>教員組織の運営と連携</p> <p>(略)</p> <p>さらに、本学情報学部は、既設学部の地域経営学部をはじめ工織大等との文理連携・協働型教育研究を推進する。そのため、既設学部に「文理協働教育研究推進担当教員」1 名を配置し、とくに学生の教育研究上</p>	<p>は、本人の着任の承諾を受けており、本学情報学部専任教員（教授）への平成 33 年度の着任について何ら支障はない。</p> <p>また、上記のとおり、専任教員 18 名のうちで教授が 10 名、准教授が 5 名、講師が 3 名という構成をとった。これは、教授に偏ることもなく、バランスのとれた非常に充実した専任教員の構成であり、教授とそれ以外の職位との教員のバランスを取った結果である。これにより、学生は経験豊かな教授からも指導を受けることができるとともに、一方では若くて教育研究への情熱をもった准教授や講師からも指導を受けることができ、その両面があることで多面的で有益な指導を受けることができる。</p> <p>教育指導と質</p> <p>なお、専任教員の取得学位については、18 名の専任教員のうちで 17 名が博士の学位を取得し、また 1 名の現時点での博士学位未取得者も平成 31 年 9 月に博士学位を取得する見込みとなっており、現在の工学分野・情報学部教育の水準としては、十分なものであり、充実している。学生の教育研究上の指導や教育の質が十分に保証されているといえることができる。</p> <p>(略)</p> <p>教員組織の運営と連携</p> <p>(略)</p> <p>さらに、本学情報学部は、既設学部の地域経営学部をはじめ工織大等との文理連携・協働型教育研究を推進する。そのため、既設学部に「文理協働教育研究推進担当教員」1 名を配置し、とくに学生の教育研究上</p>
--	--

<p>の指導や教育の質の保証、地域ニーズへの対応にも万全の体制をとることとした。</p> <p><u>情報学部情報学科が設置されることに伴い、年次進行で大学全体の収容定員が増えることになり、大学設置基準の別表 2 で定められている教員数も増えていくことになる。これに伴う教員組織の段階的整備については、情報学部だけではなく既設の地域経営学部での教員組織も含めての整備を計画している。(資料 11)</u></p> <p>(略)</p>	<p>の指導や教育の質の保証、地域ニーズへの対応にも万全の体制をとることとした。</p> <p>(略)</p>
---	---

資料 11

教員組織整備年次計画（新規追加資料）

教員組織整備年次計画

収容定員

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
大学全体の定員	574	654	734	814
地域経営学部地域経営学科	370	350	330	310
地域経営学部医療福祉経営学科	104	104	104	104
情報学部情報学科	100	200	300	400

教員配置数

各年度4月1日の数

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
地域経営学部地域経営学科	15 (8)	17 (10)	17 (10)	17 (10)
地域経営学部医療福祉経営学科	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)
地域経営学部全体	23 (12)	25 (14)	25 (14)	25 (14)
情報学部情報学科	17 (7)	18 (8)	18 (8)	18 (8)
大学全体	40 (19)	43 (22)	43 (22)	43 (22)

() 内 教授数

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

変更内容 専任教員職位別数の変更

新	旧
資料 8 専任教員の年齢構成・学位保有状況 (補正後)	資料 7 専任教員の年齢構成・学位保有状況 (補正前)

7. <施設の整備計画が不明確>

施設の整備計画として新たに整備される「ゼミ室」が本学部の専用であるか不明であり、「PBL」において学生が自主的に課題に取り組む施設が確保されているか不明確であるため、本学部の設置に伴い必要となる施設が十分に確保されていることを明らかにしつつ、図面を適切に修正すること。

(対応)

「校舎等施設の整備計画」にある「ゼミ室」との記載は誤記であり、正しくは「セミナー室」であった。以下ではこの表記に統一し、PBLに関連する施設の整備計画について明確にし、図面を修正する。

1 PBL で使用する教室について

情報学部の PBL で使用する教室のうち、以下に記載する新設の教室はすべて情報学部の専用教室であり、添付資料 10 に示したとおりである。PBL の授業時間においては、これらの教室を使用して実施するのが基本である。

1 号館

- ①3 階のセミナー室 (1 室あたり 30 席) 4 室
- ②2 階のワークショップスペース (150 席) 1 室

3 号館

- ③実験・演習室 (1 室あたり 32 席) 4 室
- ④ワークショップスペース (72 席、45 席) 2 室

PBL 授業のうち週 1 コマは 4 学年計 400 名で同一日の同一時間帯に実施するが、17 のゼミ単位もしくは 4 つのユニット単位に分かれるため、400 名が 1 教室で授業を実施することはない。PBL 授業に対して上記の計 11 室、席数 515 を専用教室で確保している。なお、②の 150 人規模で使用できるワークショップスペースは平常は 4 区画に分割して 4 教室としての使用を原則としているため、併せて最大 14 室を確保している。

席数の上では上記の通り十分であるが、中間・成果報告会以外の通常の活動は教員 17 名それぞれが担当するゼミ (週 1 コマある 4 学年合同の授業の際で 1 ゼミあたり 25 名程度) に分かれて実施する予定のため、これでは部屋数が不足する可能性がある。そこで、さらに 4 号館にある既存学部と共用のセミナー室 (1 室あたり 30 席) 9 室も利用可能となるよう、既存学部と時間割を調整する。各自のノート PC 以外の機材がなくても活動できるゼミについてはこれらのセミナー室を活用することができるため、PBL 授業時の教室確保は問題ない。なお、ここで記載した全ての教室の机は可動式のものであり、レイアウトを自由に設定できるよう配慮している。ホワイトボード、プロジェクター等、PBL を実

施するうえで必要な備品も整備する。

2 「PBL」において、学生が主体的な学びを行う施設について

4年生100名については、上記①1号館3階セミナー室(1室あたり30席)4室、計120席を専用の教室とし、この教室ではPBL以外には授業を行わず、PBL授業時以外は午前7時から午後7時までには自由に使えるようにする。これにより、4年次のプロジェクト活動に集中的に取り組む環境を確保する。時間外についても、教員の立ち会いの下で利用可能とする。これに加え、下記の共用施設も利用可能とする。

1年生から3年生合わせて300名については、資料10に示した以下に記載する既存学部と共用の施設が利用可能である。

2号館

- ① 1階のCo-labスペース(57席)(授業予定なし)

3号館

- ② 1階の大学・地域連携室(76席)(授業予定なし)

4号館

- ③ 3階のセミナー室(1室あたり30席)9室(授業が予定されていない時間は学生の利用が可能)

- ④ メディアセンター内セミナールーム(20席)(授業予定なし)

生涯学習室(12席)(授業予定なし)

共同研究室(12席)(授業予定なし)

3号館、4号館の講義室も授業利用時以外は利用可能にしている。

資料

添付資料9 校地校舎等の図面(補正前)

添付資料10 校地校舎等の図面(補正後)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(37ページ) (7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略) (39ページ) <u>2) PBL において学生が主体的な学びを行う施設について</u> <u>4年生100名については、1号館3階セ</u>	(7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略) <u>ゼミ室においては、プロジェクト研究など学生が自主的に学習できる環境を整備するため、午後7時まで開放する。</u>

ミナー室 (30 席) 4 室、計 120 席を 4 年生専用の研究室とし、午前 8 時から午後 7 時までは PBL の授業が行われる時間帯を除き他の授業は行われることがないように時間割が編成され、自由に使えるようにする。これにより、4 年次のプロジェクト活動に集中的に取り組む環境が確保される。授業時間外についても、利用可能である。

1 年生から 3 年生合わせて 300 名については、以下の既存学部と共用の施設が利用可能である。

2 号館

①1 階の Co-lab スペース (57 席)

3 号館

②1 階の大学・地域連携室 (76 席)

4 号館

③3 階のセミナー室(1 室あたり 30 席)

9 室

①1 階のメディアセンター内セミナー
ルーム (20 席)

生涯学習室 (12 席)

共同研究室 (12 席)

その他、3 号館、4 号館の講義室も授業
使用時以外は自由に使えるようにしてい
る。

(略)

(略)

8. <授業の実現可能性の疑義>

「地域情報PBL入門」、「地域情報PBL基礎」、「地域情報PBL」、「地域情報プロジェクト」は完成年次の時間割表では各科目の一部を1～4年次まで合同で授業を行う計画であるが、「セミナー室」に最低100人の学生に対して各ユニットの専任教員が授業を実施できるか不明であるため、セミナー室のレイアウトを示しつつ、授業が支障なく実施できる計画であることを明らかにすること。

(対応)

「地域情報PBL入門」、「地域情報PBL基礎」、「地域情報PBL」、「地域情報プロジェクト」における、各ユニットの専任教員の授業の実施可能性について以下のとおり説明する。

PBLでは17名の教員を4ユニットに分けているが、学生はユニットに所属しているわけではなく、あくまでも教員それぞれが担当するゼミへの所属である。ゼミの担当教員が所属するユニット毎に4, 5ゼミ（各ゼミの1学年当たりの平均人数は6名となり4学年で25名前後）が合同で、学生が各100名程度（各ゼミの4学年の平均人数25名前後の4ゼミ分）という単位で授業を実施するのは、各学期の終わりの中間・成果報告会のみであり、4ユニットに分けて以下に記載する100名規模の4つの講義室で実施する計画としている。

1号館

①2階ワークショップスペース（150席）1室

※1室での利用時には、可動式のパーティションを移動させる。

3号館

②講義室（108席）2室

③ワークショップスペース（72席+45席）1室（仕切りで区切られた2部屋を結合）
上記4室を予定しているが、なんらかの理由で使えない場合も4号館の講義室4室（1室143～265席）を利用できる。

中間・成果報告会以外の通常のPBL活動は、17名の教員それぞれが担当するゼミに分かれて実施する。よって、1年生から4年生までが合同で、各ゼミが最大の人数となる週1コマの授業においても、活動の単位は25名前後となる。この通常の活動で使用する教室については審査意見7への対応で述べた通りであり、授業は支障なく実施可能である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(37 ページ)</p> <p>(7) 施設、設備等の整備計画 (略)</p> <p>イ 校舎等施設の整備計画</p> <p>情報学部設置に伴い、<u>令和2年1月</u>までに、必要な講義室、実験・演習室、<u>セミナー室</u>、<u>学生相談室</u>、<u>大学・地域連携室</u>、<u>教員研究室</u>、<u>実習に必要な備品</u>を新たに整備する。</p> <p>また、校舎内<u>全て</u>において、<u>Wi-Fi</u>を利用できる通信環境を整備するとともに、一部の講義室には、学習環境を向上させるために、使用する PC 数に応じた電源を確保することとしている。</p> <p><u>以下では授業の実施にあたって必要となる設備について、より具体的に述べる。</u></p> <p>1) PBL で使用する教室について <u><通常授業時></u></p> <p><u>PBL 科目で使用する教室のうち、以下に挙げる新設の教室はすべて情報学部の専用教室である。PBL の授業時間においては、これらの教室を使用して実施するのが基本である。</u></p> <p><u>1号館</u></p> <p><u>①3階のセミナー室 (1室あたり 30席)</u></p> <p><u>4室</u></p> <p><u>②2階のワークショップスペース (150席) 1室</u></p> <p><u>3号館</u></p> <p><u>③1階及び2階の実験・演習室 (1室あたり 32席) 4室</u></p> <p><u>④2階ワークショップスペース (72席、</u></p>	<p>(7) 施設、設備等の整備計画 (略)</p> <p>イ 校舎等施設の整備計画</p> <p>情報学部設置に伴い、<u>平成32年1月</u>までに、必要な講義室、実験・演習室、<u>ゼミ室</u>、<u>学生相談室</u>、<u>大学・地域連携室</u>、<u>教員研究室</u>を新たに整備する。</p> <p>また、校舎内<u>すべて</u>で、<u>wi-fi</u>を利用できる通信環境を整備するとともに、一部の講義室には、学習環境を向上させるために、使用する PC 数に応じた電源を確保することとしている。</p>

45 席) 2 室

PBL 授業のうち週 1 コマは 4 学年計 400 名で同時に実施するが、実際には 17 名の教員が担当し、通常は 17 のゼミ、発表会時は 4 つのユニットに分けられて実施する。これに対して上記の計 11 室、席数 515 席を専用教室で確保している。なお、②の 150 名規模で使用できるワークショップスペースは平常では 4 区画に分割して 4 教室としての使用を原則としているため、併せて最大 14 室を確保している。

席数の上では上記の通り十分であるが、中間・成果報告会以外の通常の活動は教員 17 名それぞれが担当するゼミ(各教員単位のもので週 1 コマある 4 学年合同の授業の際で 1 ゼミあたり 25 名程度)に分かれて実施する予定のため、17 教室が必要となり、上記 14 室以外に 4 号館にある既設学部と共用のセミナー室(1 室あたり 30 席) 9 室も利用可能となるよう、既設学部と時間割を調整する。各自のノート PC 以外の機材がなくても活動できる教員のゼミについてはこれらのセミナー室を活用することができるため、PBL 授業時の教室確保は問題ない。

なお、ここで挙げた全ての教室の机は可動式のものであり、レイアウトを自由に設定できるよう配慮している。ホワイトボード、プロジェクター等、PBL を実施するうえで必要な備品も整備する。

< 中間・成果報告会時 >

PBL 科目では各学期の終わりに、前学期末には中間報告会、後学期末には成果報告会を実施する。報告会は、4 ユニットに分けて 100 名規模の 4 つの講義室で実施する計画としている。具体的には、

<p><u>1号館</u></p> <p><u>①2階のワークショップスペース（150席）1室</u></p> <p><u>※ 原則、この教室は4分割しているが、1室として使用する場合には、可動式のパーティションを移動させる。</u></p> <p><u>3号館</u></p> <p><u>①1階及び2階の講義室（1室あたり108席）2室</u></p> <p><u>③2階のワークショップスペース（72席+45席）1室（仕切りで区切られた2部屋を結合）</u></p> <p><u>これら4室を予定しているが、その他にも4号館の既設学部と共用の講義室4室（1室143～265席）が利用可能である。</u></p> <p>（略）</p>	<p>（略）</p>
---	------------

9. <設備の整備計画が不明確>

本学部の設置に伴う設備の整備計画が不明であるため、教育課程を踏まえつつ必要となる設備が整備される計画であることを明らかにすること。その際、実験演習室に配置する設備については授業の実施体制も考慮しつつ具体的に説明すること。

(対応)

指摘の通り整備計画の詳細が不十分であったため、以下の通り開設時までには整備することを明確にし、具体的に説明する。

1 各教室に整備する什器について

審査意見 7 への対応においても記載しているが、新設する 1 号館・3 号館の各教室に必要な数の椅子、机、ホワイトボード、プロジェクター、無線 LAN 等の設備を整備する。PBL で利用する予定の教室については、机は全てキャスター付きで可動のものとし、活動内容に応じて自由にレイアウトを設定できるよう配慮する。定員 150 名の 1 号館 2 階ワークショップスペースについてはパーティションで 4 分割をした状態で使用することを原則とし、必要に応じて可動式パーティションを移動させて定員 150 名の教室としても利用できるようにする。

2 IT 実習と PBL で用いる機材の整備について

学生には各自で本学が指定したスペックのノート PC を用意してもらうこととする。そのスペックについては、**添付資料 11**に記載した。その価格は 20 万円程度を想定している。このノート PC に必要なフリーソフトウェアを導入して、授業の各種作業をこなす計画である。このノート PC の他に、IT 実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳについては必要となる機材や商用ソフトウェアがあるため、これらは大学が担当教員の指示に応じて必要数整備する。具体的には以下に記載する機材である。

IT 実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳについて必要となる機材等

授業科目名等	必要となる機材等
IT 実習Ⅱ (情報通信技術、各種デバイスの活用)	小型コンピュータ Raspberry Pi 3 のセット、環境センサ、画像センサ、デバッグ用のモニタ、FPGA として Arty s7、超音波センサ、ロボットとして Lego Mindstorms EV3 の基本セット
IT 実習Ⅲ (人工知能技術)	高性能 PC (80 万円程度のもの)
IT 実習Ⅳ (複合現実のプロジェクト演習)	各種ヘッドマウントディスプレイ、360 度撮影機材をはじめとする各種カメラ、モーショントラッキングデバイ

	スや手指認識デバイス、Arduino やセンサ・モータなどの IoT デバイス群、デプスセンサカメラ、LightWave などの 3D レンダリングソフトウェア
--	--

これらの機材は電源設備が十分に整備された実験・演習室に配置し、PBL でも活用可能とする。PBL でゼミ（各担当教員）によっては必要となるその他の機材については各担当教員の研究費で整備する計画としている。

添付資料

添付資料 11 BYOD PC の必要とされる仕様について

添付資料 12 IT 実習と PBL の実施イメージ（機材配置）

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(37 ページ) (7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略) (39 ページ) 4) IT 実習と PBL で用いる機材の整備について <u>3) で述べた通り、学生が準備するノート PC の他に、IT 実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳについては必要となる機材や商用ソフトウェアがあるため、これらは大学が担当教員の指定に応じて整備する。具体的には次のような機材である。(資料 23)</u> ▶ <u>IT 実習Ⅱ (情報通信技術、各種デバイスの活用) : 小型コンピュータ Raspberry Pi 3 のセット、環境センサ、画像センサ、デバッグ用のモニタ、FPGA として Arty s7、超音波センサ、ロボットとして Lego Mindstorms EV3 の基本セット</u> ▶ <u>IT 実習Ⅲ (人工知能技術) : 高性能</u>	(7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略) (項全体を追加)

<p><u>PC (80 万円程度のもの)</u></p> <p>➤ <u>IT 実習Ⅳ (複合現実のプロジェクト演習) : 各種ヘッドマウントディスプレイ、360 度撮影機材をはじめとする各種カメラ、モーショントラッキングデバイスや手指認識デバイス、Arduino やセンサ・モータなどの IoT デバイス群、デプスセンサカメラ、LightWave などの 3D レンダリングソフトウェア</u></p> <p><u>これらの機材は電源設備が十分に整備された実験・演習室に配置し、PBL でも活用可能とする。PBL でゼミによっては必要となるその他の機材については各担当教員との調整の上で整備する計画としている。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p>
--	------------

10、〈学生の利益保護〉

学生がプログラミング科目を学修する上で必要となる備品を明らかにしつつ、当該備品を学生が準備する必要があるか明かにすること。

(対応)

プログラミング科目を学習する上で、必要な備品及び学生が準備する必要がある備品について、以下のとおり明確化する。

審査意見 9 への対応で示した通り、IT 実習や PBL で必要な機材は大学が整備するが、この他に学生各自が入学時までにノート PC を購入し、持参する必要がある (BYOD: Bring your own device)。これはレポートなどの文書作成、プログラミングといった比較的単純な作業から IT 実習Ⅳでの 3D 処理をはじめとする複雑な処理まで対応することができるものを想定しており、4 年間を通じて使用するために、**添付資料 11** のとおり最低限の要求仕様を設定する。このようにすることで、大学にいる時間のみならず、日ごろから高度な情報機器を活用する習慣を全員が身に付けることを目指すとともに、PBL 科目では学外で活動を行うことも多くなるため、そうした場でも不自由なく情報機器を使用した活動ができるようにすることを目的としている。

この仕様の PC の価格は高いもので 20 万円程度と、学生にとって入学時の費用としては大きな負担になることが予想されるため、必要となる概算金額を学生募集要項に明示し、周知を図る。合格発表時を目途に学生に PC に要求する仕様と、この仕様を満たす具体的なモデルをいくつか提示することで、全学生に共通の理解を得られるよう配慮することとしている。学生の負担を考え、なるべく安いモデルを提示する。

添付資料

添付資料 11 BYOD PC の必要とされる仕様について

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(37 ページ) (7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略)	(7) 施設、設備等の整備計画 (略) イ 校舎等施設の整備計画 (略)

(39 ページ)

3) 学生自身が準備する必要がある PC について

IT 実習や PBL で必要な機材は大学が整備するが、この他に学生各自が入学時まで
にノート PC を購入し、持参する必要がある (BYOD: Bring your own device)。
レポートなどの文書作成、プログラミングといった比較的単純な作業から IT 実習
IV での 3D 処理をはじめとする複雑な処理
まで対応することができるものを想定し
ており、4 年間を通じて使用するため
に、最低限の要求仕様を設定する。この
ようにすることで、大学にいる時間のみ
ならず、日ごろから高度な情報機器を
活用する習慣を全員が身に付けることを
目指すと同時に、PBL 科目では学外で活動
を行うことも多くなるため、そうした場
でも不自由なく情報機器を使った活動が
できるようにすることを目的としてい
る。(資料 22)

この仕様の PC の価格は高いもので 20
万円程度と、学生にとって入学時の費用
としては大きな負担になることが予想さ
れるため、PC 購入に要する概算費用を学
生募集要項中に明示し、周知を図る。合
格発表時を目途に学生に PC に要求する仕
様と、この仕様を満たす具体的なモデル
をいくつか提示することで、全学生に共
通の理解を得られるよう配慮することと
している。学生の負担を考え、なるべく
安いモデルを提示する。

(略)

(項全体を追加)

(略)

(是正事項) 情報学部 情報学科

11. <入学者選抜の方法が不明確>

一般入試前期日程と推薦入試において以下の点を明らかにすること。(是正事項)

- (1) 一般入試前期日程における2方式を受験生がどのように利用できるか明らかにしつつ、2方式を大学としてどのように評価するか明らかにすること。
- (2) 推薦入試の出願条件である「大学入試センター試験の数学の受験」は、入試の時期によっては適切な条件であるか疑義があり、また、入学後の履修指導で活用するのであれば、当該試験の結果が履修指導に活用されることを明確にする必要があると考えられるため、推薦入試における出願から合格発表までの時期を明らかにしつつ、必要に応じて推薦入試の出願条件を改めること。

(対応)

審査意見の項目について、以下のとおり明確化する。

- (1) 一般入試前期日程の2方式の募集人員(5教科型45名、3教科型10名)を予め決め、出願時に2方式から1つの方式を選択することとする。その旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

また、一般入試の選抜の評価方法としては、一般入試前期5教科型が大学入試センター試験の配点が1,100点に対して独自試験の小論文が200点、一般入試前期3教科型が大学入試センター試験の配点が600点に対して独自試験の小論文が200点、一般入試後期日程が大学入試センター試験の配点が900点に対して独自試験の小論文が200点とする。

- (2) 推薦入試および一般入試について出願から合格発表までの日程概要を記載する。なお推薦入試の試験日は2019年11月上旬、合格発表日は同年11月末頃を予定している。数学の習熟度が低い学生を入学前に把握することで、入学後の数学の履修指導に活用できることとする。

また、推薦入試において、大学入試センター試験の成績請求の結果、本学が指定する科目を受験しなかったことが判明した場合は、合格を取り消す可能性がある旨を学生募集要項に明記し、かつ推薦書(出願書類)において所属学校長から同意を得ることとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(41 ページ)	
(8) 入学者選抜の概要	(8) 入学者選抜の概要

<p>(略)</p> <p>イ 入学者選抜の方法</p> <p><u>「公立大学の入学者選抜についての実施要領」に基づき、一般入試は分離・分割方式を採用し、また推薦入試を実施する。試験日程については同要領に準じ、2020年度入試については概ね以下の通りとする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期日程 <ul style="list-style-type: none"> <u>出願期間</u> 1月末～2月上旬 <u>試験日</u> 2月末頃 <u>合格発表日</u> 3月上旬 ・一般入試後期日程 <ul style="list-style-type: none"> <u>出願期間</u> 1月末～2月上旬 <u>試験日</u> 3月中旬 <u>合格発表日</u> 3月下旬 ・推薦入試 <ul style="list-style-type: none"> <u>出願期間</u> 10月末頃 <u>試験日</u> 11月上旬 <u>合格発表日</u> 11月末頃 <p>1) 一般入試前期日程 (募集人員 <u>①5 教科型 40名、②3 教科型 15名</u>)</p> <p>一般入試前期日程では、多様な学生の確保を目的として、以下の2方式を設ける。</p> <p><u>なお、受験者は出願に際して、前期日程の2方式から1つを選択することとする。</u></p> <p><u>募集人員は既述の通り各方式で定め、合否の判定についても同様に方式毎に行うこととする。</u></p> <p>①5 教科型</p> <p>(略)</p> <p>当入試は大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で合否の判定を行う。<u>上記の通り、大学入試センター試験の配点1,100点に対して、小論文の配点が200点であり、大学入試センター試験の結果を重</u></p>	<p>(略)</p> <p>イ 入学者選抜の方法</p> <p><u>公立大学の入学者選抜要領に基づき実施し、一般入試は分離・分割方式を採用する。</u></p> <p>1) 一般入試前期日程 (募集人員 <u>55名</u>)</p> <p>一般入試前期日程では、多様な学生の確保を目的として、以下の2方式を設ける。</p> <p>①5 教科型</p> <p>(略)</p> <p>当入試は大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で合否の判定を行う。<u>大学入試センター試験の配点を高く設定し、アドミッションポリシーにおける「幅広い教養と基礎学力」をより重視した【知識・</u></p>
---	--

<p>視している。これはアドミッションポリシーにおける「幅広い教養と基礎学力を身につけていること」に基づき、優秀な学生を確保することを目的とした入試方式である。</p>	<p>【知識・技能】に優れた学生の確保を行うものである。</p>
<p>(略) (42 ページ)</p>	<p>(略)</p>
<p>②3 教科型 (略)</p>	<p>②3 教科型 (略)</p>
<p>当入試は大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で合否の判定を行う。上記の通り、大学入試センター試験の配点 600 点に対して個別学力試験の配点が 300 点であり、前述の①5 教科型に比べて、小論文の結果を重視している。これはアドミッションポリシーにおける「地域社会に貢献しようとする情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力を有すること」に基づき、優秀な学生を確保することを目的とした入試方式である。</p>	<p>当入試は大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で合否の判定を行う。既述の①5 教科型に対して、個別学力検査の配点が高く、大学入試センター試験での【知識・技能】に加え、特に小論文試験における【思考力・判断力・表現力】に優れた学生の確保を行うものである。</p>
<p>(略) (43 ページ)</p>	<p>(略)</p>
<p>2) 一般入試後期日程 (募集人員 10 名) (略)</p>	<p>2) 一般入試後期日程 (募集人員 10 名) (略)</p>
<p>当入試は大学入試センター試験の配点 900 点に対して、小論文の配点が 200 点であり、大学入試センター試験と小論文の結果をいずれも重視している。これはアドミッションポリシーにおける「幅広い教養と基礎学力を身につけていること」及び「地域社会に貢献しようとする情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力を有すること」に基づき、優秀な学生を確保することを目的とした入試とするためである。</p>	<p>当入試は大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で合否の判定を行う。大学入試センター試験の配点を高く設定し、アドミッションポリシーにおける「幅広い教養と基礎学力」をより重視した。【知識・技能】に優れた学生の確保を行うものである。</p>
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>

(44 ページ)

3) 推薦入試 (募集人員 35 名)

(略)

当入試の主な出願条件として、全体の評定平均値 3.8 以上の者に加え、数学を重視するアドミッションポリシーに基づき、大学入試センター試験における「数学①」の I・A、「数学②」での II・B の受験を必須とし、既述の試験日程の通り、大学入試センター試験の前に合格発表を行う。大学入試センター試験の結果は合否判定には用いず、入学後の履修指導で活用する。この結果、特に数学の習熟度が低いと考えられる学生については、1 年次の数学 (数学基礎 I 及び数学基礎 II) を履修させるなどの履修指導を丁寧に行うことで情報学部の教育になじませていくようにする。1 年次前期の成績によっては、夏季に補習も行い、全ての 1 年次生が 1 年次後期においては情報学部のカリキュラムに適応できるよう学修支援を強く進める。なお、当入試の合格者で、2 月上旬の大学入試センター試験の成績請求を経て、本学が指定する科目を受験しなかったことが判明した場合は、合格を取り消す可能性がある。このことは学生募集要項に明記し、また推薦入試の特性から、当入試で出願書類として提出を求める高等学校長の推薦書において、大学入試センター試験で本学が指定する科目を受験することに同意の旨を明記した書式を用いる出願形式をとる。

(略)

3) 推薦入試 (募集人員 35 名)

(略)

当入試の主な出願条件として、全体の評定平均値 3.8 以上の者に加え、数学を重視するアドミッションポリシーに基づき、大学入試センター試験における「数学①」の I・A、「数学②」での II・B の受験を必須とする。当試験の結果は合否判定には用いず、入学後の履修指導で活用し、高等学校で数学を重点的に学ぶ機会が少なかった学生に対して、1 年次の数学を履修させるなどの履修指導を丁寧に行うことで、数学を課さない入試を経て入学した学生にも情報学部の教育になじませていくようにしている。前期の成績によっては、夏季に補習も行い、全ての 1 年次生が 1 年次後期においては情報学部のカリキュラムに適応できるよう 学生への学修支援を強く進める。

(略)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

12. 審査意見への対応以外の変更事項

(1) 誤記の修正について

当初申請の基本計画書に誤記があった。

(対応)

次のとおり、誤記を修正する。

- ① 基本計画書2ページにおける図書購入費の5年目と6年目の金額を削除する。
- ② 基本計画書2ページにおける既設大学等の状況の編入学定員の年次を2年次から3年次に訂正する。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
(2 ページ) 経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り	(2 ページ) 経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り
第5年次 <u>一 千円</u>	第5年次 <u>4,300 千円</u>
第6年次 <u>一 千円</u>	第6年次 <u>4,300 千円</u>
既設大学等の状況 地域経営学部 編入学定員 <u>3年次</u>	既設大学等の状況 地域経営学部 編入学定員 <u>2年次</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(10 ページ) (4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略) (12 ページ)	(4) 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)

<p>イ 開講科目について (略) (14 ページ)</p> <p>帰納的教育と科目群の配置 (略) (15 ページ)</p> <p>帰納的教育の効果を高めるために、履修する科目の多くは配置した年次での履修を基本とするものの、その年次より上の年次での履修もでき、トラックに配されている科目の履修はトラックごとに履修方法を定め<u>ないこととする。</u> (略) (22 ページ)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>ア 教育方法 (略) (25 ページ)</p> <p>②アクティブラーニングによる地域貢献 (略) 〈アクティブラーニングの充実〉 (26 ページ)</p> <p><u>地域協働型教育研究</u>の核となる既述の演習科目 PBL は、現場に出て学生が能動的に授業のテーマ及び自身の関心と向き合い関わっていくアクティブラーニングそのものである。具体的には上記の「農業の IT 化」、「観光関連ゲーム・システムの作成」、「新製品等の開発」、「遺跡の 3D モデルと CG の作成」などである。 (略) (26 ページ)</p>	<p>イ 開講科目について (略)</p> <p>帰納的教育と科目群の配置 (略)</p> <p>帰納的教育の効果を高めるために、履修する科目の多くは配置した年次での履修を基本とするものの、その年次より上の年次での履修もでき、トラックに配されている科目の履修はトラックごとに履修方法を定め<u>ないこととする。</u> (略)</p> <p>(6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>ア 教育方法 (略)</p> <p>②アクティブラーニングによる地域貢献 (略) 〈アクティブラーニングの充実〉</p> <p><u>地域協働型教育</u>の核となる既述の演習科目 PBL は、現場に出て学生が能動的に授業のテーマ及び自身の関心と向き合い関わっていくアクティブラーニングそのものである。具体的には上記の「農業の IT 化」、「観光関連ゲーム・システムの作成」、「新製品等の開発」、「遺跡の 3D モデルと CG の作成」などである。 (略)</p>
--	--

<p>イ 履修指導方法 (略) (28 ページ) 〈データサイエンストラックの基本履修モデル〉 (略)</p> <p>1 年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは情報学部提供の「データサイエンス入門」、「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」、「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。さらに専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から「データサイエンス」トラックの実践系科目である「サービスエンジニアリング」「オープンデータ技術」等を履修し、データサイエンス分野の広がり学び、さらなる学修の動機づけを行う。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 入門」を履修して地域の実態と可能性を学ぶとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行い、応用を通じた ICT のハンズオンを行う。</p> <p>(略) (29 ページ) 〈ICT トラックの基本履修モデル〉 (略)</p> <p>地域における情報通信技術のニーズ面、課題面を学習する 2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語</p>	<p>イ 履修指導方法 (略)</p> <p>〈データサイエンストラックの基本履修モデル〉 (略)</p> <p>1 年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目を含む全学共通科目群からは情報学部提供の「データサイエンス入門」、「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」、「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。さらに専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から「データサイエンス」トラックの実践系科目である「サービスエンジニアリング」「オープンデータ技術」等を履修し、データサイエンス分野の広がり学び、さらなる学修の動機づけを行う。一方で、PBL としては「地域情報 PBL 入門」を履修して地域の実態と可能性を学ぶとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行い、応用を通じた ICT のハンズオンを行う。</p> <p>(略)</p> <p>〈ICT トラックの基本履修モデル〉 (略)</p> <p>地域における情報通信技術のニーズ面、課題面を学習する 2 年次には、1 年次に引き続き共通教育科目から外国語</p>
--	--

<p>科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」「微分積分」を履修し、3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「ICT」トラックの基盤系科目を中心に履修するとともに、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「<u>人間・社会情報学</u>」トラックの「人工知能」「IoT」といった実践系科目を履修し、情報通信技術が支える技術を担う他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBLとしては「地域情報PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ、IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。</p> <p>3年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と地域理解科目群の科目を履修し地域理解を深めるとともに、専門教育科目からは情報専門基礎と「<u>ICT</u>」トラックの理論系科目を中心に履修する。一方で、PBLとしては「地域情報PBL」を履修する。</p> <p>(略)</p> <p>(30 ページ)</p> <p>〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉</p> <p>(略)</p> <p>人工知能技術指向の基本履修モデルでは、1年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として</p>	<p>科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」「微分積分」を履修し、3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「ICT」トラックの基盤系科目を中心に履修するとともに、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や<u>人間・社会情報学</u>トラックの「人工知能」「IoT」といった実践系科目を履修し、情報通信技術が支える技術を担う他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBLとしては「地域情報PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習Ⅲ、IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。</p> <p>3年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と地域理解科目群の科目を履修し地域理解を深めるとともに、専門教育科目からは情報専門基礎と <u>ICT</u> トラックの理論系科目を中心に履修する。一方で、PBLとしては「地域情報PBL」を履修する。</p> <p>(略)</p> <p>〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉</p> <p>(略)</p> <p>人工知能技術指向の基本履修モデルでは、1年次には、共通教育科目からは外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系、社会系の科目及び自然系からは情報学の基礎となる数学として</p>
--	--

<p>「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目からは情報学部提供の「データサイエンス入門」「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。更に専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から「<u>人間・社会情報学</u>」トラックの実践系科目である「人工知能」「IoT」「メディア情報学」等を履修し、人間・社会情報学に関する動機づけを行う。一方で、PBLとしては「地域情報 PBL 入門」を履修するとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行う。</p> <p>2年次には、1年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び「<u>人間・社会情報学</u>」トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や「<u>ICT</u>」トラックの「<u>情報ネットワーク</u>」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBLとしては地域における問題を体験を通して具体的に知るとともに、人工知能などの情報技術の活用に向けた「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに</p>	<p>「線形代数基礎」と「微分積分基礎」を履修する。また、地域理解科目からは情報学部提供の「データサイエンス入門」「地域情報学Ⅰ」、「地域情報学Ⅱ」「情報リテラシー」といった入門科目を履修する。更に専門教育科目からは情報専門基礎の科目及び専門科目群から<u>人間・社会情報学</u>トラックの実践系科目である「人工知能」「IoT」「メディア情報学」等を履修し、人間・社会情報学に関する動機づけを行う。一方で、PBLとしては「地域情報 PBL 入門」を履修するとともに「IT 実習Ⅰ」、「IT 実習Ⅱ」により複数のテーマの実習を行う。</p> <p>2年次には、1年次に引き続き共通教育科目から外国語科目群の科目と一般教養科目群の人文系及び社会系の科目、自然系からは「線形代数」、「微分積分」を履修し3年次の専門科目群履修の基礎を作る。また、地域理解科目等からは地域経営学部提供の科目を履修することにより地域理解を深める。専門教育科目では情報専門基礎及び<u>人間・社会情報学</u>トラックの基盤系科目と、「データサイエンス」トラックの「サービスエンジニアリング」や<u>ICT</u>トラックの「<u>情報セキュリティ</u>」といった各トラックの実践系科目を履修し、他トラックの内容についても理解を深める。一方で、PBLとしては地域における問題を体験を通して具体的に知るとともに、人工知能などの情報技術の活用に向けた「地域情報 PBL 基礎」を履修するとともに「IT 実習</p>
--	--

「IT 実習Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。 (略)	Ⅲ」、「IT 実習Ⅳ」により複数のテーマの実習を行う。 (略)
--	------------------------------------

(2) 申請書提出時点(3月)より補正申請書提出時点で更新(変更)する必要性のあったもの

(対応)

次のとおり、表記を変更する。

- ① 篠山市が令和元年5月1日付けで丹波篠山市に名称変更したことにより変更する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(1 ページ) (1) 設置の趣旨及び必要性 ア 情報系学部設置の社会的背景及び 福知山公立大学の使命 (略)	(1) 設置の趣旨及び必要性 ア 情報系学部設置の社会的背景及び 福知山公立大学の使命 (略)
(2 ページ) 福知山公立大学の使命 京都府北部地域(福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)は、中小都市や農山漁村・中山間地域を多くかかえ、人口約30万人、さらに兵庫県北部地域(豊岡市、 <u>丹波篠山市</u> 、養父市、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町)まで含めた北近畿地域では、鳥取県と同規模の約57万人の人口を有する。生活文化面や経済産業面において、ヒト・モノの交流による独自の圏域を形成している。 (略)	福知山公立大学の使命 京都府北部地域(福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)は、中小都市や農山漁村・中山間地域を多くかかえ、人口約30万人、さらに兵庫県北部地域(豊岡市、 <u>篠山市</u> 、養父市、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町)まで含めた北近畿地域では、鳥取県と同規模の約57万人の人口を有する。生活文化面や経済産業面において、ヒト・モノの交流による独自の圏域を形成している。 (略)
(40 ページ) (8) 入学者選抜の概要 (略)	(8) 入学者選抜の概要 (略)
(41 ページ)	

<p>イ 入学者選抜の方法 (略) (44 ページ) (脚注 18)</p> <p>三たん地域とは、北近畿地域である京都府北部地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と兵庫県北部地域（豊岡市、<u>丹波篠山市</u>、<u>養父市</u>、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町）に加え、京都府亀岡市、南丹市、京丹波町、京都市右京区の旧京北町の地域を加えた地域を指す。</p> <p>(略)</p>	<p>イ 入学者選抜の方法 (略) (脚注 18)</p> <p>三たん地域とは、北近畿地域である京都府北部地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と兵庫県北部地域（豊岡市、<u>篠山市</u>、<u>養父市</u>、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町）に加え、京都府亀岡市、南丹市、京丹波町、京都市右京区の旧京北町の地域を加えた地域を指す。</p> <p>(略)</p>
--	---

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>学生の確保の見通し等を記載した書類 (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況</p> <p>①学生の確保の見通し ア 定員充足の見込み</p> <p>入学定員設定の考え方 (52 ページ) (略)</p> <p>また、京都府北部地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と兵庫県北部（豊岡市、<u>丹波篠山市</u>、<u>養父市</u>、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町）から構成される北近畿地域（以降、北近畿地域とはこの市町をいう）に本拠を置く 4 年制大学は本学以外に存在せず、平成 31 年 3 月時点では、新たな 4 年制大学の</p>	<p>学生の確保の見通し等を記載した書類 (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況</p> <p>①学生の確保の見通し ア 定員充足の見込み</p> <p>入学定員設定の考え方 (略)</p> <p>また、京都府北部地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と兵庫県北部（豊岡市、<u>篠山市</u>、<u>養父市</u>、丹波市、朝来市、香美町、新温泉町）から構成される北近畿地域（以降、北近畿地域とはこの市町をいう）に本拠を置く 4 年制大学は本学以外に存在せず、平成 31 年 3 月時点では、新たな 4 年制大学の設置</p>

設置構想は平成 33 年度設置構想中の専門職大学を除き、見られない。 (略)	構想は平成 33 年度設置構想中の専門職大学を除き、見られない。 (略)
---	---

② 資料の追加による資料番号の変更

新	旧
(10 ページ) (3) 学部・学科等の名称及び学位の名称 (略) (16 ページ) ウ 教育課程編成の基本方針とその体系性について (略) (資料 8) (略) (17 ページ) (資料 9) (略) (18 ページ) (5) 教員組織の編成の考え方及び特色 (略) (19 ページ) 教員構成と教育内容 (略) (資料 10) (略) (22 ページ) (6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ア 教育方法 (略) (23 ページ)	(3) 学部・学科等の名称及び学位の名称 (略) ウ 教育課程編成の基本方針とその体系性について (略) (資料 7) (略) (資料 8) (略) (5) 教員組織の編成の考え方及び特色 (略) (19 ページ) 教員構成と教育内容 (略) (資料 9) (略) (6) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ア 教育方法 (略)

<p>①学習環境のデザイン (24 ページ) 〈教えあいのなかの学修〉 (略) (資料 <u>12</u>) (略) (26 ページ)</p> <p>イ 履修指導方法 (略) 〈科目配置の考え方〉 (略) (資料 <u>13</u>) (略) (27 ページ) 〈トラックごとの基本履修モデル〉 (略) (28 ページ) (資料 <u>14</u>) (略) 〈データサイエンストラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>15</u>) (略) (29 ページ) 〈ICT トラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>16</u>) (略) (30 ページ) 〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>17</u>) (略) (31 ページ)</p>	<p>①学習環境のデザイン 〈教えあいのなかの学修〉 (略) (資料 <u>10</u>) (略)</p> <p>イ 履修指導方法 (略) 〈科目配置の考え方〉 (略) (資料 <u>11</u>) (略)</p> <p>〈トラックごとの基本履修モデル〉 (略)</p> <p>(資料 <u>12</u>) (略) 〈データサイエンストラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>13</u>) (略)</p> <p>〈ICT トラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>14</u>) (略)</p> <p>〈人間・社会情報学トラックの基本履修モデル〉 (略) (資料 <u>15</u>) (略)</p>
--	--

<p>〈PBLの実施方法及び履修指導について〉</p> <p>本学情報学部情報学科で学修の核となる主要科目であるPBLの実施方法及び履修指導について、以下にまとめる。(資料 18)</p> <p>(略)</p> <p>(33 ページ)</p> <p>なお、個人報告書ではプロジェクトの内容に加えてこれらのコミュニケーション・グループ活動における報告を求め、評価に反映する。</p> <p>PBLを1年次から4年次まで学年合同で授業を行うことで時間割編成において可能かどうかを確認するために、4年次まで学年が揃った完成年次（<u>令和5年度</u>）での時間割編成のシミュレーションを行った。その結果、無理なく時間割が編成でき、PBLを1年次から4年次まで合同で授業を行うことが時間割編成の面において問題がないことが明らかとなった。参考資料としてシミュレーションをした完成年次の時間割表（予定）を添付する。(資料 19)</p> <p>(略)</p> <p>(34 ページ)</p> <p>〈カリキュラムマップ〉</p> <p>(35 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>(資料 20)</p> <p>(略)</p> <p>〈ナンバリング〉</p> <p>(略)</p> <p>(資料 21)</p> <p>(略)</p> <p>(47 ページ)</p>	<p>〈PBLの実施方法及び履修指導について〉</p> <p>本学情報学部情報学科で学修の核となる主要科目であるPBLの実施方法及び履修指導について、以下にまとめる。</p> <p>(略)</p> <p>最終的には担当者全員で運営し、各年次での学習成果の確認と教育の質の保証に細心の注意を払う。(資料 16)</p> <p>PBLを1年次から4年次まで学年合同で授業を行うことで時間割編成において可能かどうかを確認するために、4年次まで学年が揃った完成年次（<u>平成35年度</u>）での時間割編成のシミュレーションを行った。その結果、無理なく時間割が編成でき、PBLを1年次から4年次まで合同で授業を行うことが時間割編成の面において問題がないことが明らかとなった。参考資料としてシミュレーションをした完成年次の時間割表（予定）を添付する。(資料 17)</p> <p>(略)</p> <p>〈カリキュラムマップ〉</p> <p>(略)</p> <p>(資料 18)</p> <p>〈ナンバリング〉</p> <p>(略)</p> <p>(資料 19)</p> <p>(略)</p>
---	---

<p>(10) 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア インターンシップの概要</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>24</u>）</p> <p>（略）</p> <p>（49 ページ）</p> <p>(12) 管理運営</p> <p>（略）</p> <p>（50 ページ）</p> <p>ア 管理運営体制の概要</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>25</u>）（資料 <u>26</u>）</p> <p>（略）</p> <p>イ 教育研究審議会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>27</u>）</p> <p>（略）</p> <p>（51 ページ）</p> <p>ウ 教授会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>28</u>）</p> <p>（略）</p> <p>（52 ページ）</p> <p>エ 委員会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>29</u>）</p> <p>（略）</p> <p>(13) 自己点検・評価</p> <p>ア 中期目標等</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>30</u>）、（資料 <u>31</u>）</p> <p>（略）</p>	<p>(10) 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア インターンシップの概要</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>20</u>）</p> <p>（略）</p> <p>(12) 管理運営</p> <p>（略）</p> <p>ア 管理運営体制の概要</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>21</u>）（資料 <u>22</u>）</p> <p>（略）</p> <p>イ 教育研究審議会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>23</u>）</p> <p>（略）</p> <p>ウ 教授会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>24</u>）</p> <p>（略）</p> <p>エ 委員会</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>25</u>）</p> <p>（略）</p> <p>(13) 自己点検・評価</p> <p>ア 中期目標等</p> <p>（略）</p> <p>（資料 <u>26</u>）、（資料 <u>27</u>）</p>
--	---

<p>イ 自己点検・評価委員会 (略) (53 ページ) (資料 <u>32</u>) (略) (57 ページ) (15) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等</p> <p>ア ファカルティディベロプメント (FD) 活動について (略) (資料 <u>33</u>) (資料 <u>34</u>)</p> <p>イ 授業評価アンケートについて (略) (資料 <u>35</u>) (資料 <u>36</u>) (58 ページ)</p> <p>ウ SD について (略) (資料 <u>37</u>) (16) 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 (略) (59 ページ)</p> <p>ウ 適切な体制の整備 (略) (資料 <u>38</u>)</p>	<p>(略)</p> <p>イ 自己点検・評価委員会 (略) (資料 <u>28</u>) (略) (15) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等</p> <p>ア ファカルティディベロプメント (FD) 活動について (略) (資料 <u>29</u>) (資料 <u>30</u>)</p> <p>イ 授業評価アンケートについて (略) (資料 <u>31</u>) (資料 <u>32</u>) (58 ページ)</p> <p>ウ SD について (略) (資料 <u>33</u>) (16) 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 (略)</p> <p>ウ 適切な体制の整備 (略) (資料 <u>34</u>)</p>
--	---

③ 補正後の「教員の氏名等」について、元号の改正に伴い、就任時期の元号の表記を変更する。

(3) 公立大学法人福知山公立大学職員就業規則の改正案の改正について
(対応)

情報学部専任教員の定年による退職は、年齢に関わらず情報学部完成年度末までとする特例が平成 30 年 11 月 28 日開催の理事会にて承認された。あらたに特別任用教員を採用し、当該雇用形態の教員についても定年退職の特例の適用対象とするための改正が令和元年 6 月 26 日開催の理事会にて追加承認された。これにより、当初申請時の定年退職年齢を超える専任教員の採用根拠を変更する。

(新旧対照表) 公立大学法人福知山公立大学職員就業規則

設置の趣旨等を記載した書類 資料 10 の一部

新	旧
(略)	(略)
附則	附則
1 この規則は、 <u>令和 2 年</u> 4 月 1 日から施行する。	1 この規則は、 <u>平成 32 年</u> 4 月 1 日から施行する。
2 福知山公立大学情報学部の設置に伴い、開設時の年齢が満 64 歳以上で、専任教員及び特別任用教員に採用された者の定年は、第 20 条第 1 項第 1 号及び <u>第 2 号</u> の規定に関わらず <u>令和 6 年</u> 3 月 31 日とする。	2 福知山公立大学情報学部の設置に伴い、開設時の年齢が満 64 歳以上で、専任教員に採用された者の定年は、第 20 条第 1 項第 1 号の規定に関わらず <u>平成 36 年</u> 3 月 31 日とする。

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況 添付書類

新	旧
調書番号 1	調書番号 1
就任 (予定) 年月	就任 (予定) 年月
< <u>令和 2 年 4 月</u> >	< <u>平成 32 年 4 月</u> >
採用根拠等	採用根拠等
公立大学法人福知山公立大学	公立大学法人福知山公立大学
職員就業規則第 20 条および <u>附則第 2 項</u>	職員就業規則第 20 条
<u>理事会 (R1. 6. 26 開催)</u> にて承認	<u>理事会 (H30. 11. 28 開催)</u> にて承認
調書番号 ①	
専任等区分 専	
職位 教授	
(略)	

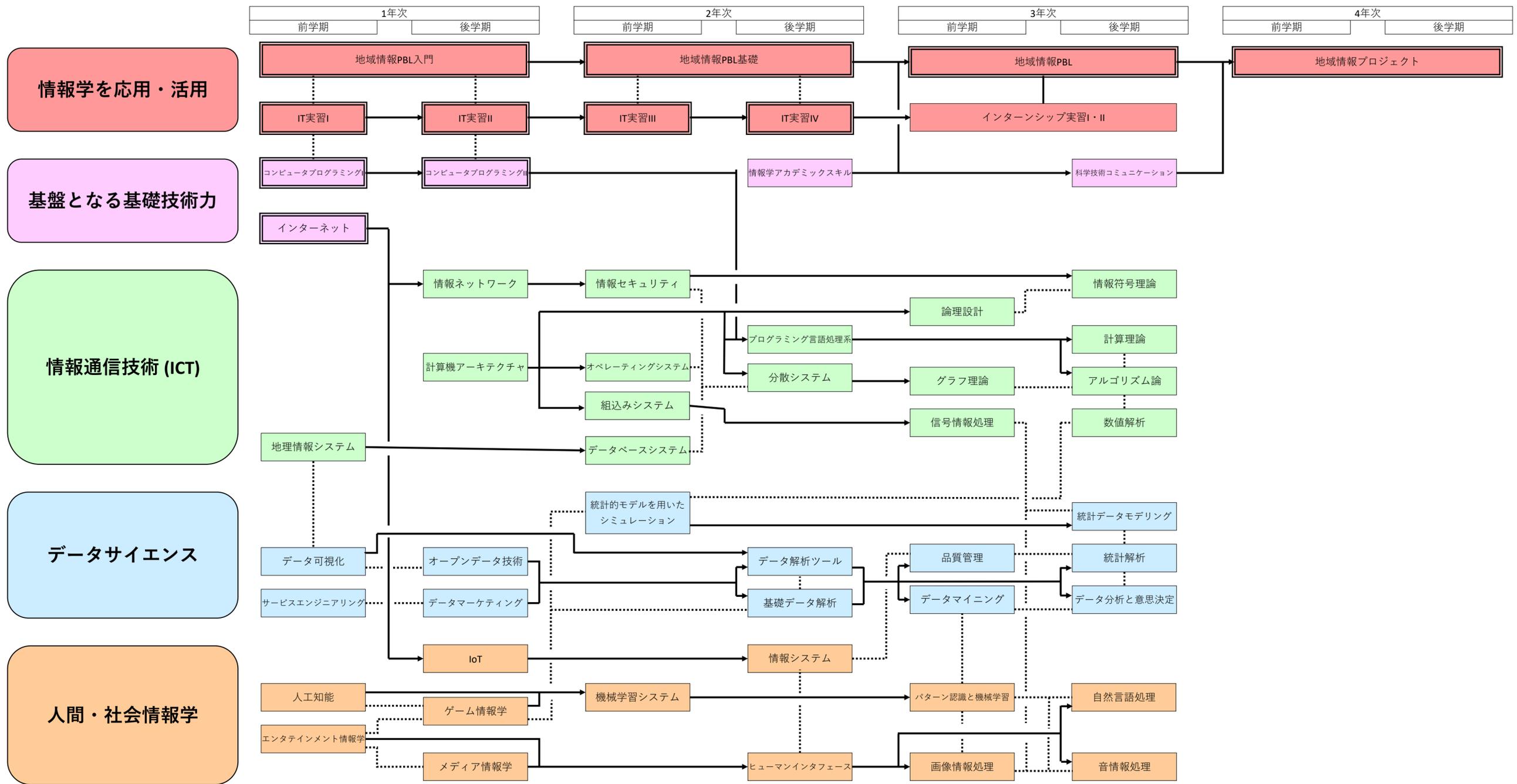
採用根拠等 公立大学法人福知山公立大学 職員就業規則第 20 条および附則第 2 項 理事会 (R1.6.26 開催) にて承認	
---	--

審査意見への対応を記載した書類（7月）【添付資料】

目次

資料番号	資料名	審査意見への対応
添付資料 1	福知山公立大学情報学部カリキュラムツリー	1
添付資料 2	教育課程等の概要（補正前）	1、2、5
添付資料 3	教育課程等の概要（補正後）※	1、2、5
添付資料 4	PBL・IT 実習の実施に係る資料（補正前）	4
添付資料 5	PBL・IT 実習の実施に係る資料（補正後）※	4
添付資料 6	主要科目新旧対照表	5
添付資料 7	専任教員の年齢構成・学位保有状況（補正前）	6
添付資料 8	専任教員の年齢構成・学位保有状況（補正後）※	6
添付資料 9	校地校舎等の図面（補正前）	7、8
添付資料 10	校地校舎等の図面（補正後）	7、8
添付資料 11	BYOD PC の必要とされる仕様について	9、10
添付資料 12	IT 実習と PBL の実施イメージ（機材配置）	9、10

※ 変更箇所を青字表記



カリキュラムツリーの見方
 実線矢印の始点の科目は終点の科目を履修する前に履修しておくことが望ましい科目、点線で結ばれているものは互いに関連の強い科目を表す。

ICT、データサイエンス、人間・社会情報学の専門科目群については各科目の配当年次が2年間にまたがっているが、見易さのため、1・2年次配当科目は1年次に、2・3年次配当科目は2年次に、3・4年次配当科目は3年次に配置した。

科目名の枠について
 : 必修科目
 : 選択科目

教育課程等の概要																
(情報学部情報学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目群	English I	1前	1					○							兼2	
	English II	1後	1					○							兼2	
	English III	2前	1					○							兼2	
	English IV	2後	1					○							兼2	
	TOEIC I	3前		1				○							兼1	
	TOEIC II	3後		1				○							兼1	
	中国語 I	1前		1				○							兼2	
	中国語 II	1後		1				○							兼2	
	中国語 III	2前		1				○							兼1	
	中国語 IV	2後		1				○							兼1	
	異文化コミュニケーション	1後		1				○							兼1	
小計(11科目)		—	4	7				—		0	0	0	0	0	兼6	—
人文系	哲学	1後		2				○							兼1	
	論理学	2後		2				○							兼1	
	心理学	2前		2				○							兼1	
	歴史学	1前		2				○							兼1	
	地理学	1後		2				○							兼1	
	教育学	1前		2				○							兼1	
	文化人類学	1後		2				○							兼1	
	多文化共生論	1前		2				○							兼1	
	小計(8科目)		—	0	16				—		0	0	0	0	0	兼8
社会系	法学概論	1後		2				○							兼1	
	日本国憲法	1前		2				○							兼1	
	民法	2前		2				○							兼1	
	商法	2後		2				○							兼1	
	人権論	1前		2				○							兼1	
	経営学入門	1前		2				○							兼1	
	経済学入門	1後		2				○		1						
	国際関係論	1後		2				○							兼1	
	小計(8科目)		—	0	16				—	1	0	0	0	0	兼4	—
自然系	数学基礎 I *	1前		2				○								
	数学基礎 II *	1後		2				○								
	線形代数基礎 *	1前		2				○			1					
	微分積分基礎 *	1前		2				○			1					
	線形代数 *	2後		2				○			1					
	微分積分 *	2後		2				○			1					
	多変量解析 *	2前		2				○		1	1					
	線形計画法 *	2前		2				○				1				
	生物学	1前		2				○							兼1	
	健康学	2前		2				○							兼1	
	環境学	1後		2				○							兼1	
	栄養学	1後		2				○							兼1	
	体育実技 I	1前		1											兼1	
	体育実技 II	1後		1											兼1	
小計(14科目)		—	0	26	0			—	1	2	1	0	0	兼4	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報学部情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2			○									兼1
		地域情報学Ⅰ	1前	2			○			1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2			○			1						
		行政学入門	1後	2			○									兼1
		地域資源論	1前	2			○									兼1
		観光総論	2前	2			○									兼1
		地域ベンチャー育成論	2後	2			○									兼1
		地域産業論	2前	2			○									兼1
		地域防災論	2後	2			○									兼1
		観光情報学	3後	2			○			1						
	地域福祉論	3後	2			○									兼2オムニバス	
	全学共通科目群	社会保障論	1後	2			○									兼2オムニバス
		持続可能な社会論	2前	2		2	○									兼1
		社会福祉論	2前	2			○									兼1
		社会調査論	2前	2			○									兼1
		統計学	1前	2			○			1						
		情報リテラシー	1後	2			○				1					
		データサイエンス入門	1前	2			○			1						
		経営情報システム論	2後	2			○									兼1
		IT産業論	3前	2			○									兼1
知的財産論	3前	2			○									兼1		
金融論	3前	2			○			1								
小計 (22科目)		—	2	42	0			—	5	1	0	0	0		兼13	
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1					○	3	1					共同
		IT実習Ⅱ	1後	1					○	1	2	1				共同
		IT実習Ⅲ	2前	1					○	4		1				共同
		IT実習Ⅳ	2後	1					○	1	2	1				共同
		地域情報PBL入門	1	2				○		9	5	3				
		地域情報PBL基礎	2	2				○		9	5	3				
		地域情報PBL	3	4				○		9	5	3				
		地域情報プロジェクト	4	8				○		9	5	3				
		インターンシップ実習Ⅰ	3		1				○	1						
		インターンシップ実習Ⅱ	3		1				○	1						
	小計 (10科目)		—	20	2	0			—	9	5	3	0	0		—
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			○					1				
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			○					1				
		インターネット	1前	2			○									
		情報学アカデミックスキル	2後	1				○		1						
		科学技術コミュニケーション	3後	1				○		1						
	小計 (5科目)		—	4	4	0			—	1	1	1	0	0		—
	専門科目群	実践系 データサイエンスストラック	サービスエンジニアリング	1・2前	2			○			1					
オープンデータ技術			1・2後	2			○			1						
データ可視化			1・2前	2			○				1					
データマーケティング			1・2後	2			○								兼1	
基盤系		データ解析ツール	2・3後	2			○			1	1					
		基礎データ解析	2・3後	2			○			1	1					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2・3前	2			○			1						
		データマイニング	3・4前	2			○			1						
理論系		統計解析	3・4後	2			○			1						
		品質管理	3・4前	2			○					1				
		統計データモデリング	3・4後	2			○			1						
		データ分析と意思決定	3・4後	2			○			1						
小計 (12科目)		—	0	24	0			—	5	1	1	0	0		兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報学部情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 専門科目群	実践系	地理情報システム	1・2前	2		○			1						
		情報セキュリティ	1・2後	2		○				1					
		組込みシステム	2・3前	2		○				1					
		分散システム	2・3後	2		○					1				
	基盤系	情報ネットワーク	2・3前	2		○				1					
		計算機アーキテクチャ	1・2後	2		○				1					
		データベースシステム	2・3前	2		○				1					
		オペレーティングシステム	2・3前	2		○					1				兼1
		プログラミング言語処理系	2・3後	2		○									兼1
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	—	4	—	—	—	—	—
	理論系	信号情報処理	3・4前		2		○			2					
		数値解析	3・4後		2		○					1			
		アルゴリズム論	3・4後		2		○			1					
		グラフ理論	3・4前		2		○					1			兼1
		論理設計	3・4前		2		○				1				
		計算理論	3・4後		2		○			1					
		情報符号理論	3・4後		2		○			1					
		小計 (8科目)	—	0	16	0	—	—	—	8	—	—	—	—	—
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		○			1					
			IoT	1・2後	2		○				1				
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		○				1				
			メディア情報学	1・2後	2		○				1				兼1
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2		○						1		
			情報システム	2・3後	2		○				1				
ヒューマンインタフェース			2・3後	2		○					1				
理論系		機械学習システム	2・3前	2		○				1					
		パターン認識と機械学習	3・4前		2		○				1				
		画像情報処理	3・4前		2		○			1					
理論系	音情報処理	3・4後		2		○			1						
	自然言語処理	3・4後		2		○			1						
小計 (10科目)	—	0	24	0	—	—	—	10	—	—	—	—	—		
合計 (118科目)			—	30	133	0	—	—	10	5	3	0	0	—	
			学士 (情報学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
必修科目30単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位（ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること）と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から20単位（地域理解科目から10単位を含む）、専門教育科目の情報専門基礎の選択科目から2単位、専門科目群の選択科目から48単位（同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む）を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。									1学年の学期区分			2学期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号(その2の1)

補正後

教育課程等の概要																
(情報学部情報学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目群	English I	1前	1				○								兼2	
	English II	1後	1				○								兼2	
	English III	2前	1				○								兼2	
	English IV	2後	1				○								兼2	
	TOEIC I	3前		1			○								兼1	
	TOEIC II	3後		1			○								兼1	
	中国語 I	1前		1			○								兼2	
	中国語 II	1後		1			○								兼2	
	中国語 III	2前		1			○								兼1	
	中国語 IV	2後		1			○								兼1	
	異文化コミュニケーション	1後		1			○								兼1	
小計(11科目)		—	4	7			—			0	0	0	0	0	兼6	—
人文系	哲学	1後		2			○								兼1	
	論理学	2後		2			○								兼1	
	心理学	2前		2			○								兼1	
	歴史学	1前		2			○								兼1	
	地理学	1後		2			○								兼1	
	教育学	1前		2			○								兼1	
	文化人類学	1後		2			○								兼1	
	多文化共生論	1前		2			○								兼1	
	小計(8科目)		—	0	16			—			0	0	0	0	0	兼8
社会系	法学概論	1後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1前		2			○								兼1	
	民法	2前		2			○								兼1	
	商法	2後		2			○								兼1	
	人権論	1前		2			○								兼1	
	経営学入門	1前		2			○								兼1	
	経済学入門	1後		2			○			1						
	国際関係論	1後		2			○								兼1	
小計(8科目)		—	0	16			—			1	0	0	0	0	兼4	—
自然系	数学基礎 I *	1前		2			○									
	数学基礎 II *	1後		2			○									
	線形代数基礎 *	1前		2			○				1					
	微分積分基礎 *	1前		2			○				1					
	線形代数 *	2後		2			○				1					
	微分積分 *	2後		2			○				1					
	多変量解析 *	2前		2			○			1	1					
	線形計画法 *	2前		2			○					1				
	生物学	1前		2			○								兼1	
	健康学	2前		2			○								兼1	
	環境学	1後		2			○								兼1	
	栄養学	1後		2			○								兼1	
	体育実技 I	1前		1											兼1	
	体育実技 II	1後		1											兼1	
小計(14科目)		—	0	26	0		—			1	2	1	0	0	兼4	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報学部情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前		2		○									兼1
		地域情報学Ⅰ	1前		2		○			1						
		地域情報学Ⅱ	1後		2		○			1						
		行政学入門	1後		2		○									兼1
		地域資源論	1前		2		○									兼1
		観光総論	2前		2		○									兼1
		地域ベンチャー育成論	2後		2		○									兼1
		地域産業論	2前		2		○									兼1
		地域防災論	2後		2		○									兼1
		観光情報学	3後		2		○			1						
	地域福祉論	3後		2		○									兼2オムニバス	
	全学共通科目群	社会保障論	1後		2		○									兼2オムニバス
		持続可能な社会論	2前	2			○									兼1
		社会福祉論	2前		2		○									兼1
		社会調査論	2前		2		○									兼1
		統計学	1前		2		○			1						
		情報リテラシー	1後	2			○				1					
		データサイエンス入門	1前		2		○				1					
		経営情報システム論	2後		2		○									兼1
		IT産業論	3前		2		○									兼1
知的財産論		3前		2		○									兼1	
金融論	3前		2		○				1							
小計 (22科目)		—	4	40	0	—			4	2	0	0	0	0	兼13	—
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1					○	3	1					共同
		IT実習Ⅱ	1後	1					○		3	1				共同
		IT実習Ⅲ	2前	1					○	3	1	1				共同
		IT実習Ⅳ	2後	1					○	1	1	2				共同
		地域情報PBL入門	1	2				○		7	6	4				
		地域情報PBL基礎	2	2				○		7	6	4				
		地域情報PBL	3	4				○		7	6	4				
		地域情報プロジェクト	4	8				○		7	6	4				
		インターンシップ実習Ⅰ	3		1				○	1						
		インターンシップ実習Ⅱ	3		1				○	1						
	小計 (10科目)		—	20	2	0	—			7	6	4	0	0	0	—
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			○			1		1				共同
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			○			1		1				共同
		インターネット	1前	2			○					1				
		情報学アカデミックスキル	2後		1			○		1						
科学技術コミュニケーション		3後		1			○		1							
小計 (5科目)		—	6	2	0	—			3	0	2	0	0	0	—	
専門科目群	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前		2		○			1						
		オープンデータ技術	1・2後		2		○			1						
		データ可視化	1・2前		2		○				1					
		データマーケティング	1・2後		2		○									兼1
	基盤系	データ解析ツール	2・3後		2		○			1	1					
		基礎データ解析	2・3後		2		○			1	1					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2・3前		2		○				1					
		データマイニング	3・4前		2		○			1						
	理論系	統計解析	3・4後		2		○				1					
		品質管理	3・4前		2		○					1				
		統計データモデリング	3・4後		2		○				1					
		データ分析と意思決定	3・4後		2		○			1						
小計 (12科目)		—	0	24	0	—			4	2	1	0	0	0	兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報学部情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 専門科目群 ICTトラック 人間・社会情報学トラック	実践系	地理情報システム	1・2前	2		○			1						
	情報ネットワーク	1・2後	2		○				1						
	組込みシステム	2・3前	2		○				1						
	基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		○				1					
	計算機アーキテクチャ	1・2後	2		○					1					
	データベースシステム	2・3前	2		○					1				兼1	
	オペレーティングシステム	2・3前	2		○						1				兼1
	分散システム	2・3後	2		○						1				
	プログラミング言語処理系	2・3後	2		○										
	理論系	信号情報処理	3・4前	2		○			1	1					
	数値解析	3・4後	2		○						1				
	アルゴリズム論	3・4後	2		○				1						兼1
	グラフ理論	3・4前	2		○						1				
	論理設計	3・4前	2		○					1					
	計算理論	3・4後	2		○				1						
	情報符号理論	3・4後	2		○				1						
	小計 (16科目)		—	0	32	0		—	4	3	3	0	0		兼1
	実践系	人工知能	1・2前	2		○			1						
	IoT	1・2後	2		○					1					
	エンタテインメント情報学	1・2前	2		○				1						兼1
	メディア情報学	1・2後	2		○					1					
	ゲーム情報学	1・2後	2		○						1				
	基盤系	情報システム	2・3後	2		○			1						
	ヒューマンインタフェース	2・3後	2		○				1						
機械学習システム	2・3前	2		○				1							
理論系	パターン認識と機械学習	3・4前	2		○			1		1				共同	
画像情報処理	3・4前	2		○				1							
音情報処理	3・4後	2		○					1						
自然言語処理	3・4後	2		○				1							
小計 (12科目)		—	0	24	0		—	4	2	2	0	0		兼1	
合計 (118科目)			—	34	189	0	—	8	6	4	0	0			
			学士 (情報学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位（ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること）と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位（地域理解科目から10単位を含む）、専門科目群の選択科目から48単位（同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む）を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				15 週			
								1 時限の授業時間				90 分			

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

PBL 科目

担当教員とクラス

担当教員	18 名（1 名は教養系教員）の専任教員を 4 つのユニットに分け、1 ユニット 4～5 名を配置する。
クラス（担当教員 1 人あたりの授業の単位）	1 ユニットは 4～5 クラスとし、18 名（1 名は教養系教員）の専任教員のうち 17 名が 1 クラスを受け持ち、全体で 17 クラスとなる。
ユニットの構成	各ユニットには、教授もしくは准教授が必ず入り、ユニット単位で授業の基本方針、成績評価を統括する。

想定しているユニット

1	早川知道教授、山本吉伸教授、池野英利教授、崔童殷准教授
2	畠中利治教授、畠中理英准教授、渡邊扇之介准教授、眞鍋雄貴講師
3	西田豊明教授、黄宏軒教授、松山江里教授、橋田光代教授、前田一貴講師
4	倉本到教授、河合宏紀准教授、衣川昌宏准教授、藤井淑人講師

学生は、どれか 1 つのユニットに属することになる。

クラス分けの方法

学年開始前	事前に 6 人以上の受け入れ最大可能人数を各教員が示し、学科で調整する。
	
学年当初のオリエンテーション時	説明、ゼミ訪問、学生同士の話し合いを時間をかけて行い、その後、履修クラスを決定し、登録する。

※担当教員（クラス）の変更は、1 年次から 2 年次への移行時及び 2 年次から 3 年次へ移行時には可能とし、3 年次から 4 年次への移行時は不可とする。

成績評価及び単位認定

学年開始前	学科全体で PBL 科目の単位認定の基本方針を定める。
成果発表	各ユニットで当該ユニットの教員と学生全員参加の報告会を行い、そこで学生が発表する。
評価	ユニット単位での発表や各クラスでの学修成果を確認し、担当教員全体で科目の到達目標と学修成果を確保しつつ、成績評価及び単位認定を行う

開講方法

各学年の受講のあり方

年次	履修するコマ数
1 年次	1 コマ
2 年次	1 コマ
3 年次	2 コマ
4 年次	4 コマ

各コマは合同授業とする。ただし、上記の成績評価及び単位認定のところで述べたように、到達目標と学修成果の確保には細心の注意を払う。

想定される時間割

曜日	時限	履修する学年
火	3	1 年次、2 年次、3 年次、4 年次（合同）
火	4	3 年次、4 年次（合同）
月	4	4 年次のみ
月	5	4 年次のみ

※ 全て通年の授業

IT 実習

テーマ

以下のテーマを設定する

- ・ IT 実習Ⅰ（1年前期）「実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-」
- ・ IT 実習Ⅱ（1年後期）「ITの世界」
- ・ IT 実習Ⅲ（2年前期）「メディア情報学-AIの世界-」
- ・ IT 実習Ⅳ（2年後期）「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」

担当教員とクラス数

IT 実習Ⅰ～Ⅳは、PBLの4つのユニットごとに教員4ないし5名で担当し各4～5クラスである。

受講人数とクラス分け

- ・ 1クラス25名程度とし、クラスごとの人数の偏りはないようにする。
- ・ 半期ごとの履修登録であるので、各学期当初のオリエンテーションでは、学生同士での話し合いで時間をかけてクラス分けを行う。

PBL・IT 実習の実施に係る資料

補正後

PBL 科目

担当教員とゼミ

担当教員	18名（1名は教養系教員）の専任教員を4つのユニットに分け、1ユニット4～5名を配置する。
ゼミ（担当教員1人あたりの授業の単位）	1ユニットは4～5ゼミからなり、18名（1名は教養系教員）の専任教員のうち17名がそれぞれゼミを受け持ち、全体で17ゼミとなる。
ユニットの構成	各ユニットには、教授もしくは准教授が必ず入り、ユニット単位で授業の基本方針、成績評価を統括する。

週ごとの活動単位

週	活動単位																内容	
	(全教員による会議)																テーマ調整 ゼミ規模調整	
1	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				オリエンテーション	
2 ～ 14	ゼ ミ 1	ゼ ミ 2	ゼ ミ 3	ゼ ミ 4	ゼ ミ 5	ゼ ミ 6	ゼ ミ 7	ゼ ミ 8	ゼ ミ 9	ゼ ミ 10	ゼ ミ 11	ゼ ミ 12	ゼ ミ 13	ゼ ミ 14	ゼ ミ 15	ゼ ミ 16	ゼ ミ 17	PBL活動
15	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				中間報告	
16 ～ 28	ゼ ミ 1	ゼ ミ 2	ゼ ミ 3	ゼ ミ 4	ゼ ミ 5	ゼ ミ 6	ゼ ミ 7	ゼ ミ 8	ゼ ミ 9	ゼ ミ 10	ゼ ミ 11	ゼ ミ 12	ゼ ミ 13	ゼ ミ 14	ゼ ミ 15	ゼ ミ 16	ゼ ミ 17	PBL活動
29 30	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				最終報告	
	(全教員による会議)																評価相互点検	

想定しているユニット

1	田中克己教授、山本吉伸教授、池野英利教授、崔童殷准教授
2	畠中利治准教授、畠中理英准教授、渡邊扇之介准教授、眞鍋雄貴講師
3	西田豊明教授、黄宏軒教授、松山江里教授、橋田光代准教授、前田一貴講師
4	倉本到教授、衣川昌宏准教授、河合宏紀講師、藤井淑人講師

所属ゼミの決定方法

学年開始前	事前に 6 人以上の受け入れ最大可能人数を各教員が示し、学科で調整する。
	
授業開講前のオリエンテーション時	説明、研究室訪問、学生同士の話し合いを時間をかけて行い、その後、所属ゼミを決定し、登録する。

※担当教員（ゼミ）の変更は、1 年次から 2 年次への移行時及び 2 年次から 3 年次へ移行時には可能とし、3 年次から 4 年次への移行時は不可とする。

運用形態

	1年次	2年次	3年次	4年次
前期	オリエンテーション フィールド体験 先行事例調査	WP 提案 WP 設計 WP 中間報告	RP 提案 RP 設計 RP 中間報告	プロジェクト社会 実装 プロジェクト試験 運用
後期	先行/既存プロジェクト参加学習 プロジェクト提案	WP 実装 WP 評価 WP 成果報告	RP 実装 RP 評価 RP 成果報告	プロジェクト継承 プロジェクト評価 成果報告
全体像	前期：PBL 体験による活動準備を行う 後期：4年生が実施した先行プロジェクトや地域・企業の提供する既存のプロジェクトに参加し、構想をプロジェクト提案としてまとめる	興味を持つ技術的要素を見つけ、ICT 技術を活用した対象フィールドにおける課題解決に貢献するワーキングプロトタイプ(WP)を提案・設計・実装・評価する	これまで取り組んできた課題に対し、実運用が可能と考えられるアイデアを、ICT 技術を活用した実運用向けプロトタイプ(RP)として提案・設計・実装・評価する	前期：RP の社会実装に取り組み、試験運用する 後期：特に1年次学生の参加を得てプロジェクト運用を継承するとともに、プロジェクトを技術的・社会的両側面から総合的に評価する

成績評価及び単位認定

学年開始前	学科全体で PBL 科目の単位認定の基本方針を定める。
成果発表	各ユニットで当該ユニットの教員と学生全員参加の報告会を行い、そこで学生が発表する。
評価	ユニット単位での発表や各ゼミでの学修成果を確認し、担当教員全体で科目の到達目標と学修成果を確保しつつ、成績評価及び単位認定を行う

開講方法

各学年の受講のあり方

年次	履修するコマ数
1年次	1コマ
2年次	1コマ
3年次	2コマ
4年次	4コマ

各コマは合同授業とする。ただし、上記の成績評価及び単位認定のところで述べたように、到達目標と学修成果の確保には細心の注意を払う。

想定される時間割

曜日	時限	履修する学年
火	3	1年次、2年次、3年次、4年次（合同）
火	4	3年次、4年次（合同）
月	4	4年次のみ
月	5	4年次のみ

※ 全て通年の授業

IT 実習

テーマ

各科目で以下の共通テーマを設定する。さらに、具体的には各科目毎に以下の実習テーマを提供する予定である。

- IT 実習Ⅰ（1年前期）「実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-」
 - ◇ 時系列データ解析入門
 - ◇ 地理情報システムの活用
 - ◇ 社会調査データ分析
 - ◇ オープンデータを用いたコンテンツの作成
- IT 実習Ⅱ（1年後期）「ITの世界」
 - ◇ Raspberry PI と環境センサを用いた環境計測と分析
 - ◇ FPGA と超音波センサを組み合わせたシステム設計
 - ◇ 最適化問題の計算機解法
 - ◇ Lego Mindstorms EV3 によるロボットの走行制御
- IT 実習Ⅲ（2年前期）「メディア情報学-AIの世界-」
 - ◇ ゲームプログラミング
 - ◇ 自然言語処理入門
 - ◇ 画像処理と認識・分類
 - ◇ 音声処理と自動作曲・編曲
 - ◇ 人工生命と遺伝的アルゴリズム
- IT 実習Ⅳ（2年後期）「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」
 - ◇ 半期の複合現実コンテンツ開発プロジェクトを4クラスに分かれて実施

各科目の目標

- IT 実習Ⅰ：Python や JavaScript といったプログラミング言語の初歩的な扱い、Excel や R を用いた統計解析の初歩を体験・習得する。入学直後の科目のため、PC の操作に慣れることも目標に含む。
- IT 実習Ⅱ：実世界の問題をモデル化しコンピュータを用いて解決する方法、プログラミング技術と各種デバイスを組み合わせた簡単なシステムを構築する方法を体験・習得する。
- IT 実習Ⅲ：TensorFlow などの既存のライブラリを用いて高度なソフトウェアを開発する方法、コンピュータによる各種メディアの扱い方、機械学習の初歩を体

験・習得する。

- IT 実習Ⅳ：最先端の複合現実の技術を体験し、その扱い方を習得するとともに、短期プロジェクトで1つの成果物を仕上げる経験を積む。

なお、PBL 科目とは異なり、課題は担当教員が設定するものとし、プロジェクト形式の課題とし学生に提案させる場合も、課題設定に評価の重点を置くわけではない。

担当教員とクラス数

IT 実習Ⅰ～Ⅳは、PBL の4つのユニットごとに教員4ないし5名で担当し各4～5クラスである。

受講人数とクラス分け

- ・1クラス25名程度とし、クラスごとの人数の偏りはないようにする。
- ・半期ごとの履修登録であるので、各学期当初のオリエンテーションでは、学生同士での話し合いで時間をかけてクラス分けを行う。

授業計画

基本的には次のような計画になる。

1. 初回オリエンテーション
2. 課題に取り組む環境の準備
3. 実習を交えた各種技術やツールの解説
4. 担当教員が設定した課題に取り組む
5. 課題の成果物をプレゼンテーションおよび報告書を提出
6. テーマによっては2～5を何度か繰り返す
7. 5の出来を、そのテーマで扱う技術・ツールの利活用法の習得度を中心に評価

主要科目新旧対照表（設置の趣旨等を記載した書類（P.17「主要科目」））

新					旧										
主要科目					主要科目										
科目区分			授業科目名	配当年次	単位数	科目区分			授業科目名	配当年次	単位数				
PBL (必修科目)			地域情報 PBL 入門	1	2	PBL (必修科目)			地域情報 PBL 入門	1	2				
			地域情報 PBL 基礎	2	2				地域情報 PBL 基礎	2	2				
			地域情報 PBL	3	4				地域情報 PBL	3	4				
			地域情報プロジェクト	4	8				地域情報プロジェクト	4	8				
共通教育科目	全学共通科目群	地域理解科目	地域情報学Ⅰ	1前	2	共通教育科目	全学共通科目群	地域理解科目	地域情報学Ⅰ	1前	2				
			地域情報学Ⅱ	1後	2						地域情報学Ⅱ	1後	2		
専門教育科目	情報専門基礎		コンピュータプログラミングⅠ	1前	2	専門教育科目	データサイエンストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2				
			コンピュータプログラミングⅡ	1後	2				基盤系	基礎データ解析	2・3後	2			
										理論系	統計データモデリング	3・4後	2		
	データサイエンストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2			ICTトラック			基盤系	情報セキュリティ	1・2後	2	
			基礎データ解析	2・3後	2				理論系			計算機アーキテクチャ	1・2後	2	
			統計データモデリング	3・4後	2					情報ネットワーク		2・3前	2		
	ICTトラック	実践系	情報ネットワーク	1・2後	2		人間・社会情報学トラック	理論系	アルゴリズム論	3・4後	2	実践系	人工知能	1・2前	2
			計算機アーキテクチャ	1・2後	2				基盤系	情報システム	2・3後		2		
			情報セキュリティ	2・3前	2					理論系	パターン認識と機械学習		3・4前	2	
			アルゴリズム論	3・4後	2										
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		合計 40 単位								
			情報システム	2・3後	2		合計 44 単位								
			パターン認識と機械学習	3・4前	2										

別記様式第3号(その3)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	3人	2人	3人	1人	人	9人	
	修 士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	1人	2人	2人	人	人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	3人	人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	4人	5人	4人	3人	1人	人	17人	
	修 士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

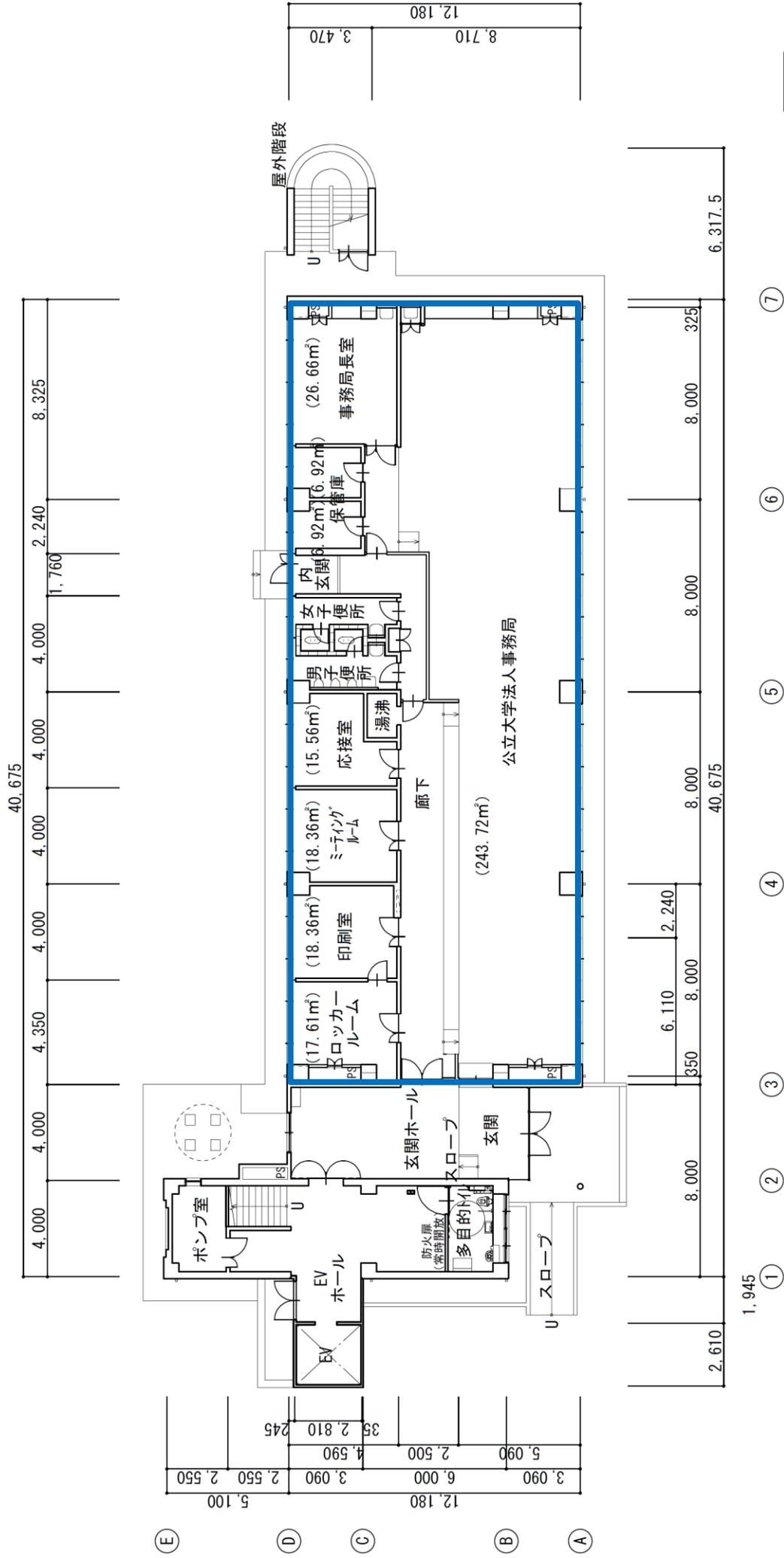
別記様式第 3 号 (その 3)

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	2人	2人	2人	1人	1人	8人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	1人	3人	1人	1人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	3人	人	1人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	4人	5人	4人	3人	1人	1人	18人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

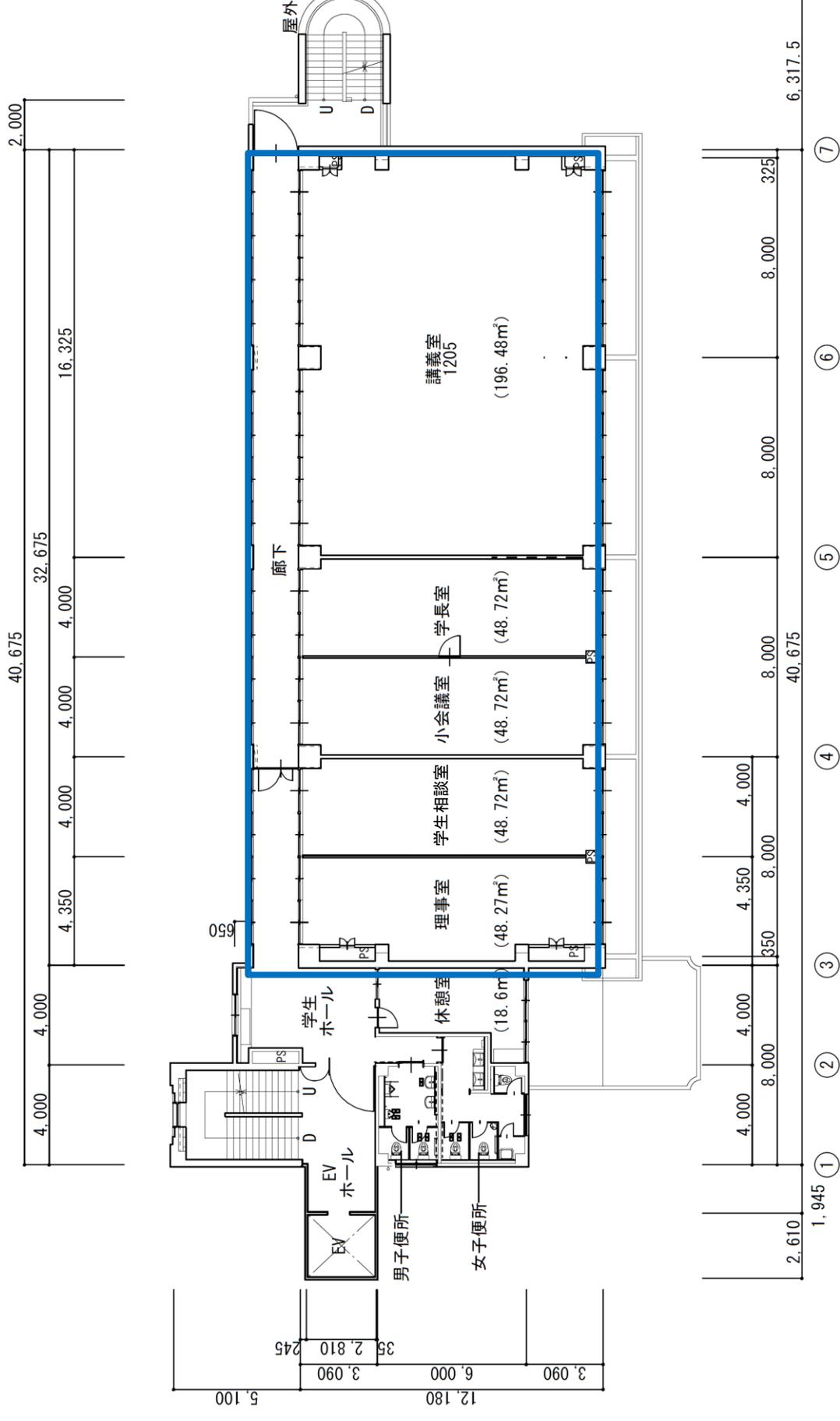
- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。



1号館2階

専用施設

共用施設

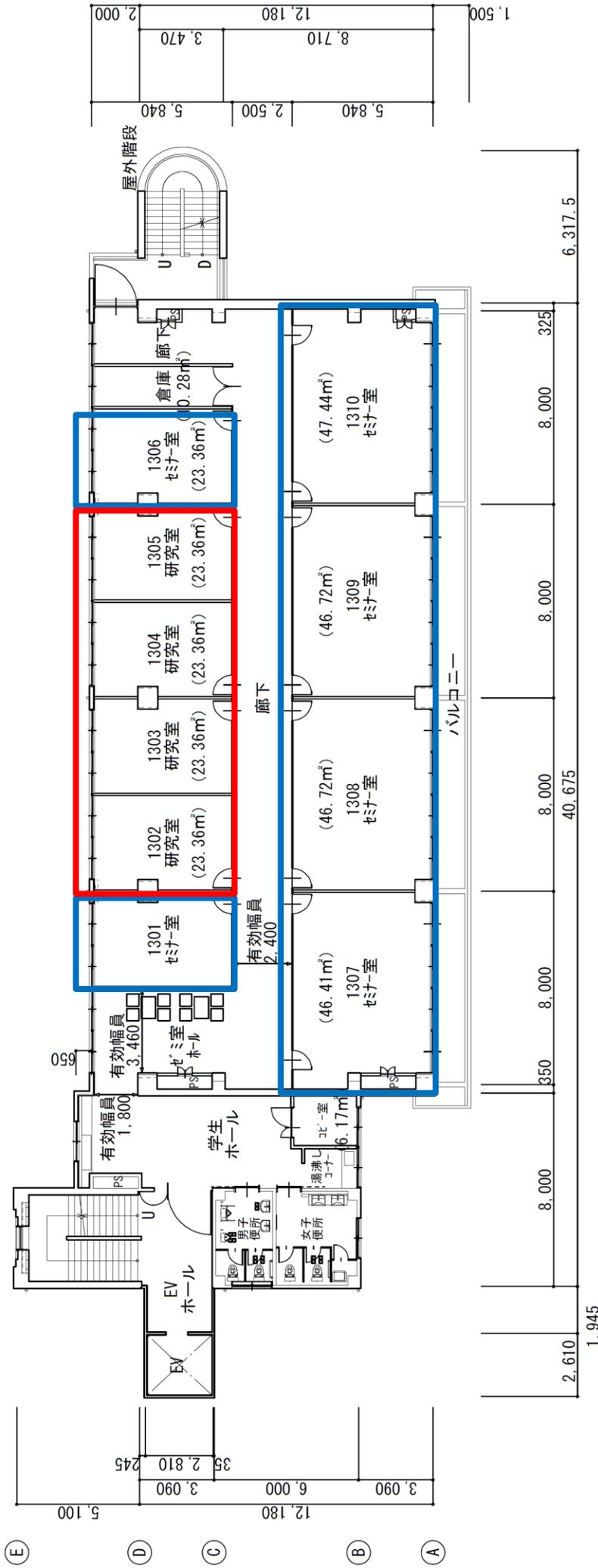
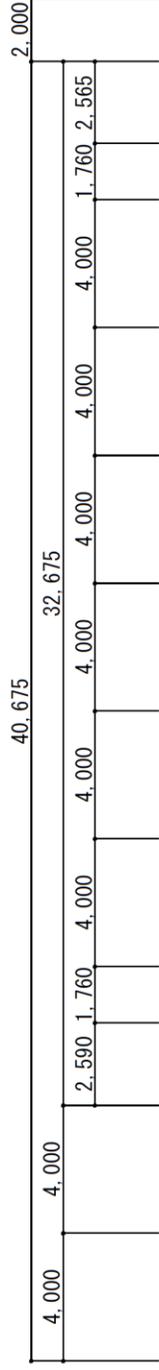


補正前

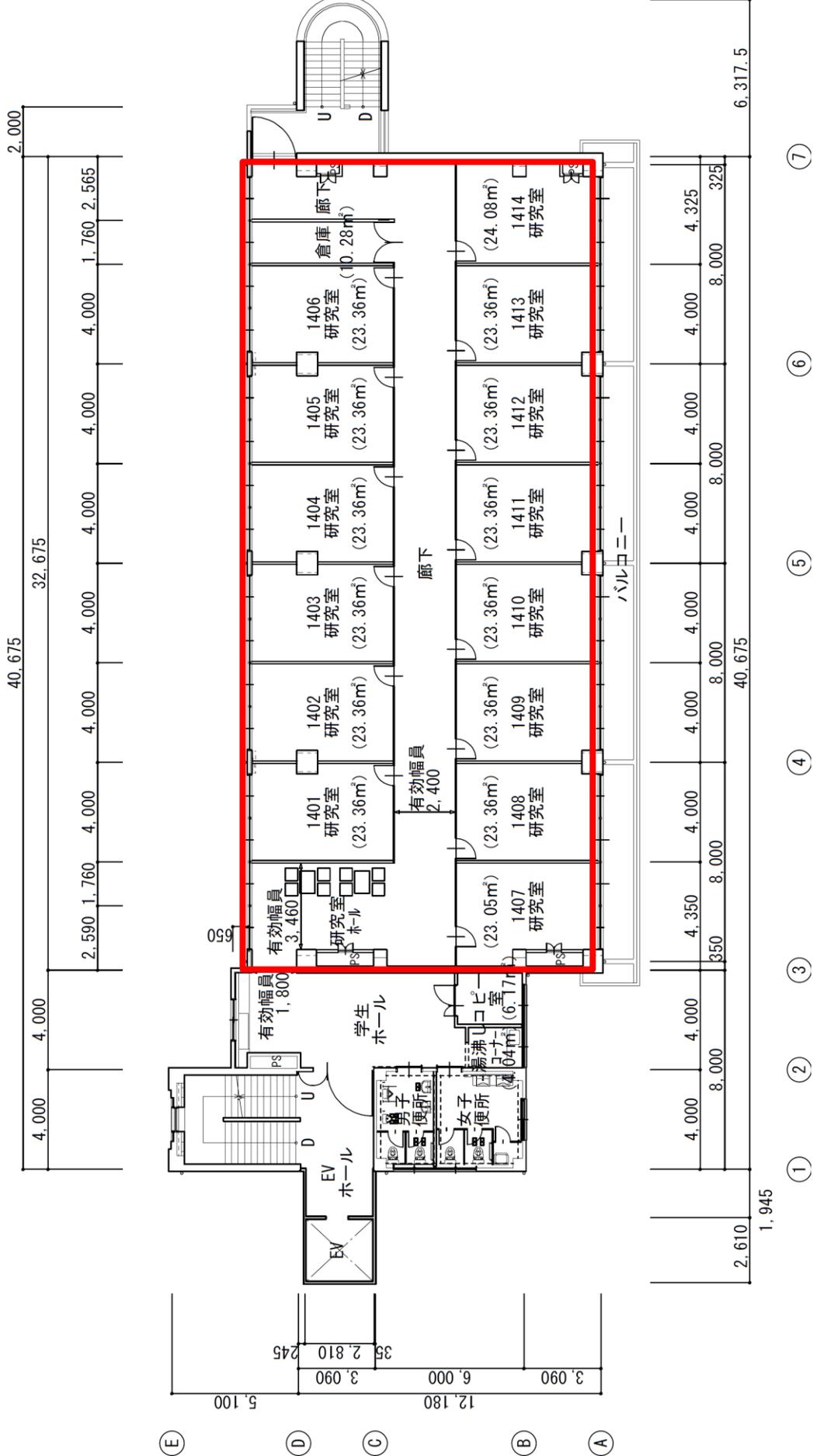
1号館3階

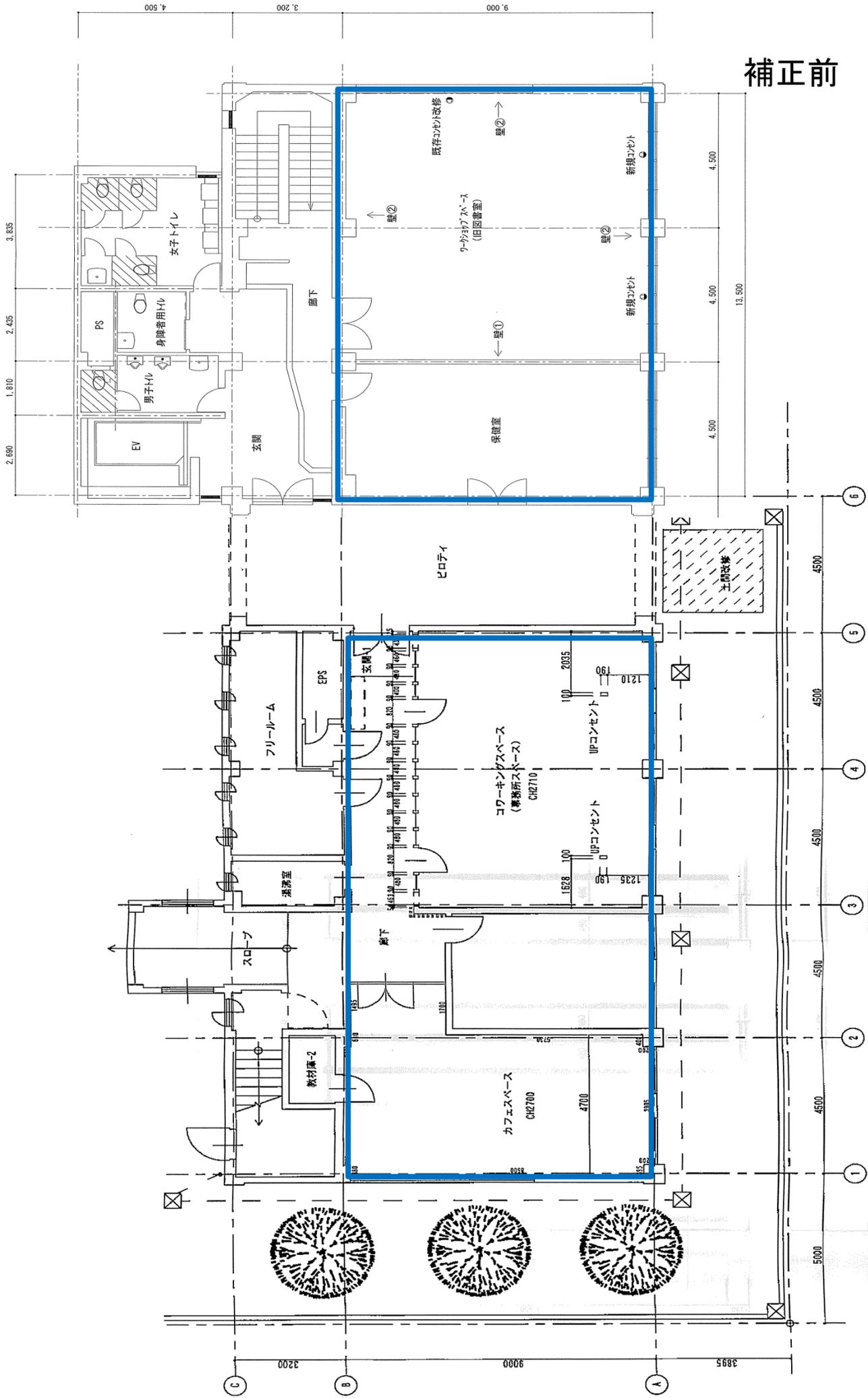
専用施設

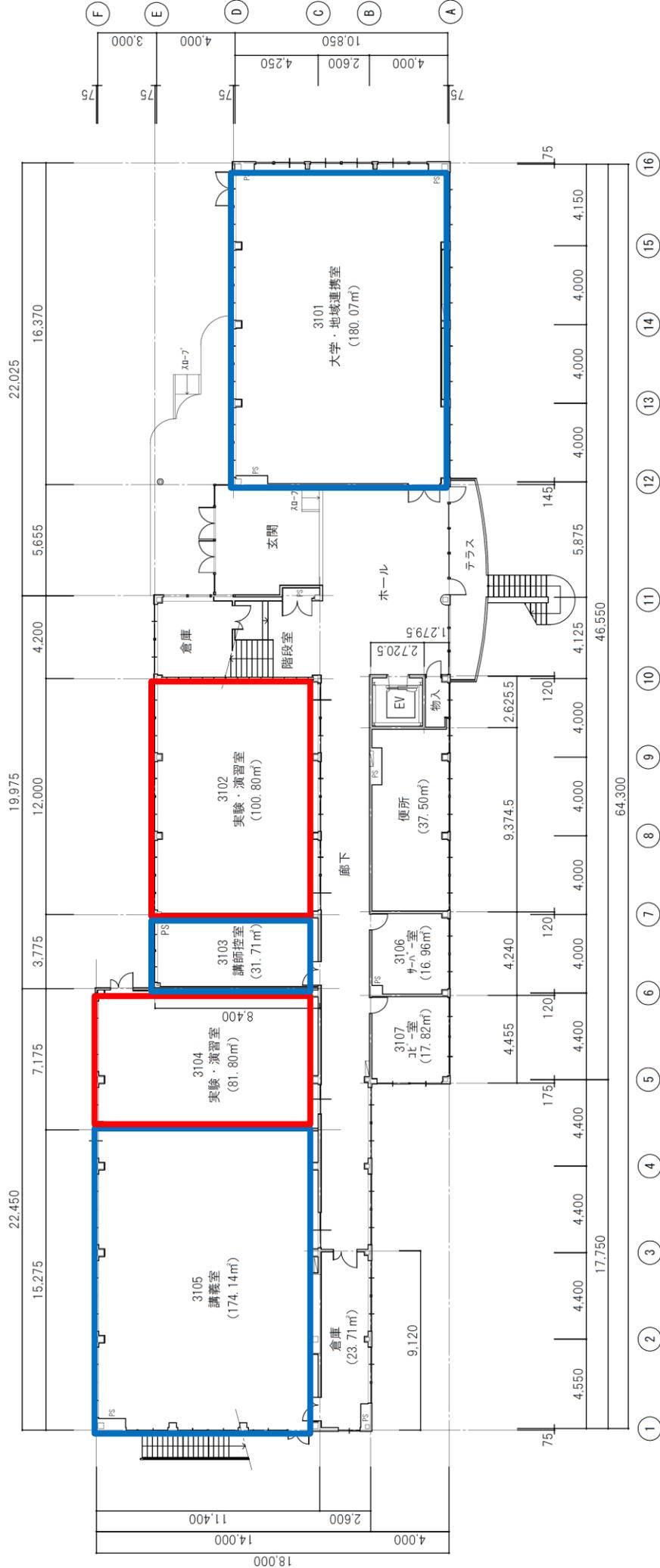
共用施設

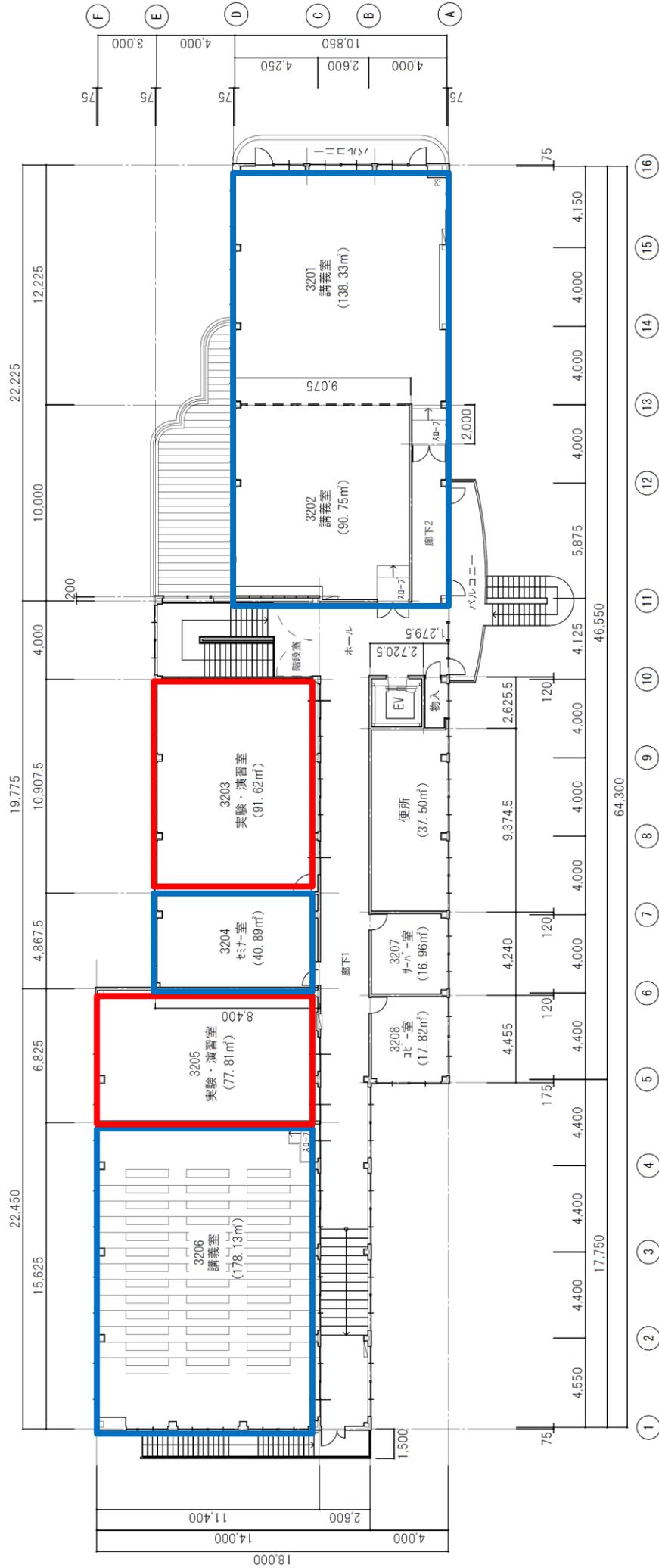


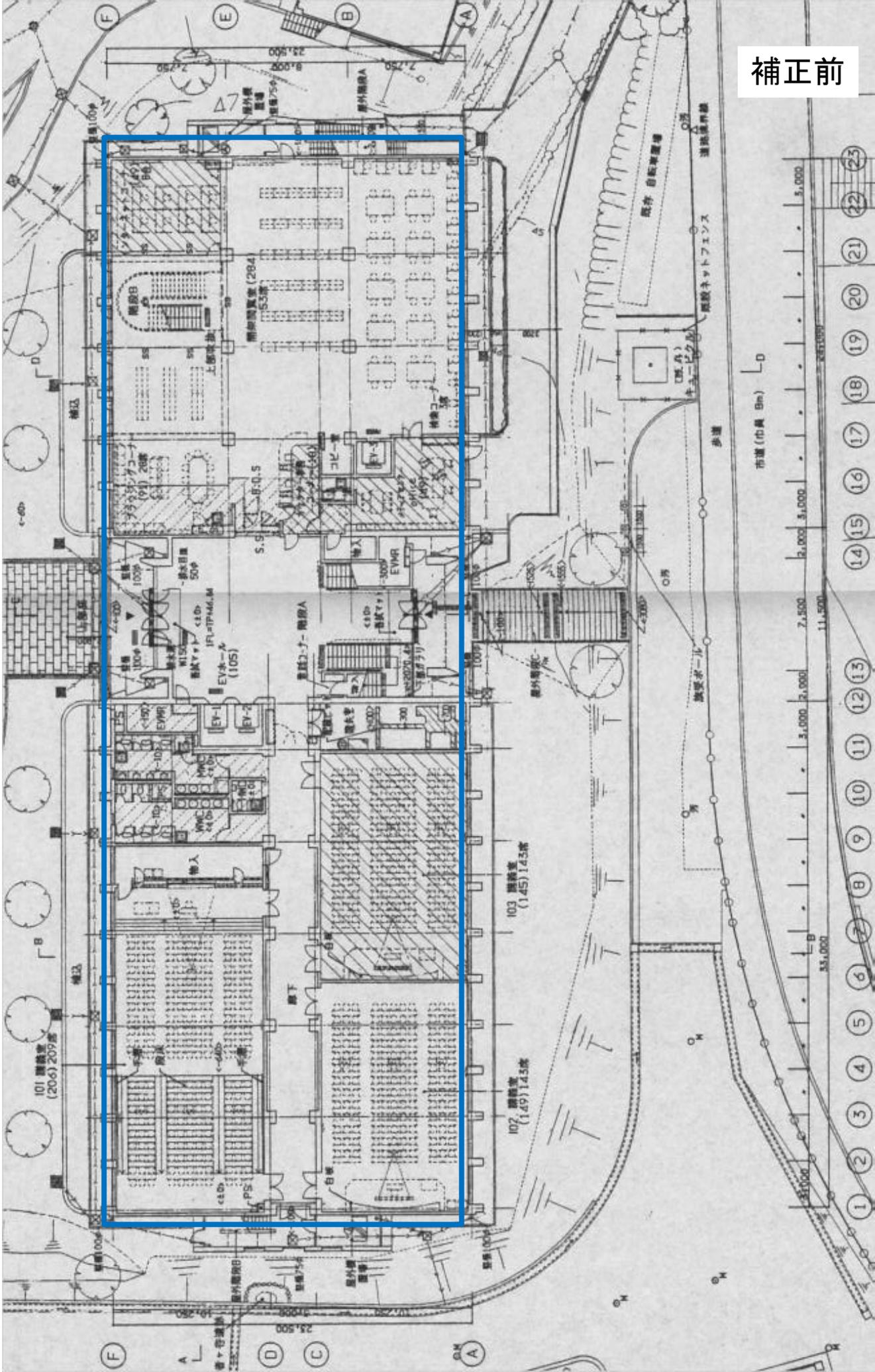
補正前

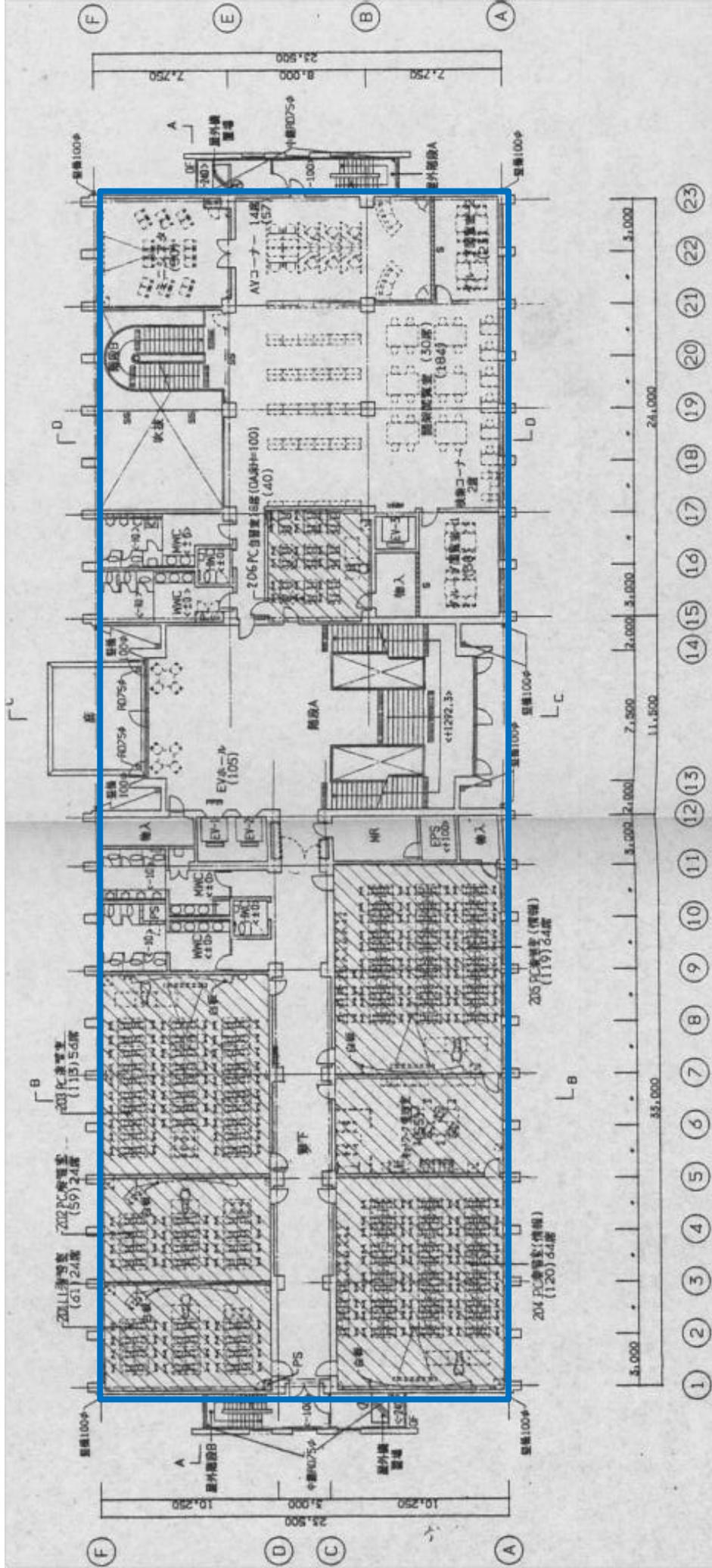


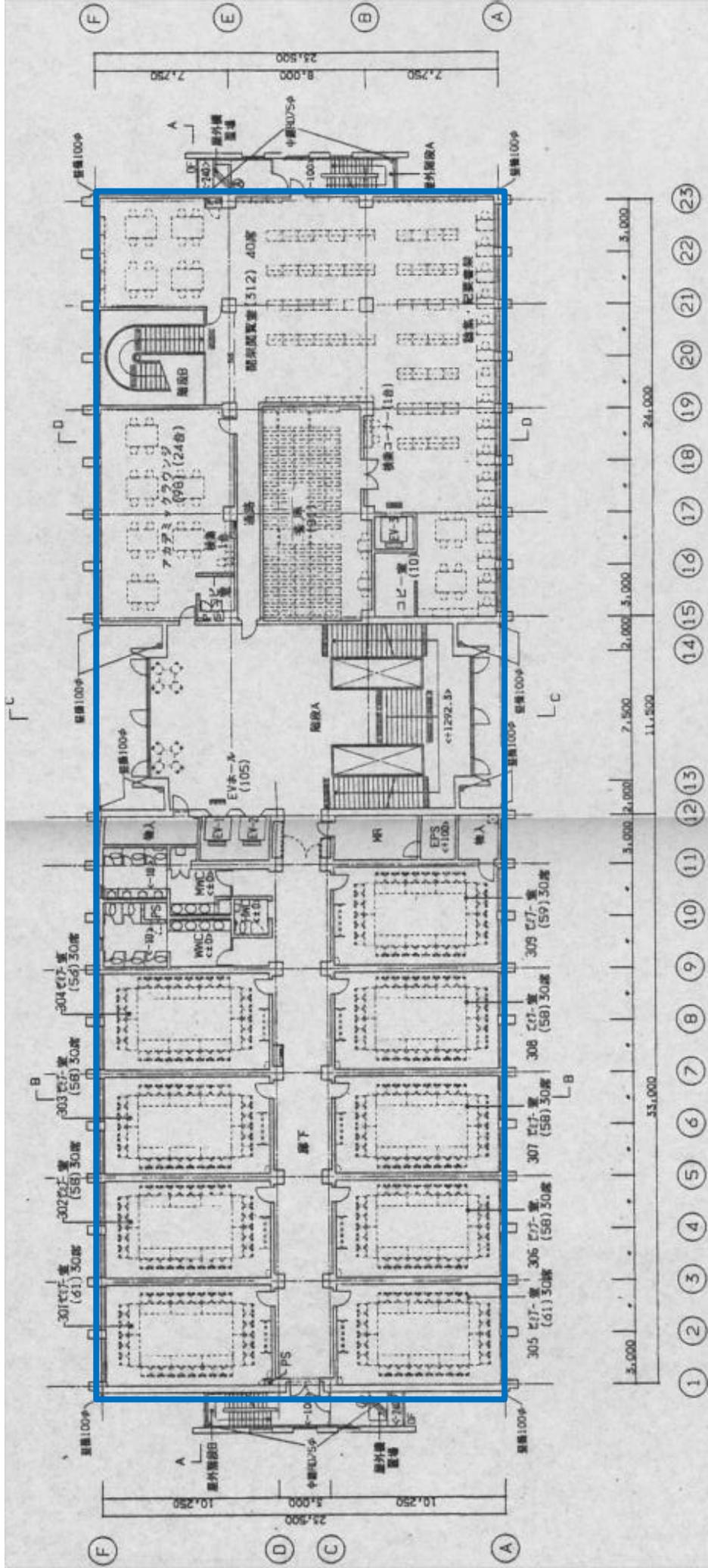




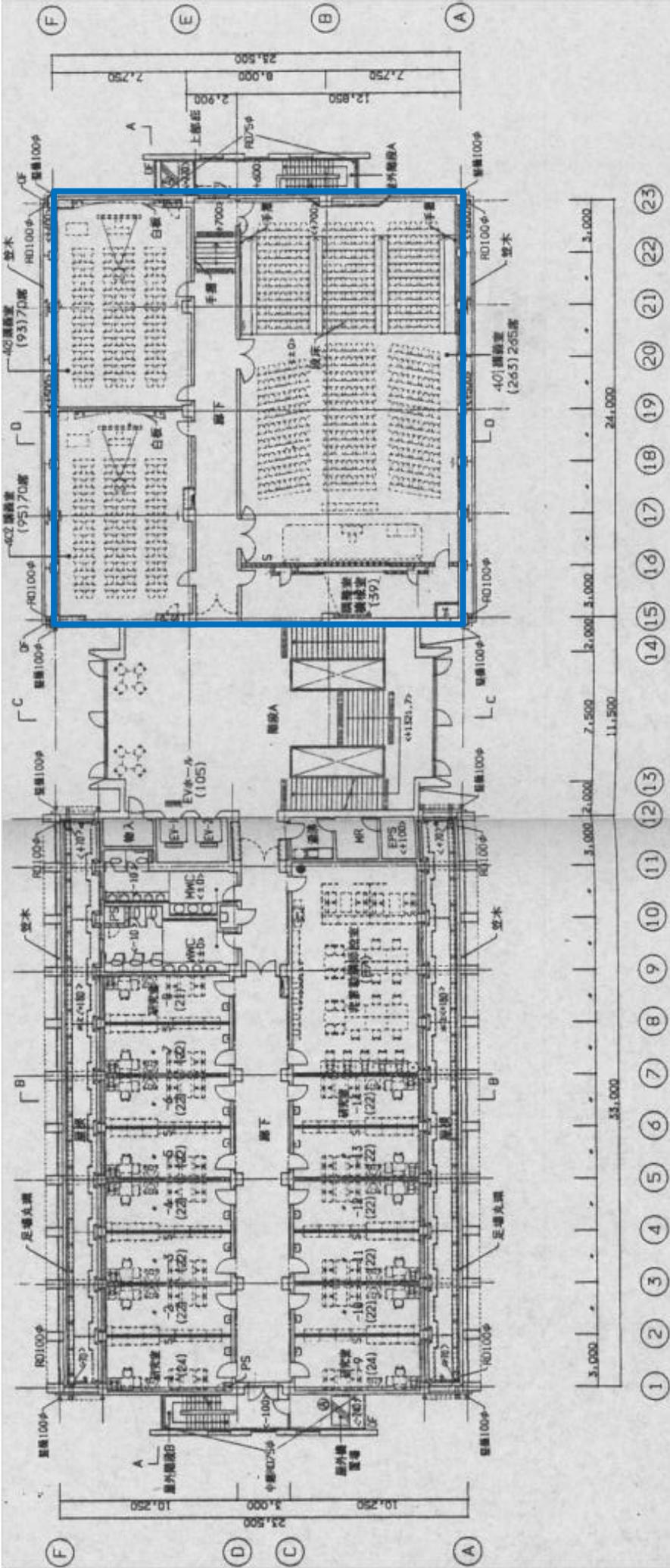


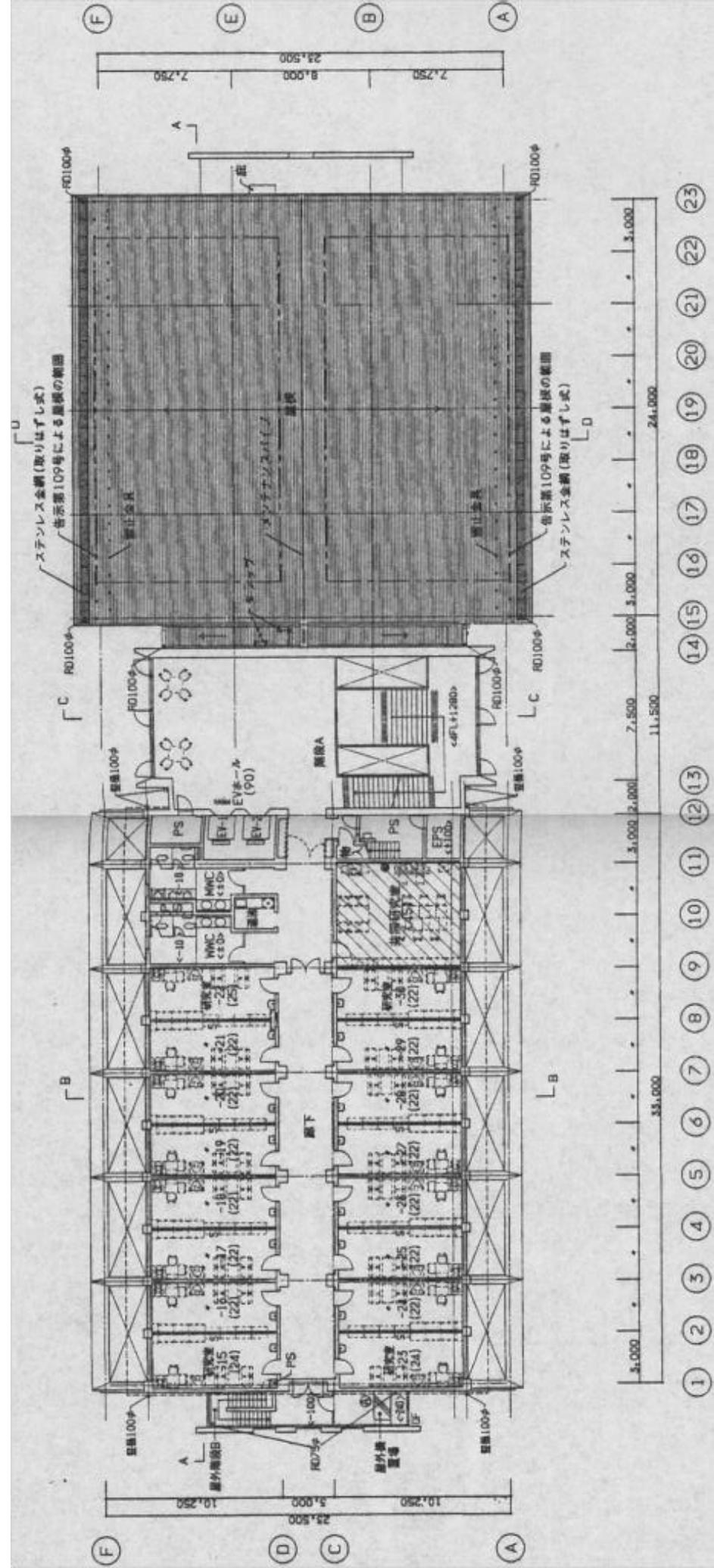


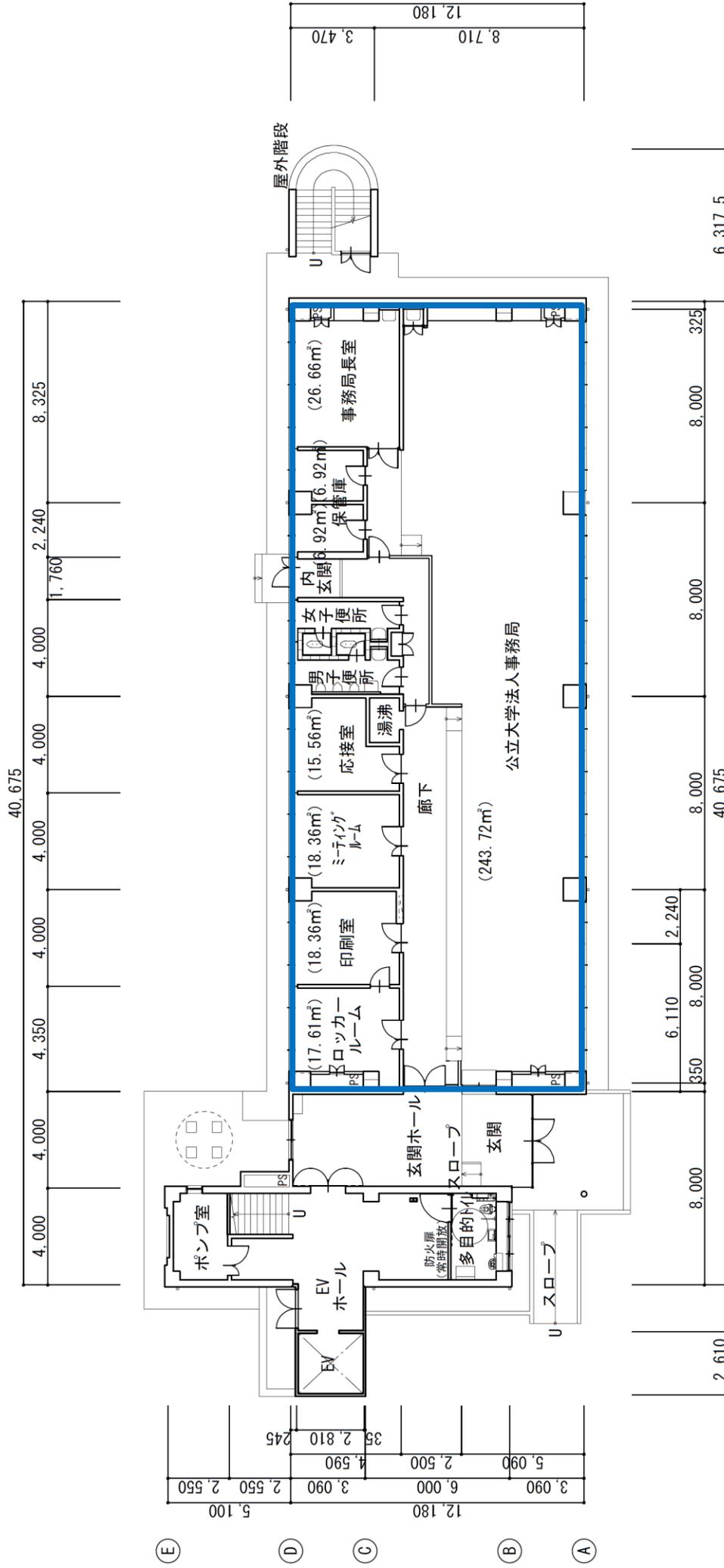




補正前





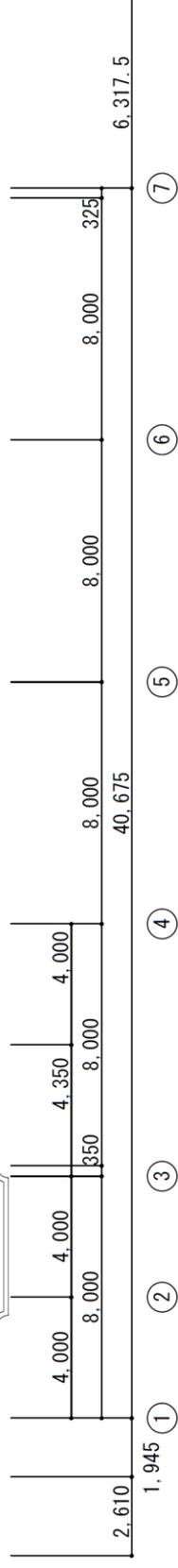
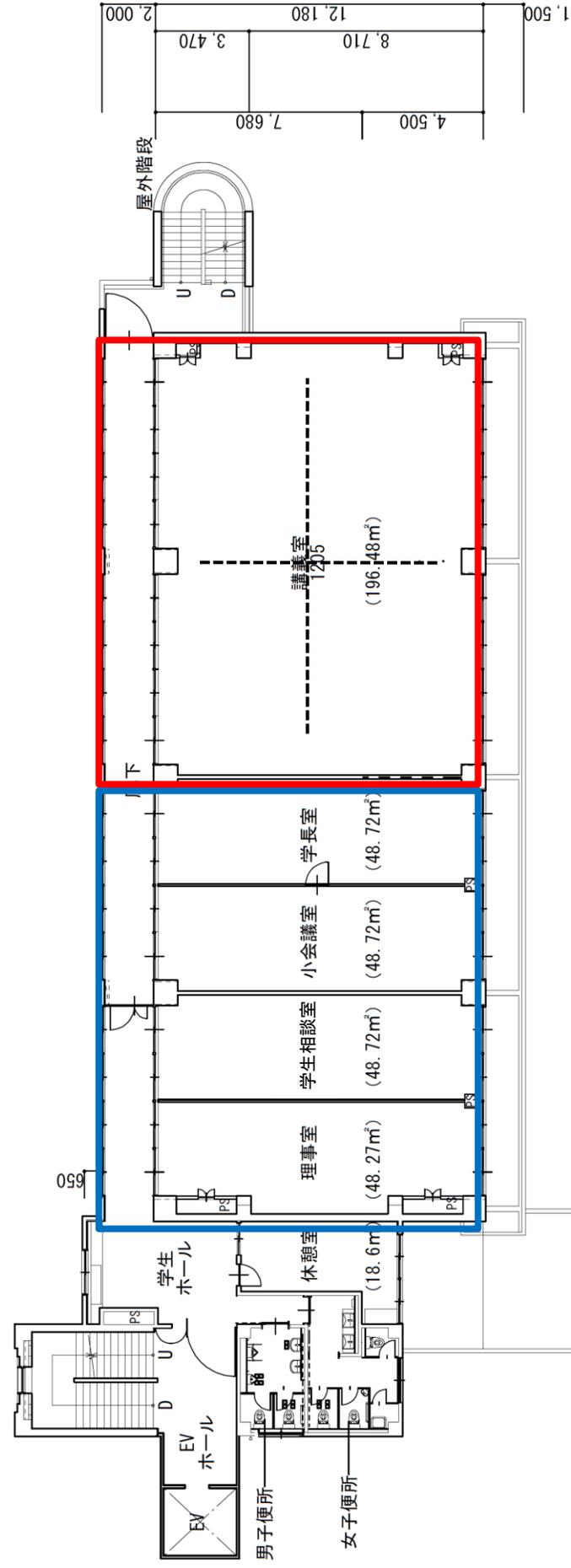
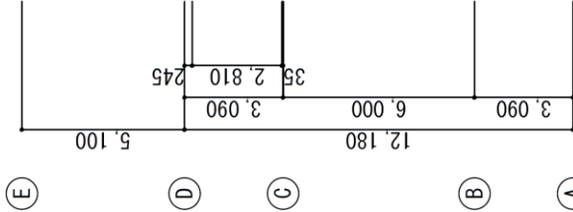
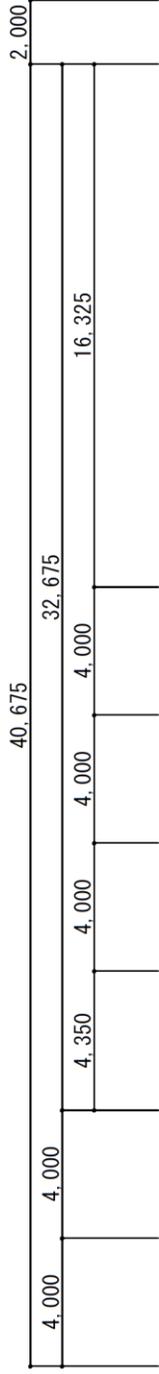


1.945 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

1号館2階

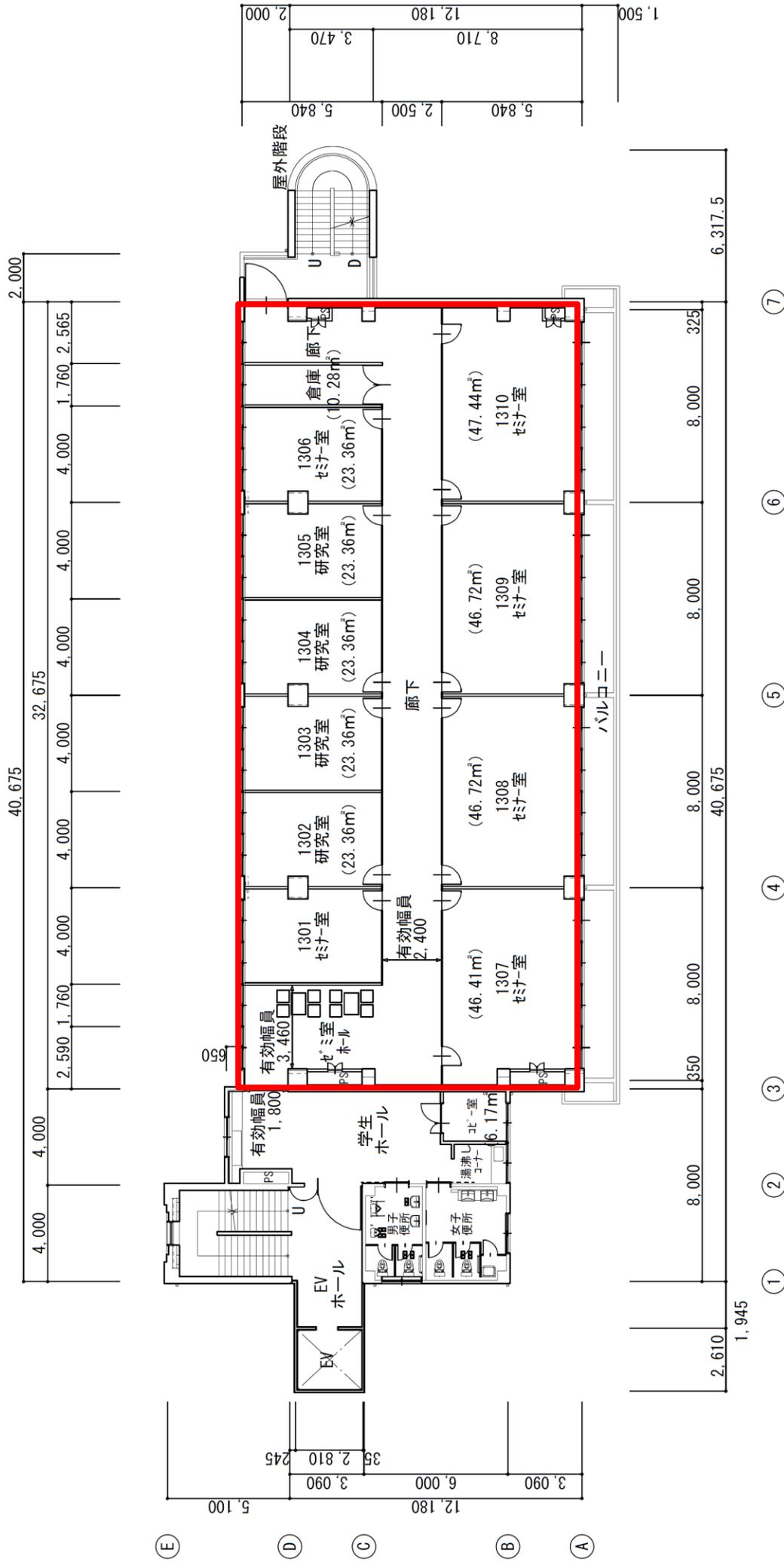
専用施設

共用施設



----- パーティション

補正後



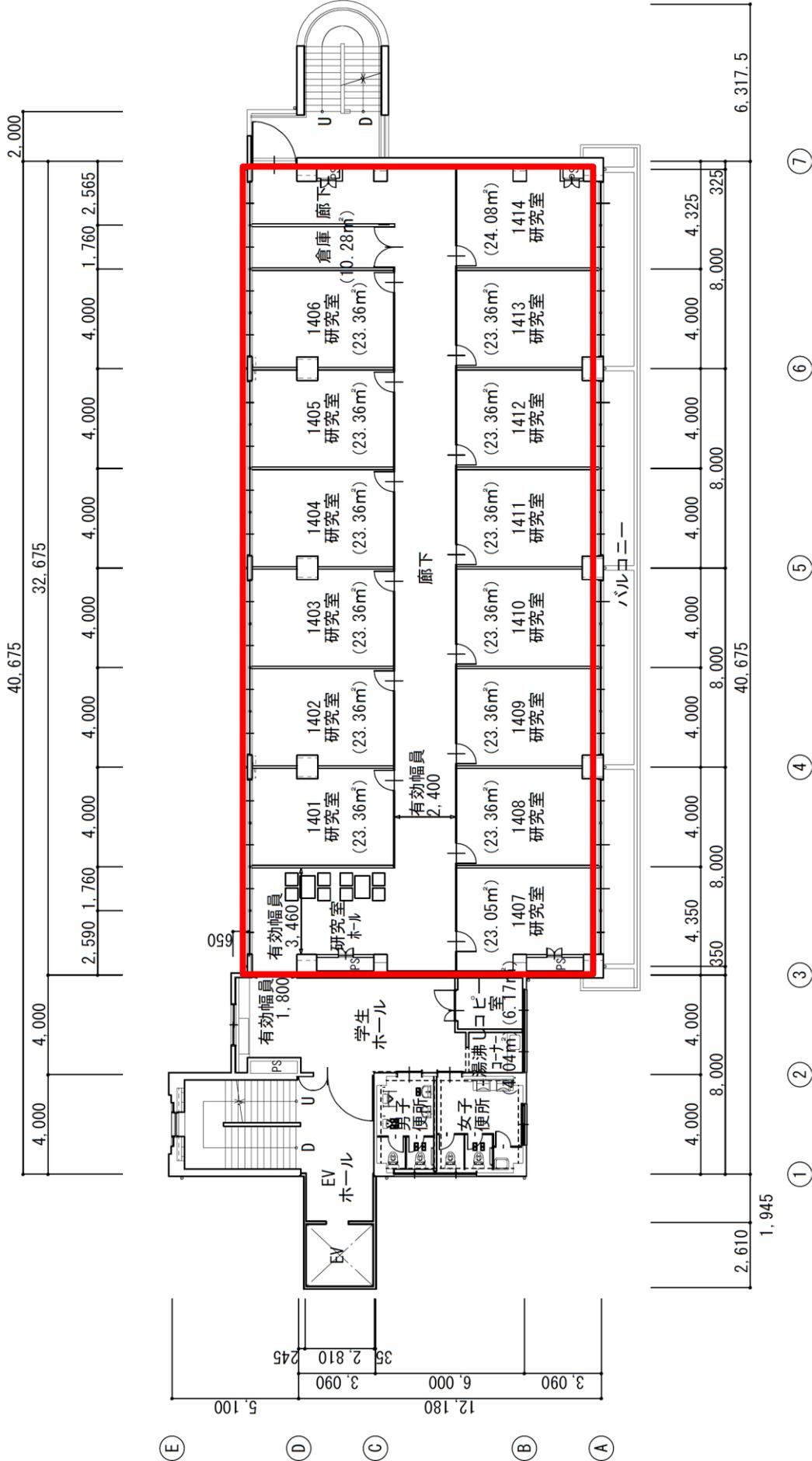
(E) (D) (C) (B) (A)

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

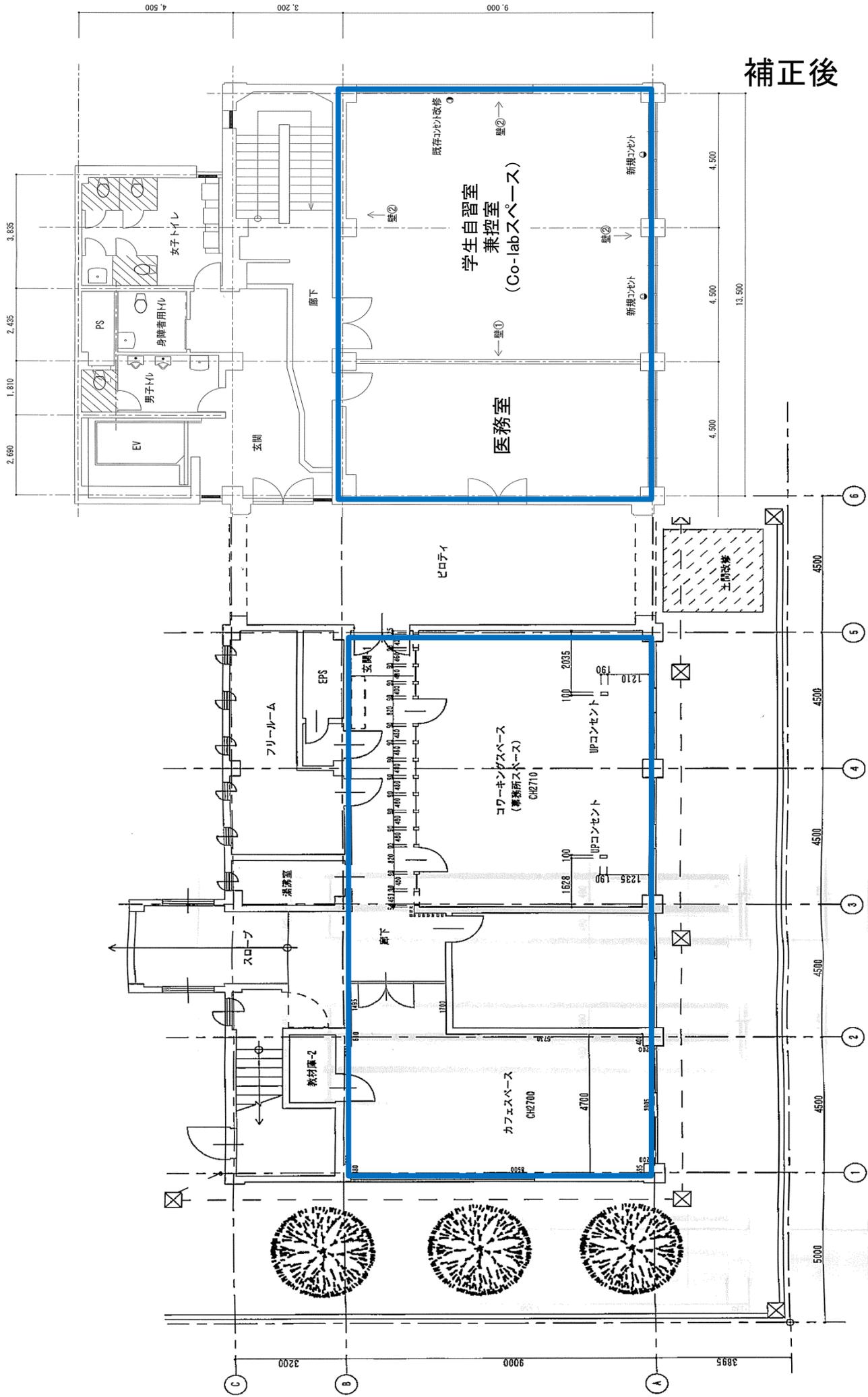
1号館4階

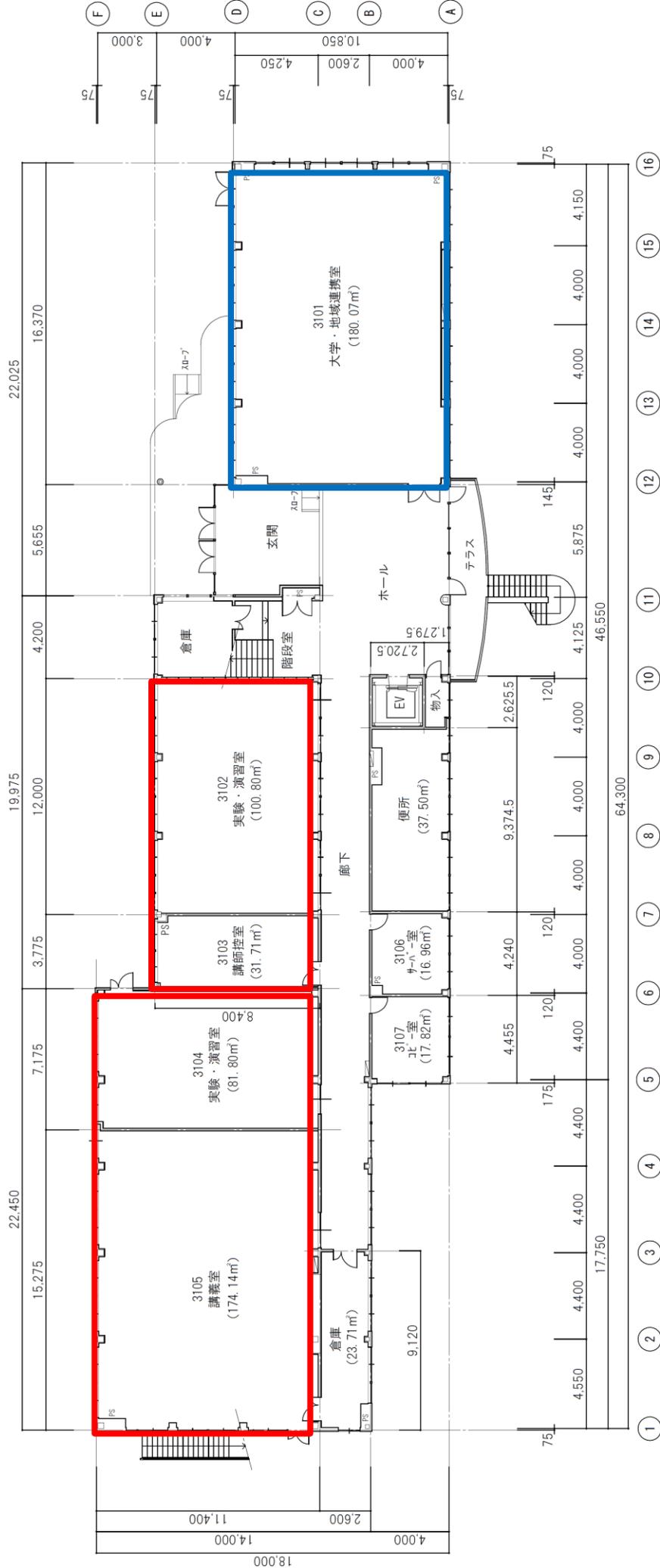
専用施設

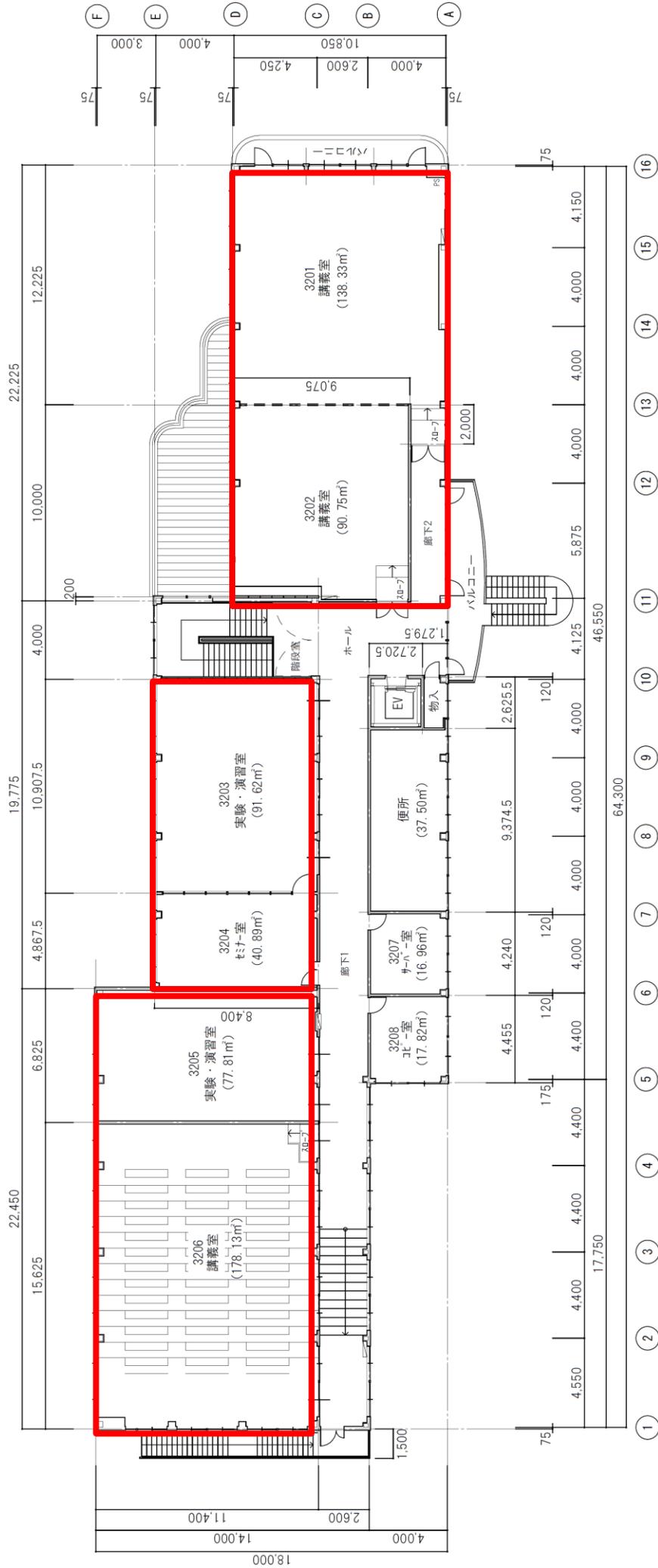
共用施設

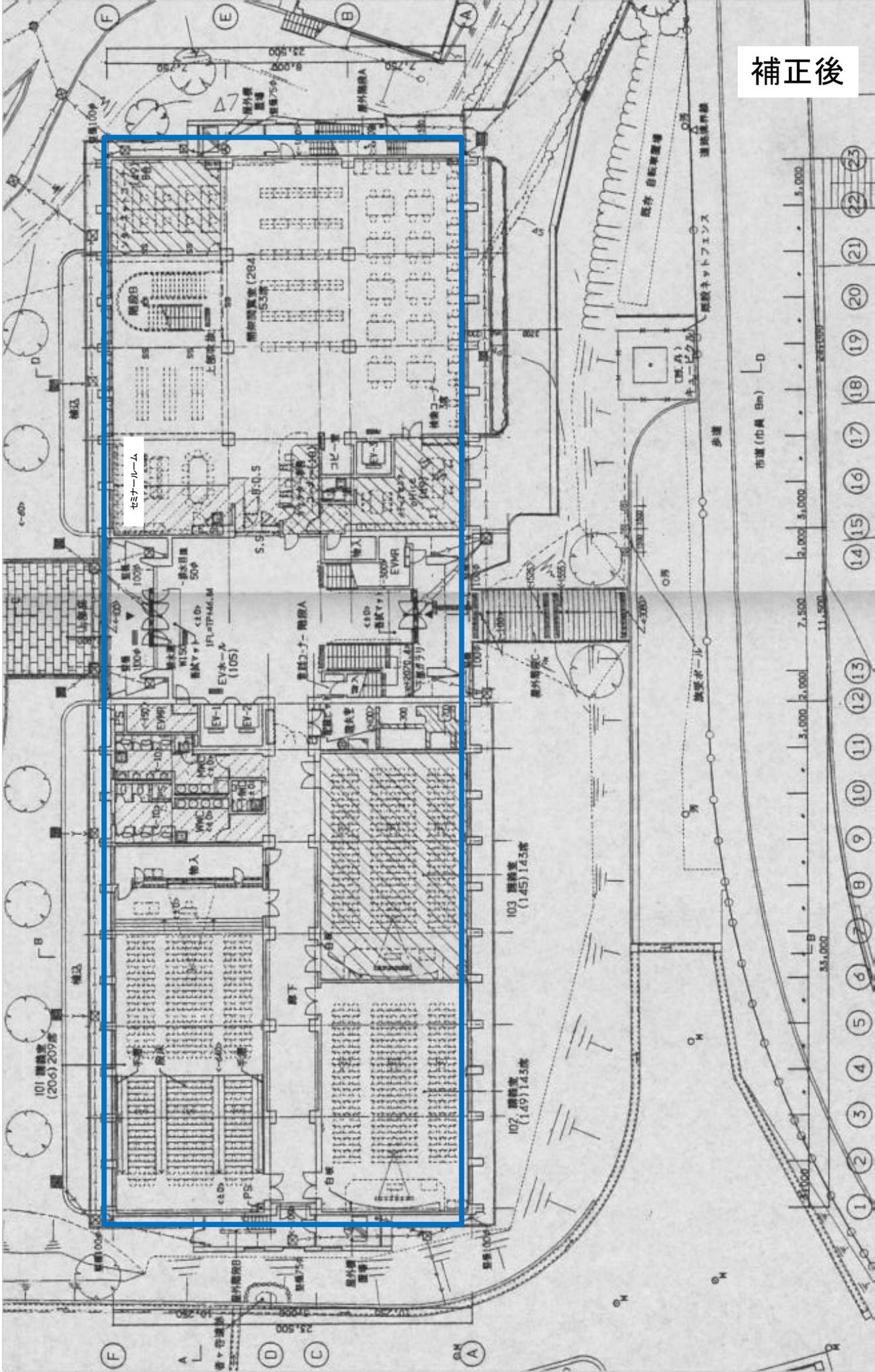


補正後









セミナールーム

101 講義室
(20.6) 209席

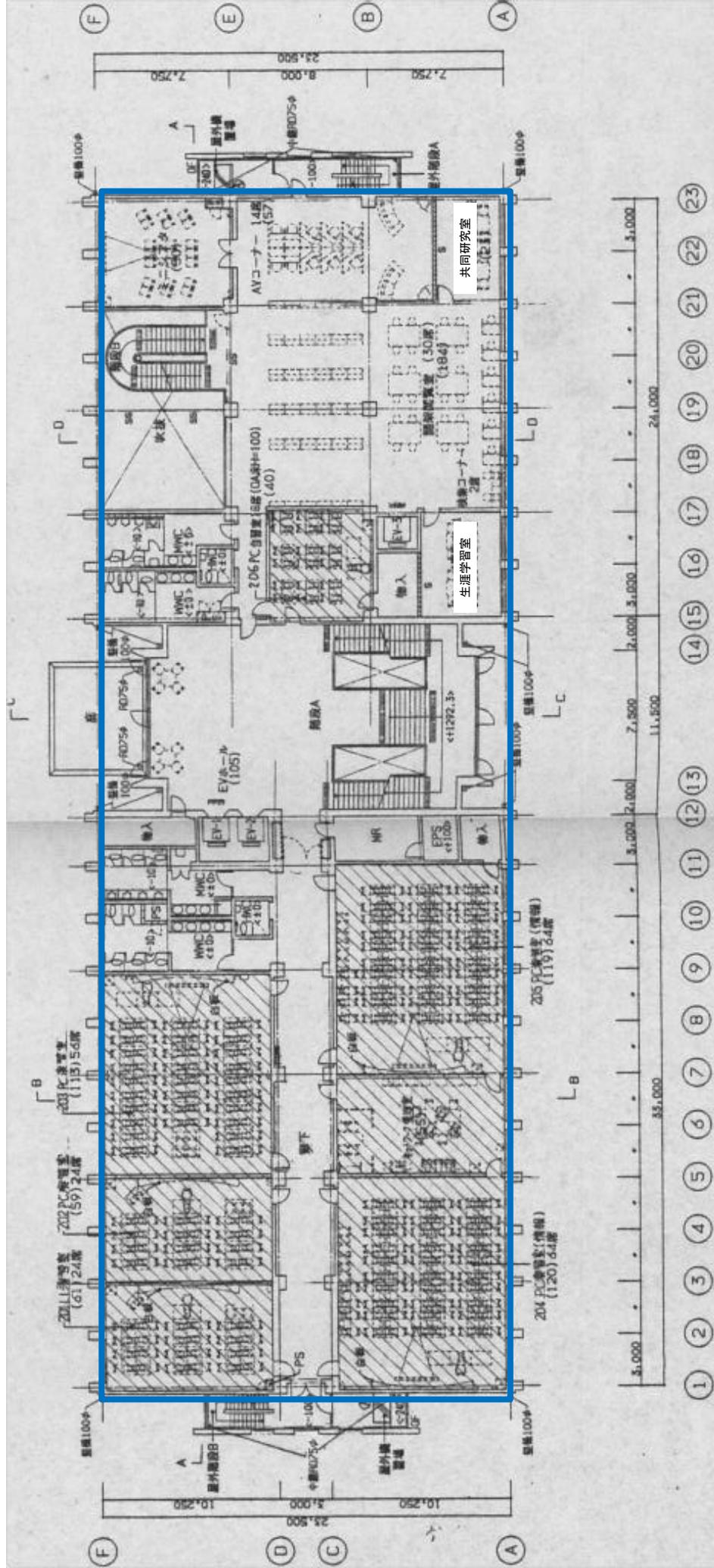
102 講義室
(1.49) 143席

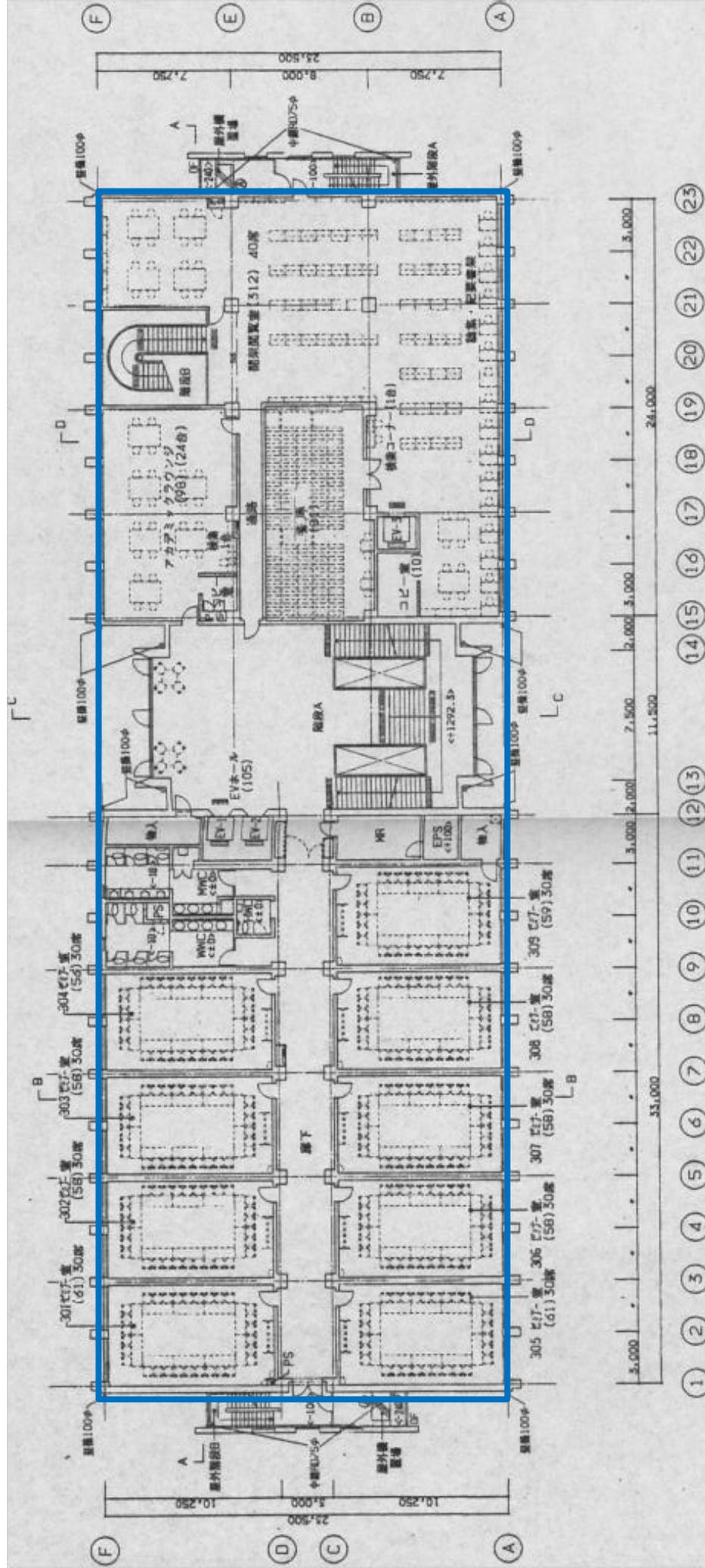
103 会議室
(1.45) 14.5席

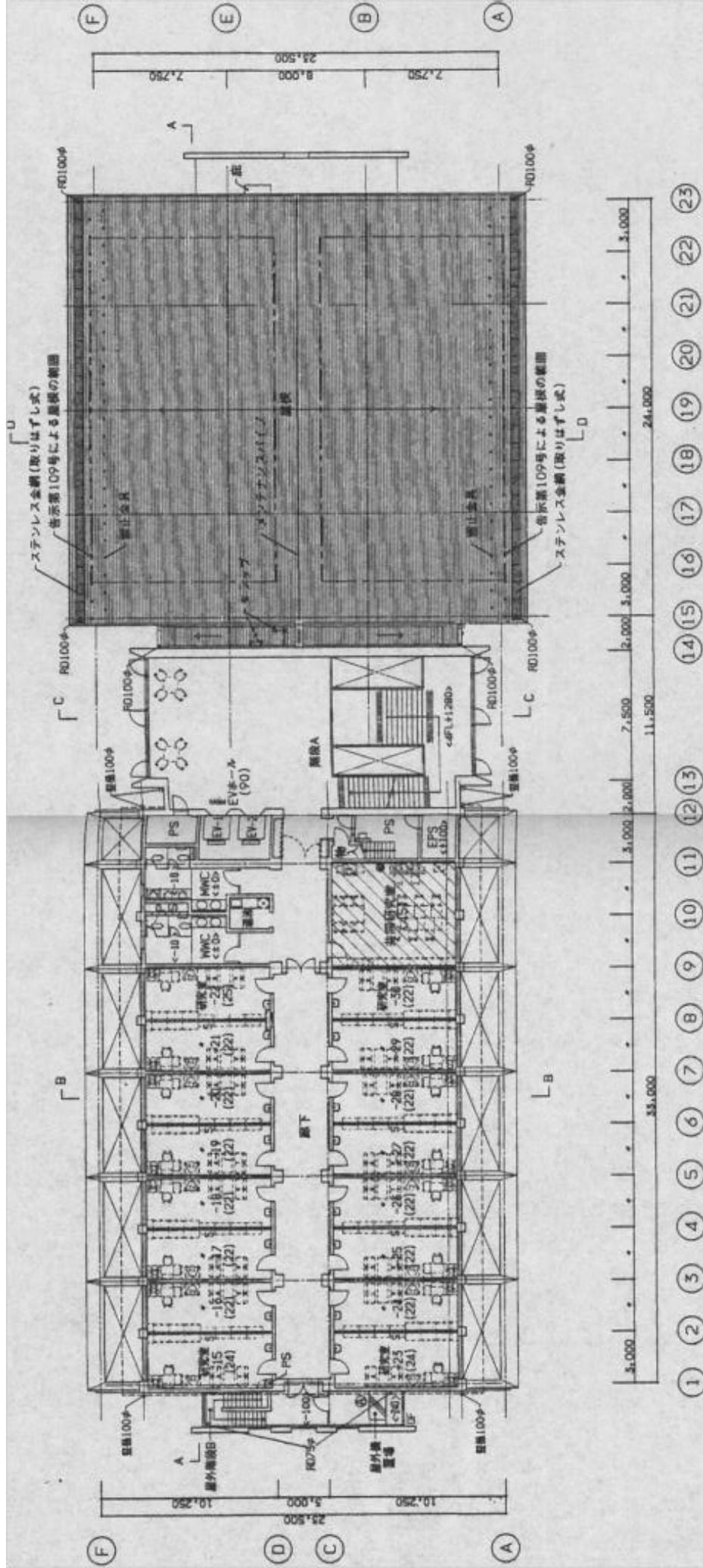
104 講義室 (28.4)
(5.3) 席

市道 (巾員 8m) L-D

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23







BYOD PC の必要とされる仕様について

ディスプレイ	対角 11 インチ以上
メモリ	8GB 以上
記憶装置	SSD 256GB 以上
CPU	第 7 世代(Kaby Lake)以降の Intel Core i7 相当以上のもの
GPU	NVIDIA GeForce GTX1050 相当以上のもの
バッテリー駆動時間	JEITA Ver. 2.0 で 5 時間以上
キーボード	ハードウェアとして備えていること（タッチパネルのみは不可）
無線 LAN インタフェース	IEEE 802.11a/b/g/n 対応であること
画面出力	HDMI 出力端子を備えていること、もしくは変換アダプタで HDMI 出力が可能なこと
音声入出力	マイク入力端子、オーディオ出力端子を備えていること
USB ポート	2 ポート以上（うち 1 ポートは USB3.0 以上）
OS	Microsoft Windows 10
ソフトウェア	Microsoft Office 2016 以上がプリインストールされていること（Excel, Word, PowerPoint が含まれること）

現時点で流通している各機種仕様の仕様を参考に設定した。なお、これはあくまでも現段階での案である。

既にこれに相当する性能のノート PC を持っている者はそれを活用するものとする。

II ヒューマンインタフェース ～複合現実の世界～

- VR/ARコンテンツの開発 等



Head-Mounted Displayx5程度
Intel Realsense D435x10程度
LeapMotionx5程度
LightWave3D Licences
GPSUnit, ActionCamx5程度



- GPU（GeForce GTX1050 等）
- 開発環境：Unity等

- 開発環境：Python
（TensorFlow等）



共用/大規模計算用PCx5程度

- 機械学習，自然言語処理 等

III メディア情報学 ～AIの世界～

IT実習インフラストラクチャ（演習室・無線LANネットワーク）

IV 実世界から情報学へ ～データサイエンスの世界～

- 時系列データ解析
- オープンデータ利用コンテンツ作成 等

※すべてBYOD PCでまかなうことが可能

BYOD PC (¥200,000)

- CPU Intel Core i7
- メモリ8GB以上
- SSD 256GB以上
- HDMI, USB3.0
- Windows10+Office 2016以上
- 開発環境：Python, JavaScript等



LEGO Mindstorms EV3x5程度

Raspberry Pi Display Kitx25程度
OMRON 環境センサx25程度



- 実世界のモデル化とデバイスの運用 等

ITの世界

